

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO

SINCE 1961
GAP JAPAN NEWSLETTER

UFO・ESP・Cosmic Philosophy
コンタクティー

contactee



WINTER
1994

127

UFO出現の国ーメキシコ
ロズウェル事件とMJ12文書
UFO目撃と不思議体験の旅
私もアダムスキー型円盤を見た!
UFOとオーラと想念
奇跡的に難病を治す方法
異星人とUFOの真相(2)



CONTENTS <Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness>

〈巻頭言〉大宇宙力	1
UFO出現の国—メキシコ	久保田八郎 2
ロズウェル事件とMJ12文書	坂本 貢一 10
UFO目撃と不思議体験の旅	沢入達雄、松岡圭一、久保田房子、羽吹秀臣 17
GAP短信	21
科学—SCIENCE	22
私もアダムスキー型円盤を見た!	田口 邦雄 24
身延山に出現した不思議なUFO	若尾 要子 26
私だけが見たUFO	工藤 光博 27
UFOとオーラと想念	山崎 和子 26
奇跡的に難病を治す方法	久保田八郎 32
異星人とUFOの真相②	G・アダムスキー 36
〈写真〉田沢湖上空の光体	山木 益巳 46
UFO contactee バックナンバー 主要記事	47
〈投稿欄〉ユークン広場	48
〈予告〉久保田八郎先生広島講演会	49
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉

1951年3月15日、午前10時30分、アダムスキーが6インチ反射望遠鏡で連続4枚撮影した金星の田舎の4枚目。6機の円盤が田舎から発射されているのが見える。

相変わらず世紀末思想的な不気味な予言類に関する書籍が横行している。特に大昔のある予言者の大予言によって、今世紀末の特定の日に地球が破滅するかなのような記述に満ちた本が出回っているという。

何度も言うことだが、地球人のマインドには恐怖が鉄のサビのようにこびりついているから、恐怖を煽りたてるような情報に接すると、それに同調してしまう。そして「怖いもの見たさ」で、そのような本を読みたくなり、読んだが最後、その記憶は潜在意識に貯

〈巻頭言〉 大宇宙力



蔵されて、ますます恐怖の虜(こゝろ)になってしまふ。ある出版者の雑誌編集者(しゆ)によると、売れる雑誌の二大要素として、ボルノ記事と恐怖心を起こさせるような記事が不可欠だという。

こうしてみると、人間に真の勇氣、山をも動かす強烈な信念、立派な社会を築くための高度な理想主義を植えつけるような雑誌や図書は、ごく少数のものを除いてほとんど見当たらないといつてよい。

価値観の多様な時代だからというので、誰がどのような主義主張を打ち出

そうと自由だという風潮は、マスコミによる表現と報道の自由の謳歌(うた)とともに、人間から思考や思想の柔軟性を奪いととり、むしろ固定観念の呪縛(じゆわく)から逃れられぬ方向へ人類を追いやっていっているのではあるまいか。

わが太陽系の真相にしても、これを隠蔽(いんぺい)する勢力が依然として力を得ているように思われるし、UFOや異星人問題についても荒唐無稽(わうとうむけい)な諸説がまことしやかに流布(りゅうぷ)している。

真実と虚偽を見抜くのは容易(やす)ではないけれども、あらゆるUFO情報の中には絶対的な真実がどこかに存在するのであるから、それを徹底的に追跡してやまぬ姿勢が根本的に重要であるにもかかわらず、自分の好みに合わないという心情的な理由(りゆう)だけで、宝石のようにきらめく重大な事件を調査もせず簡単に否定し、さらには抹殺(もくころ)しようと暗躍(あんごう)するに至(いた)っては、なす術(すべ)もないかというところ、そうではない。

断固たる決意と宇宙のパワーでもって邪悪(じあく)を排除(へいじゆ)すればよいかというところ、そうでもない。

地球をも動かすほどの強烈な信念を内に秘(ひ)めて、ただひたすらに真実の解明とその啓蒙(けいもう)に専念(せんねん)するならば、必ず目的は達成(たっせい)できるのだ。

ただし生半可(なまぬか)な信念ではだめで、百万の敵といえども我往(わがむか)かん式の悲壮(ひそび)な決意も不可(ふか)。

必要なのは自分と大宇宙との一体化

であり、それによって大宇宙(だいうちゅう)を自分の味方(みかた)にするのである。この場合の宇宙とは物理的な空間としての宇宙よりもむしろ、宇宙の創造(そうぞう)パワーである。言いかえれば創造主(そうぞうしゆ)であり、神であるが、しかしこの表現では宗教的に響くから、アダムスキーは「宇宙の意識」と呼んでいる。

ところが多年この用語を使用して宇宙哲学を解説してきたのだが、今一つピントこない人が多いらしく、なかには「宇宙意識」と言う人も少なからず出てきた。これは人間の側(がわ)が持つ対宇宙(たいうちゅう)的な意識であつて意味が全然変わってくる。「宇宙の意識」は大宇宙全体を創造し支えている根源的なパワーと叡知(えいち)を意味する。「の」の字があるのとないのとは意味が完全に逆になるのである。

しかし、この用語ですら具体的な意義(いぎ)が把握(わく)しがたいので、編者はこれを今は「大宇宙力」と言いかえていく。こんな力は物理的に存在しないと学者は言うかもしれないが、これは物理的な意味で称(なづ)けるのではなく、宇宙の創造主(そうぞうしゆ)を象徴的に表現しているにすぎない。名称(めいせう)はなんであれ、創造主(そうぞうしゆ)または神(かみ)という言葉が宗教的に響くので、その意味を持たせた言葉である。

アダムスキーの記述(きそ)によれば、偉大な進歩をとげた別な惑星(わくせい)の人々は睡眠(すいみん)中でさえも宇宙の創造主(そうぞうしゆ)を意識(いし)しているという。これから見ると、創造主(そうぞうしゆ)

るものの認識(にんしき)が人間の発達に根本的な要素(ようそ)をなすもののようなのだが、地球世界(ちきゅうせかい)におけるこの理解(りかい)はまだ微々(みづか)たるものにすぎない。

しかしこの「創造主」すなわち「大宇宙力」は現実(げんじつ)にあらゆる人間と万物(ばんぶつ)に生命(せいめい)と叡知(えいち)を与えながら生かしており、人間も万物もそれによって生成(せいせい)発展(はつぜん)していることは、どのよう(どう)に考えても間違(まちが)いないだろう。

これを意識(いし)しているか否(いな)かで人間のカルマ(カルマ)に大差(だいさ)が生(は)じるように思われる。どのように孤独(こどく)で貧窮(ひんきやう)な生活をすごそうとも、この大宇宙力(だいうちゅうりき)によって生かされていることを心底(こころ)から実感(じつかん)し感謝(かんしゃ)して生活を過ごすならば、今生(こんじやう)を去(さ)つて転生(てんせい)する際に輝(かがや)かしい進級(しんきゅう)が与(たま)えられるだろう。そのような情報(じほう)もある。

一八世紀(いちはちせいき)の機械文明(きかいぶんめい)の勃興(ぼつこう)とともに隆盛(りやうせい)をきわめた唯物論(ぶつぎゆろん)はいま見直しを迫(おぼ)されているが、一方、科学(がく)も重要(じゆうよう)である。なんとなれば我(われ)らの太陽系(たいやうけい)の別な惑星群(わくせいぐん)の偉大な文明(ぶんめい)存在(そんざい)を突き止めて人類(じんるい)の一大覚醒(いちだくせい)を促(うなが)すのは科学(がく)による宇宙(うちゅう)開発(かいはい)であるからだ。特に日本(にっぽん)による惑星(わくせい)探査(たんさ)の実施(じし)を心(こころ)から期待(きたい)したい。それには理由(りゆう)がある。日本(にっぽん)は惑星(わくせい)の実態(じつたい)を隠蔽(いんぺい)することなしに公表(こうひや)すると思(おも)われるからだ。日本人(にっぽんじん)が惑星群(わくせいぐん)の真相(しんじやう)を公開(こうひ)すれば、良い意味(いみ)で世界(せかい)に一大衝撃(いちだくしやう)を与えるだろう。大宇宙(だいうちゅう)思念(しねん)法(ぽう)を続けながら、その日(ひ)がくるのを待つことにしよう。

UFO出現の国—メキシコ



★久保田八郎 〈日本GAP会長〉

UFOと宇宙哲学の研究団体・日本GAPは、一九九四年度海外研修旅行として「アメリカ・メキシコ・コスタリカ宇宙ロードの旅」を八月二日より二日までの一〇日間実施、一五名のグループは全員無事に帰国した。以下はその紀行。(無記名の写真は筆者撮影)

ロサンゼルスへ飛ぶ

八月二日、勇躍成田空港を出発した一行は、翌二日にロサンゼルスに着。ただちに市内観光に移り、世界最大のヨットハーバー、マリナー・デル・レイのレストランで昼食後、専用バスでファーマーズ・マーケット、ベバリーヒルズ、ハリウッドのチャイニーズ・シアター、オルベラ街等、型通りの観光地を回って夕方ホテル・ニューオータニへ入った。

ほぼ全員がアメリカは初めてという人達で、すべてが新鮮に映るだろうが、私はイヤというほど慣れた土地だから退屈になるかというと、そうではな

い。アダムスキー哲学に従って私なりに四つの感覚器官を抑制する絶好の場であると考えて、それなりの実践を試みていた。だいたい今回の旅行ほどに大宇宙思念法を実践しながら歩いた旅は他にない。飛行機やバスの中で絶えず私は宇宙の創造主との一体感を起こすように思念していた。

デザートセンターへ

一三日。朝八時過ぎホテルの自室からコンコード市のダニエル・ロス氏に電話する。七月に私は彼の家を訪問したばかりだが、その後重要な問題が持ち上がったのでその件を問い合わせたのだ。調査してみようと彼は答えた。ふだん寡黙な彼が電話では明快な英語を話すのでスムーズな応答ができた。

九時にバスで出発。目指すはデザートセンター。ここは一九五二年一月二〇日、アダムスキーが金星人とコンタクトした場所として歴史的に名高い。私は何度もここへ来ているが、いつ来

ても飽きることはない素晴らしい土地である。

我らのバスの運転士はロムさんという五二歳になるスペイン系アメリカ人。UFO研究家で、その関係の多数の本を持っているといい、アダムスキーの名を知っているという。これからアダムスキーのコンタクト地点へ行くのだという、非常に喜んだ。ぜひつれて行ってくれという。それでいろいろと話がはずんだ。

例によってサンベルナルディノ・フリーウェイ(国道一〇号線)を疾走する。この高速道はアリゾナ州を通り、フロリダ州のジャクソンビルまで通じている四〇〇キロの道路。これに乗って走りさえすればいやでもデザートセンターへ着く。

一時二〇分に現地へ到着。バスを降りると強烈な熱気が全身を襲う。だがコンタクト地点へ案内して説明すると、さすがに気分爽快になって、むかしのあの日の光景が彷彿としてわきおこる。気温は摂氏四三度。しかし空気が乾

◀一九五二年一月二〇日、アダムスキーが異星人とコンタクトした場所にて。





◀コスタリカの謎の丸い石。

燥してサラツとしてるので不快感はない。今年二月にも三人でここへ来て徹夜で観測したのだが（詳細記事は本誌一二五号に掲載）、冬と夏ではこうも違うものかと思うほど気温差を感じる。ここへ来るのは冬場がよい。

ここへ来る途中、バスからUFOを見た人が何人かいるという。またここでは不思議な虹が東の空に現われるのを全員が見た。

不思議な丸い石

約一時間でバスへ引き揚げる。運転士のロムさんは結局ついて来なかった理由を聞くと、バスを放置して離れるわけにはゆかなかったという。旺盛な責任感に感心する。帰途はどしゃ降りの大雨になった。珍しいことだ。

ロサンジェルスへ引き返してから、深夜の飛行機でコスタリカへ向かって出発。くたびれたが機内では眠れない。結局徹夜する。

六時間後にグアテマラ空港へ寄ったが、この頃から鼻水が出始めた。鼻風邪をひいたらしい。

一四日。七時四〇分にコスタリカの首都サンホセの空港着。ここでメキシコの名ガイド、ヤマダ氏、GAP会員の伊藤睦史君と再会する。同君は青年海外協力隊の一員として隣国パナマで活躍しているが、今回は休暇をとって会いに来たのである。同君の記事『生命と物質と超能力』が本誌一二五号に掲載されている。

コスタリカに関する詳細は省略しよう。仲間の一人で病院勤めの山崎和子君が風邪薬の良いのをくれたので、それを飲んで、夕食会を遠慮して早くから就寝した。

七時半頃、突然アメリカのダニエル・ロス氏から電話がかかってきた。ロサンジェルスで私が伝えた重要事項

を調査したところ良い結果が出た、それを早く伝えようと思ったという。

それにしても私が南米に近いコスタリカの首都サンホセのバラシオ・ホテルにいたことがどうしてわかったのかと聞くと、いったん日本のGAP会員・坂本夫妻に連絡して知ったという。いやはや責任感旺盛だ。誠実に感嘆する。

一五日。熟睡して風邪が全快した。薬が効いたらしい。山崎君に感謝。この日、国立博物館に入って、その中庭に丸い大きな石の球があるのに驚いた。これはコスタリカで出土したもので、いつ頃、誰が、何の目的で作ったのか皆目不明。昔、エーリッヒ・フォン・デニケンが紹介して世界的に有名になった。

ほぼ真球に近く、高さは二メートル近くある。大小合わせて四〜五個おいてあるが、こんなものがここにあるとは知らなかったのだ、これを見ただけでコスタリカへ来た甲斐があった。超古代に宇宙から来た訪問者と関係があるといわれているが、相当な謎を秘めていることは確かだ。

謎を秘めた テオティワカン

一六日。早朝四時に起床。七時一五分離陸。九時五〇分、メキシコ空港着。一時半にテオティワカンの大遺跡着。メキシコ北東部約五〇キロの大盆地に



▶テオティワカンの太陽のピラミッド。

は太陽のピラミッド、月のピラミッドがあり、メキシコ最大の観光目玉になっている。何度も来たので私には新鮮味はないが、メキシコの古代文明に影響をおよぼした最重要な遺跡であることは間違いない。

紀元前からこの土地に謎の種族が住んで絢爛たる文化を築いたが、七世紀末と思われる頃から別な謎の蛮族が侵入して破壊した。以来廃墟と化していたのだが、一九一〇年、太陽のピラミ

ツドを修復中、監督の考古学者レオポルド・パトレスが熱中のあまり、元は四層であったものを五層に変形させてしまった。したがって現在の太陽のピラミッドは無残な姿になってしまったというのが考古学界の定説である。だからこれは『パトレスのピラミッド』と呼んでもよいものだが、まあいいだろう。でかい物に人は驚くのだから――

ホアン・デイエゴの奇跡

四時半頃市内のグアダルーペ大聖堂へ行く。ここは奇跡が生じる世界の三大聖地の一つで、その由来は次のとおりだ。

現在の首都メキシコ市はアステカ帝国の首都テノチティランであったが、一五二一年にスペイン人に占領されてから、一〇年後、スペイン人に破壊しつくされたアステカの神殿跡のテペヤクの丘に、ある日ホアン・デイエゴという原住民の男が立っていた。

すると突然、岩の陰から長い衣を着た褐色の女性が現われた。顔つきはやはり原住民のそれである。

女性は自分が聖母マリアであると言いつつ、この土地に大聖堂を建てるように大司教に伝えよと、インディオの方言のナワトル語で話しかけた。デイエゴはすぐに大司教に話すが、何を寝ぼけているんだと全く相手にされない。

再度出現した自称「聖母」にそのおねを伝えると、テペヤクの丘に薔薇の花が咲いているので、それをマントに包んで大司教の所へ持参せよという。

そこでデイエゴが土の肌の丘へ登ると、不思議にも薔薇の花が咲き乱れているので、それをマントに包んで大司教のもとへ持参すると、開いたマントの布地に聖母マリアの姿が鮮明に浮かび上がっている。驚愕した大司教はこれこそ聖母の奇跡だと信じて、その地へ大聖堂を建立した。以来、『グアダルーペの聖母』（メキシコの守護神）として崇敬的になった。

何やらフランス、ルールドの聖女ベルナデットの例とよく似ているが、時代に大差があるので、両者は全く無関係である。

この大寺院に参詣すれば奇跡的に難病が治ると信じられており、実際にその実例が無数にあるという。元の大聖

▲デイエゴの黒マント。



堂は地盤沈下で傾いたので、現在は横に近代的な大聖堂が建てられている。

デイエゴの奇跡のマントは今も大聖堂の横の入口近くの壁に高くかけられており、見物人がその下に密集しないように平らなエスカレーターで運ぶので、イヤでもすぐに押し出されてしまう。だから立ち止まってじっくり観察する余裕はない。うまいことを考えたものだ。

大聖堂内部ではミサが行なわれていた。意外にもインディオの若い男女が多い。いいことだ。形而上の世界を求めて心の安らぎを得ようとする態度は、唯物論に毒されてわがまま放題になる文明国人よりも一歩上を行っていると見えるかもしれない。壇上の司教が片ひざをつけて礼拝している姿が印象的だった。

ルールド、グアダルーペ、ポルトガルのフアテイマに共通するものは、そこはかとなく宇宙的なニオイである。私はいずれもUFOが関係していると思うのだが、ここで詳述する余裕はない。

奇跡の水を求めて

一七日。今日は奇跡的に難病を治すといわれる不思議な水をもらいに行く日だ。この水については、昨年メキシコへ来たときに現地ガイドのアルトゥーロ・ヤマダ氏が伝えてくれて初めて知ったのである。

それによると、氏の奥さん（スペイン

ン系の白人）の腹部に腫瘍ができた。医師はガンかもしれないので手術する必要があるという。たまたまケレタロ州トラコテ村に奇跡の水が出て難病を治す効果があることを聞いたヤマダ氏は、現地へ出かけて水をもらい、それを奥さんに飲ませた上、腫瘍のできた腹の表面に水を塗ったところ、そこからシューシューと水蒸気のようなものが始り出して、それきり治ったという。まったく奇跡以外の何物でもない。

これを聞いた私達は今年の旅行にもメキシコを加えて、その水を持ち帰ろうという計画を立てた。それが実現することになったのである。もつとも、私の場合は昔、フランスのルールドの聖泉の水を現地で合計一升も飲んだし、裸にされて聖泉にもつかったのだが、軽い慢性持病はピクともしなかった。だいいち病気を治す原動力は強烈な信念にあることを誰よりもよく心得ているので、私自身の持病の快癒は期待しなかつたものの、しよつちゅう体の不調を訴える家内に飲ませたいばかりに、笈ならぬポリ容器を背負って来たというわけである。

謎に満ちたメキシコ

トラコテ村はメキシコ・ケレタロ州の寒村で、メキシコ市からグアダラハラへ通じる国道五七号線を北東へ行き、約三〇〇キロの州都ケレタロ市の郊外



▲メキシコ、ケレタロ州トラコテ村の奇跡の水の供給地。

にある。

九時すぎにバスで出発。ここはメキシコ中部高原地帯で、標高は大体に二二〇〇メートル。摂氏二度。東京の四月中旬並みの気温なので少し寒い。暑さには滅法強いが寒さに弱い私はバスの中でモモヒキを出してはく。

途中、トゥーラで古代トルテカ族の遺跡を見学する。残忍を極めたトルテカが残した骸骨の浮き彫りなどがある。しかしトルテカの勇猛果敢なジャガー軍団、ワシ軍団などはメキシコ中南部に多大な影響を与えているので、その歴史は見逃せない。

ヤマダ氏によると、メキシコ全国に渡って古代の各種族が残した未発掘の遺跡がまだ三五万箇所もあるという。無数とも言えるピラミッドを何のために建造したのか、すべては謎である。謎に満ちた国、これがメキシコだ。

途中二時すぎにラ・マンシオン・ガリンドという豪華なホテルで昼食。ここは一六世紀にスペイン人が建てた大邸宅だったが、現在はホテルになっている。スペイン風の広い中庭に面した回廊でウェイター達にかしずかれてメキシコ料理を賞味すれば大金持ちになったような気がする。

水の由来

三時半にバスで出発。快晴下、広漠たるトゥモロコシ畑が展開する中を疾

走。片側二車線の立派な舗装道路が延々と続く。

午後四時四〇分に現地に到着した。ところが人の気配がない。ここでポリ容器を売っているアルマンドという人の説明によると、現在は水の供給時間が午前一時から午後二時までの三時間に限定されており、今は提供者が不在のため水はもらえないという。拍子抜けした一同は明日来ることに引き揚げた。

アルマンド氏の話によると、この水が公開された三年前の初期の頃には世界中から水を求めて来た人の行列が連日八キロも続いたという。そのためか塀の中の広い中庭には行列を待機させるための屋根付きの待合所が長いN字型に作ってある。

この水の由来はこうだ。一九八七年、メキシコ市に本宅を持つヘスス・チャイン氏が、この農場を買い取ってまもなく、飼い犬が他の犬に噛まれてケガをしたので、農場にあつた井戸の水で洗ってやると、瀕死の重症を負った犬が生き返って元気になった。飼っているニワトリ、ブタ、牛にも水を飲ませたところ病気が消えた。氏が飲んだら背中や腰の痛みが消えた。

そこで不思議な水だということに気づいて九一年三月から公開し、人助けのために無料で与えることにした。そのうちガンやエイズが治るといふ噂は急速に伝播し、世界から人々が殺到し

て八キロの行列にもなった。実際にガン、エイズ、糖尿病などの不治の病が治った例があるという。

チャイン氏に会う

翌一八日。前夜テキスカアパンのホテルに一泊した私達は、少し早めに再度現地へ急行した。八キロの行列に入られてはかなわないというので、前日ここへ来た日本人の団体であるむねを伝えておいたためか、私達は優先的

◀チャイン氏(右)とヤマダ氏。



に中へ招き入れられた。

チャイン氏は五二歳。がっしりした体格の白人タイプの人で、黒眼鏡をかけて皮ジャンパーを着ている。そのジャンパーの左胸にはなんと日の丸のマークがついている。

この建物は平屋で一見工場風だが、内部は事務室と研究室になっており、左奥に水を汲む部屋がある。野外の石造りの粗末な井戸を想像していた私は、意外に立派な設備に驚いた。ポンプで汲み上げた水は外部に設置してある数個の巨大なステンレスのタンクに貯蔵し、そこから屋内にパイプで水を引く。したがって野外で原始的に水汲みをするのではないことがわかった。

ヤマダ氏がまず私達を日本のUFO研究団体として紹介する。チャイン氏の話がスペイン語で始まった。ヤマダ氏が克明に通訳する。

「水はすべて無料です。現在水を飲んだ人から来たレポートが約十万人ほど保管してあります。中にはガンやエイズが治ったという人のレポートも来ていますし、ここで水をもらって飲んだ人は何らかのかたちで体がよくなっています。」

日本のM商事の仲介でこの水が研究された結果、これと同じ水は地球上に存在しないことがわかっています。この水は普通の水よりも相当に軽い水です。それにこの水は全然腐りません。一九八九年に汲み揚げた水がまだ腐っ

ていません。日本から何人かの人が水をもらいに来ましたが、ほとんどの方が体が良くなったというレポートをよこしています。

古代のチチメカ族が書いた象形文字によると、この地区が将来、人間が健康になって平和な世界ができることを予言していたとなっています。

この壁にかけてある絵はアルゼンチンのUFO研究者が描いたもので、アメリカやイギリス、ドイツのUFO研究者達も、この地区に大昔、円盤が降りて、地下三万メートル(三〇キロ)の所にクリスタルのピラミッドを建設し、そのピラミッド(複数)のあいだの所から特別なパイプみたいなものが上に伸びていて、そこからこの井戸に水が溢れていると言っています。この水は年月が経過するほど純粋な水になってきていますので、いつかはこの水であらゆる病気が治るようになると思っ

ています。ここへは円盤が何度も来ていますので、この地下にピラミッドがあると

いうのは、円盤と何かの関係があると思われる。現在この水はアメリカ、カナダ、メキシコの専門家が毎日研究していき、結果としては先程申しましたとおり、いつかこの水が我々地球人のすべての病気を治すクスリになるのではないかとみえています。

(壁にかけてある地下三〇キロのピラ

ミッドの絵を指さしながら)この絵はアルゼンチンの研究者が描いたもので、自分で研究した結果を絵にして私に送ってくれたのです。このように、ここにはUFOを研究している人達が大量にいますので、各自の研究した結果がこのようにいろいろな新聞に掲載されました。

(壁にはこの水のことを報じた世界中の多数の新聞が額縁に入れてかけてある)

アステカの古代宗教の秘伝を継いでいる神官がいます。その人は七歳のときに特殊な超能力が現われて、古代のアステカやチチメカ族などの象形文字を手で触るだけで意味がわかる人です。

彼が今までにチチメカの象形文字を解読した結果では、二、三万年前からこのトラコテの水のことが書いてあるというのです。研究された結果では、この地球の他の場所にはこんな水はありませんので、チチメカの象形文字の意味では、二、三万年前から円盤がここに降りてきて、特別な機械を使用してこの地下三〇キロメートルの所にピラミッドを造りました。そのときからこの水が出ていたのです。

チチメカ族はそのときからこのことはわかっていたのですが、スペイン軍が来てからメキシコ文明の記録がほとんど破壊されましたので、そのためにチチメカが知っていたことが消えたのです。

私としては、この水の特殊性の発見には日本人の研究者が応援してくれましたので、今後も日本人が協力して下さって、この水を世界中に送りたいと思っています。

チチメカの象形文字には二万年前から日本人、犬、水、太陽などが記録されているので、やはり日本人がこれに関係しているのではないかと思いません。

アメリカのNASA(米航空宇宙局)がここの水を研究しています。宇宙空間に打ち上げられている衛星による写真にはこのトラコテの水が写っています。ですからこの水を宇宙の水と呼ぶ人もあります」

チャイン氏の話はまだ長く続いたが、ここでは収録しきれない。とにかく日本人に特別な親近感をいだいているらしい。この水は年がたつにつれて純粋になる。現在は四九パーセントしかパワーが出ていないが、いつか一〇〇パーセントのパワーが出ると思われる。そうなれば不老長寿の水になる。これを平和の地球、健康な地球にするように利用すれば素晴らしい世界になる。この水を毎日四滴から五滴飲むだけでも人間の現在の能力が倍以上になると思う、と言う。とにかく、この水によって世界の平和を実現させようという意気込みらしい。

氏の話しぶりはきわめて真剣で、この種の奇跡につきもののいかかわしい

霧^{きり}閉^ひきはない。チャイン氏はメキシコ市のかなり裕福な家の生まれで、大学を出ており、農場の経営で収益があるので、水を商売のタネにする気持ちは全くなくて、ひたすら人類の健康と福祉のために役立てようという悲願に燃えている人なのだ。ヤマダ氏は言うていた。

地下三〇キロの所にピラミッド群があるというのは首をかしげたくなるような話だが、一応聞いたとおりを伝えておいた。

水を飲む

やがて私達は左側の水汲み場へ案内



◀水を汲むチャイン氏(右)と助手。

された。意外に狭い部屋で、入口に相対する壁一面に小型タンクが設置してあり、ビニールの細いパイプが十数本垂れている。チャイン氏がその右端のパイプの下端をつかんで、真つ先に私の容器を水で洗ってから、五リッター入りの容器と小さいビン三個分に水をつめて渡してくれた。そのうちの二個はGAP会員二人から依頼されたものである。チャイン氏みずからかがみ込んで一生懸命に水を汲む。助手の男が二人いて、計三人でやっている。

屋外へ出ると行列は全く見られず、十数名の人がたむろしているだけで、またも拍子抜けした。もう群集は押しよせないのだろうか。

自分用の小ビンの水をコップ一杯飲む。うまい。非常にまろやかな感じで、東京の水道水とは比較にならないほど味がよい。この水は帰国後、毎日コップ一杯ずつ飲んだが、軽い慢性持病は一向によくならない。家内は五日ほど飲んでから、効かないといってやめてしまった。

この水が一〇〇パーセント効くわけではない(つまり百人が百人とも効くわけではない)とも聞いていたので、効かない例も沢山あるのだろう。それはルールドもそうである。とすると効く人は「これを飲めば必ず治るんだ!」という強烈な信念が作用したのだろうか。

効く人には効く、効かない人には効

かない。このパターンがつきまといていられない。だが末期ガンやエイズの人がこの水で全快した事実が存在するので、そうなれば治った人にとってはまさに起死回生の神薬であり、救いの女神であろう。したがって本物かニセ物かの論議よりも、効くか効かないかの一点に集約される問題であるといえよう。宝クジに当たるか当たらないかと同じことだ。

巨大野菜を作った人

このあと私達はバレ・デ・サンディエゴの町へ行った。ここに住むオスカル・アレンド氏に会うためである。この人は異星人から巨大な野菜の作り方を教えられたというので有名になった。現在は町で写真スタジオを経営している。

雑然とした写場へ入るとア氏がやってきた。やはり白人タイプで灰色の目が鋭い。早速ヤマダ氏の通訳で氏の話が始まる。

「この近くの死火山の付近に住むカルメロ・ベダという農民が最初に異星人とコンタクトして巨大な野菜の作り方を教えられたのです。その人は今アメリカのNASA(米航空宇宙局)へ呼ばれてダラスへ行っています。

その次に私が異星人とコンタクトして巨大な野菜の作り方を教えられたものですから、その種子の作り方を一般

の人に伝えて、食物に困っている人々を救おうとしたのですが、政治経済関係で政府からストップをかけられて、六年前から栽培を控えています。

私が異星人から巨大野菜の作り方を

▲アレドンド氏 撮影/羽賀純一



教えられたのは一九七〇年の三月です。最初はカリフラワールの四六キロのものを栽培しました。それからそのカリフラワーを自然に生かして、その種子を利用して倍以上のものを作ろうと思っていました。現在の地球人は、なぜそんな巨大な野菜が作られたのかを理解する力がないので、人間の心を純粹なものにもどしてから、その作り方を伝えるのが正しいと思うようになったのです。そしてその種子にはホルモン関係があるので、人間の体を大きくするという目的でなしに、人間の脳と魂と心を純粹にするために、その技術を人間のホルモンに応用してみたいと思っています。



▲アレドンド氏が作ったという46キロのカリフラワー。(現地資料)

私はいまメキシコとアメリカの両政府から巨大野菜を栽培することを止められていますので、その野菜の写真を絵ハガキに出しています」

ここで多くの絵ハガキを出して見せる。

その他にもいろいろと話してくれたが、大要を記すと、今から五く六万年前の人間は男女の区別がなくて両性がかねていたために、その当時の人々は愛の問題を知らなかったから、脳がず

法則について考えていた。大体に三つの法則があるように思う。

①大宇宙には根源的なパワーと叡知がある。それは創造主と呼べる。万物は創造主そのものであって、言い換えれば創造主そのものの現われであるから、万物を崇敬しなければいけない。

②万物にはすでに完全な青写真が個々の中に描かれている。これをめざして完全な姿になるように万物は生成発展している。人間も自分の完全なイメージを描き続けねばならない。

③宇宙の万物は親和力によって結ばれている。人間もそれを認識して調和しなければいけない。これを「愛」と呼んでもよい。

九時前頃、以上の事柄について思いをめぐらしていたら、左手の遠い山の低い空にオレンジ色の強い光体が静止して浮かんでいるのが見えた。最初は山に高い塔があつてその先についているライトかと思つたが、約三〇秒後に消えた。全天曇り空なので星ではない。なおも法則について考えていたら九時四〇分頃、左手の仰角約一五度の上空を急速に左から右へ移動する光体を見た。点滅しない。やがて見えなくなつた。

するとまもなく、またも左手上空に光体が出現、すぐに消えた。

UFOPU現の国メキシコ



▲インディオの少女とトウモロコシ畑と遠い教会。
(ケレタロ州ラ・オヤ・テル・リンコン・テ・パレンゲオ村にて)

しかしメキシコはむかしからUFO出現のメッカであり、素晴らしい目撃体験や着陸事件、コンタクト事件等が続出している国だ。これは無視できない。ケレタロ州だけでも頻繁にUFOが目撃される事例をテキスキアパンのホテルで聞いた。

旅行中は松岡圭一君(秋田県)その他の皆さんから多大なお世話になった。あらためて感謝したい。

奇跡発生!

以上までの原稿を書いて割り付け(レイアウト)し、九月二日に印刷所へ渡した日の夕方、旅行団のメンバーの一人の羽賀紘一氏(兵庫県芦屋市・五二歳)から八月三〇日付で奇跡発生の報告第一号が入った。以下はその内容。(原文のまま)。

「前略 只今は旅行時の記念写真を送付いただき、ありがたく拝受いたしました。心から厚く御礼申し上げます。早速、アルバムに納め、良い思い出として保管いたします(編注)これは八月一三日にデザートセンターのコンタクト地点で筆者が撮影した全員記念写真。帰国後参加者全員に贈った)話は変わりますが、トラコテの水で奇跡がおこりましたので、お知らせいたします。

わたしは愛用しているクルマ、ニッサンのシーマの販売会社セールスマンの方ですが、もう三〇年おつきあいしている方で、年齢は六〇歳をこしている方です。

この方が、先日近くまで来たからとご機嫌うかがいに我が家に立ち寄られ、女房と雑談した際、じんそう結石で腰が痛くて困っている、近々手術をするのだという話ができました。

たまたま女房が、トラコテの水の話をして、コップに一ぱい、この方に飲ませたそうです。

「ご本人は大変喜んで帰られたのですが、翌朝、本人からTELがあり、すっかり腰の痛みが消え、下半身がうそのように軽く、すっきりして、治ったと言ってきました。

「当方も驚いたのですが、さらに三日後に再びTELがあり、その後まったく快調で、すっかり治ったと喜んでおり、トラコテの水は確実に効き目があったと言っております。

それにしても不思議なのは、特に用事があるわけではなく、何げなく立ち寄り、トラコテの水を飲むチャンスにめぐりあえたことです。

「以上のような事実がありましたので、取り急ぎ報告いたします。では又。」

一九九四、八、三〇 羽賀紘一

やはり奇跡は発生した。一人でも奇跡的に難病が治れば、本人にとっては地獄から天国への転生である。この事実を無視するわけにはゆかない。

しかし治る人と、治らない人との区別は何によってなされるのか、ここにきわめて神秘的な要素があるように思われる。結局は謎なのだ。

べつだん用事はないのに、急に思いあって羽賀氏の家にふらりと立ち寄った。これは何かが本人を引き寄せたのではないだろうか。

「何が引き寄せたのか。これも謎である。ただ「トラコテの水は、誰かには効く」としか言いようがない。

ロズウェル事件とMJ-12文書

■坂本貢一

ロズウェル事件とは

世界のUFO研究史上で名高いロズウェル事件とは、一九四七年七月八日、米国ニューメキシコ州のロズウェル陸軍航空隊が、近郊の牧場内に墜落した空飛ぶ円盤の残骸を回収したと発表し、その日のうちに、回収したのは実は気象観測用気球の残骸であったという訂正発表を行なった事件である。

その訂正発表にもかかわらず、以後も当地の住民の間では、「軍はやはり円盤を回収したようだ」さらには「彼らはそのとき乗組員（小人宇宙人）たちの遺体も回収したらしい」という噂さえ、ささやかれ続けた。

そして、ご存知の読者が多いと思うが、四〇年後の一九八七年、米国政府の機密文書とされる「MJ-12文書」の出現とともに、この事件は再び大きくクローズアップされることになった。

同文書（一九五二年一月一八日作成）によると、ロズウェル事件から二カ月後の一九四七年九月、「MJ（マジエステティック）-12」という名の極秘UFO調査委員会がトルーマン大統領の命令で結成され、その活動を開始し

たという。そして、政府高官、軍人、科学者ら一二人からなるその秘密委員会の最初の調査対象となったのが、ロズウェルで回収された円盤の残骸と乗組員たちの死体だったというわけだ。MJ-12文書が伝えているロズウェル事件関連情報の概略は次のとおりである。

一九四七年六月二四日、ある民間パイロット（ケネス・アノルド）がワシントン州のカスケード山脈上空を飛行中、九機の円盤型飛行物体を目撃した。そして、特にその報道がなされて以来、同種物体の目撃報告は増加の一途をたどることになった。

それを受けて、軍の諸機関はその飛行物体の正体を解明すべく調査活動を開始したが、その調査は困難を極めた。しかし、ニューメキシコ州のある牧場主から、ロズウェル陸軍航空基地（現ウォーカー空軍基地）の北西、約二二〇キロの彼の牧場内に同種物体が墜落したという報告がなされて、事態は一変した。

一九四七年七月七日、その物体（残骸）の回収作業が秘密裏に開始された。だが、その作業中、航空機による上空

からの調査で、残骸回収現場の東方約三キロの地点において、その物体が爆発する寸前に投げ出されたと思われる人間に似た小型生命体の遺体が四体、発見されたのである。それらは、死後約一週間に渡り捕食動物と大気にさらされ続けたことで、著るしく変形していた。それらの遺体は特別科学研究チームの手で回収、移送され、飛行物体の残骸も回収後にいくつかの異なった施設へと移送された。

軍は目撃者たちに対して軍人、一般市民を問わず、見たことを口外しないよう強く念を押し、記者連中に対しては、気象観測用気球が墜落しただけだという効果的なニセ情報を提供した。残骸に関する秘密研究の結果、その飛行物体はおそらく地球以外の天体からやってきた短距離用偵察機であろう、という仮説が立てられた（一九四七年九月一九日）。

四つの死体に関する研究では、彼らは外見は人間に似ているが、生物学的にも進化的にも、ホモサピエンスとは全く異なった生命体のようなという結論が出され、より詳細な事実が判明するまで、彼らを「地球外生命体

(Extra-terrestrial Biological Entities) あるいは、その頭文字を取って「EBE」と呼ぶことが決定された。

また、残骸の中からは文字とおぼしきものが多数発見されているが、その解説にはまだ成功していない。この飛行物体の推進原理、動力源等についても、今のところ全く不明である。

バーリツらの活躍

このMJ-12文書により一躍クローズアップされた感のあるロズウェル事件だが、実はその文書がリリースされる七年前の一九八〇年に、「ロズウェル事件」というそのものズバリのタイトルの本が出版されていた。「パミューダ・トライアングル」の著者であるチャールズ・バーリツと「フィラデルフィア実験」の著者でUFO研究者としても名高いウィリアム・L・ムーアの共著である。

その本でバーリツとムーアは、ロズウェル事件に直接かかわった人々、及び、それらの人々の家族や友人たちからの確度の高い情報をもとに、その事件の全容を見事に浮き上がらせている。そして興味深いのは、その生々しい真相（少なくとも私にはそう感じられた）と、後年登場した右のMJ-12文書の内容との間に微妙な食い違いが存在するという事実である。

バーリツとムーアが突き止めたロスウェル事件の顛末は以下のとおりである。

一九四七年七月八日朝、ニューメキシコ州ロズウェル陸軍航空基地（現ウォーカー空軍基地）の広報官、W・G・ハウト中尉により、「ロズウェル声明」として知られる次のような内容の記者発表が行なわれた。

「空飛ぶ円盤に関する噂は、昨日ロズウェル陸軍航空基地の第八空軍五〇九爆撃隊情報部が、ある牧場主とチャピス郡保安官事務所への援助を得て一機の円盤の回収に成功したことで、現実となった。

その飛行物体は、先週、ロズウェル近郊のある牧場内に墜落したものである。それを発見した牧場主は電話を持たず、それゆえ、保安官事務所への報告のびのびになつてしまった。その牧場主からの情報は、保安官から五〇九爆撃隊情報部のジェシー・A・マーセル少佐へと伝えられた。

続いてすぐに行動が取られ、墜落した円盤はその牧場から回収された。そしてその円盤は、ロズウェル陸軍航空基地での調査の後、マーセル少佐により、ある上級機関へと輸送された。

この発表は、AP通信をはじめとする様々な通信社を通じて、国内外の多くの新聞で報じられることになった。

地元のロズウェル・デイリー・レコード紙も、一面トップで、「ロズウェル

陸軍航空隊、ロズウェル近郊の牧場で空飛ぶ円盤回収：空飛ぶ円盤に関する詳細は不明」と題する記事を掲載している。

猛スピードで飛ぶ光体

その記事には、ハウトの発表内容に加えて、軍が回収した円盤と同一物であると思われる円盤の飛行を目撃したというロズウェル在住の金物商夫妻が紹介されていた。

「一九四七年七月二日の夜九時五〇分頃、自宅のポーチでくつろいでいた金物商、ダン・ウィルモット夫妻（ロズウェル市サウスペン一〇五在住）は、南東方面から接近してきた大きな光体が頭上を猛スピードで通過して北東方面に飛行していく様を目撃した。

ウィルモット氏によると、その光体は二枚の皿を向かい合わせてくつつけたような形をしており、内側から光を発しているようだった。飛行高度は四五〇メートル程、物体の直径は五〇六メートル程と目測した。そして、見えてから北東方面の筒の向こうに姿を消すまでの時間は四〇五秒だったという。ウィルモット氏にはいかなる音も聞こえなかったというが、夫人は、その物体が頭上を通過する際にシューッという音を聞いている。」

ニューメキシコ州が脚光をあびた理由

当時、ニューメキシコ州とアリゾナ州では円盤が特に頻繁に目撃されていたが、バーリツとムーアは、その現象の理由として、一九四〇年代後半、ニューメキシコ州が米国の戦後防衛研究の一大センターとして機能していた事実をあげている。

世界初の原爆製造の地であるロスアラモスは一九四七年時点でもなお「秘密都市」であり続けていた。アラモゴード付近のホワイトサンズ・ミサイル発射実験場でもまた、米国製の鉄のカートンの中、第二次大戦で押収したドイツ製V-2ロケットその他に関する実験・研究が進められていた。さらにロズウェルには、当時世界唯一の実戦的核爆撃隊であった米国第八空軍五〇九爆撃隊が駐屯していた。

「この惑星の文明の動向を調査する任にある特定の異星人情報機関群が、地球最高レベルの軍事研究活動が展開されているニューメキシコ地域の集中的な調査活動にあつていたとするのは、極めて論理的な推論である」というのが、バーリツとムーアの見解である。

二七情報を流す

さて、いわゆる第一次UFOブームの真最中であつたこともあり、米軍が

空飛ぶ円盤を回収したというニュースはあつというまに世界を駆け巡つたが、冒頭でも紹介したように、その記者発表の数時間後、その内容を翻す新しい声明が発表されることになった。

「ロズウェル陸軍航空隊が回収した物体は、墜落した気象観測用気球だった。」

次の日の一九四七年七月九日、ほとんどの新聞がその訂正発表をいっせいに掲載した。

軍の上層部が急速に動いたようだ。ムーアとバーリツの調査によると、空軍参謀次長ホイト・ヴァンデンバーグ中将の命を受けた第八空軍地区司令官ロジャー・M・レイミー准将から、七月八日の記者発表後まもなく、ロズウェル航空基地司令官ブランチャード大佐のもとに、回収した円盤の残骸を至急フォートワースに送るよう連絡が入つたという（第八空軍基地指令本部はテキサス州フォートワースのカーズウェル空軍基地にあつた）。

それを受けてブランチャード大佐は、マーセル少佐に、円盤の残骸をただちにB29に積み込みフォートワースに向かうよう指示した。

次にレイミー將軍は、フォートワースのラジオ局を通じて、「ロズウェルで回収された円盤の残骸なるものは、実は墜落した気象観測用気球の残骸を見間違えたものだった。よって、予定されていたライト基地（現ライト・パターソン基地）への残骸輸送は中止とな

った」という声明を急いで発するといふ行動に出た。

さらに同じ日（七月八日）の夜、レイミー將軍は、記者たちに本物の気球の残骸を見せ、「空飛ぶ円盤なるものが墜落したという事実も、軍がその残骸を回収したという事実も存在しない」と強調した。

記者の中には將軍の言葉を疑う者が少なくなかったが、反論する根拠が彼らには全くなかった。その事件はそのまま、他のほとんどのUFO目撃事件同様、単なる見間違い事件として葬り去られる運命にあるかのようにだった。

しかし、先に述べたように、噂はくすぶり続けた。その中には、墜落した円盤に乗り込んでいた宇宙人のうち、一人か二人は生存していた、というもののまであった。

加えて、年月が経過するにつれ、当初は軍の圧力に屈して真実を語ろうとしなかったさまざまな関係者や目撃者たち、あるいは彼らの話を聞いた家族、知人たちが、事件のまさにその核心に迫る証言を行ない始めるようになった。

マーセル中佐の目撃証言

「ロズウェル事件」の著者の一人、ウィリアム・ムーアは、友人のUFOの研究者スタントン・フリードマンとともに、一九七九年の二月、三月、二月に、問題の物体の回収に当たった

マーセル少佐本人と会い、貴重な証言を引き出すことに成功している。

以下は、彼らとマーセル少佐（一九七九年時点では中佐として退役済）とのやり取りである。

——マーセル中佐、あなたは墜落したUFOを見ましたか？

「見たのは残骸で、完全な機体ではない。あれが何であれ、とにかく何が地面からそれほど高くない空間で爆発したということは間違いないだろうね。おびただしい量の残骸が、幅一五〇メートル、長さ一二〇〇メートルほどに渡って飛び散っていたよ」

——ロズウェル基地がブレイズル牧場に飛行物体が落ちたことを知った経緯は？（実際には、フォスター牧場。落下物体の第一発見者ウィリアム・W・ブレイズルは雇われ牧場主で、オーナーはフォスターという人物だった）

「我々がそれを聞いたのは七月七日だった（後の話の内容からして、正確には七月六日だと思われる）。私が将校クラブで昼食をとっているときに、ロズウェルの郡保安官から電話が入ってね、ブレイズルという男に会ってほしいと言った。その男の牧場で何かが爆発して、多くの破片が飛び散っているらしいということだった。

昼食を手早くすませて、私は保安官事務所に出掛けて行つた。そしてその男の話を聞いたところ、これは基地司

令官のプランチャード大佐の判断を仰ぐ必要があると考え、ブレイズルが一時間ほどの用事をすませるのを待つてから、彼を連れて基地にもどった。

ブレイズルの説明を聞いて、大佐と私は、何か奇妙な飛行物体が墜落したようだということで見解が一致した。

そこで大佐は、必要な道具と人員を伴い至急現場に行くよう私に命じたんだ。

私は、西テキサス出身のキャビットという名の防諜部隊員を伴って、ブレイズルの後をついて行つた。私はスタッフカー（将校用自動車）のビュイック四二年型、キャビットはジープ・キャリーオールに乗って行つたんだが、現場はとにかく、ひどいところだったね。道なんてものはどこにもなくて、まさに荒野のど真ん中といった感じの場所だったよ。

いずれにせよ、我々はそこに着いた。ただ、もう午後も大分回っていたんで、その晩我々は、ブレイズルの家に泊まらねばならなかった。冷たい豚肉と豆とクラッカーのみの粗末な夕食を食べた。

ブレイズルが住んでいたところは、コロナから南西に大分行つた、とにかく辺鄙なところだった。一番近い町がそのコロナだったんだ。羊牧場内に建てられた小さな家が彼の住居だった。

ラジオもなければ電話もなかったね。彼は一年のうちのほとんどを、そこで一人暮らしをしていたようだ。妻と子

供たちは学校の関係でツラローサに住んでいた。

確かにブレイズルは数日前のひどい雷のあつた晩に、奇妙な爆発音のようなものを聞いたと言っていたね。そのときは変わった雷だと思っただけで、さして気には止めなかったらしい。それで彼が例の残骸を発見したのは、その次の日のことだったんだ。

それから何日かたつた一九四七年七月五日の土曜日、ブレイズルは町に行つた。コロナにね。そしてそこで、あちこちで空飛ぶ円盤が目撃されたという話を聞いたらしい。それを聞いて彼は、もしかしたら自分が牧場で見たものは円盤の残骸かもしれないと考えたんだね。彼がそのことを町で誰かに話したかどうかは分からない。

いずれにせよ、七月六日の日曜になつてブレイズルは、しかるべき筋にそのことを報告しようと決意した。彼はロズウェルの町に出た。そしてチャピス郡保安官事務所に出向き、そのジョージ・ウイルコックス保安官に報告した。そしてジョージが基地でちょうど昼食をとっていた私に連絡してきたというわけさ

——あなたが見たものは気象観測用気球だと思いませんか？

「いや、違う。私は仕事から当時の空を飛んでいたもののほとんどすべてをよく知っていた。この国のものも外国のものもね。それから、あらゆる種類



海中から飛び上がる2機のUFO

この絵は米カリフォルニア州バハ市に住んでいたメキシコ人、ロベルト・カスティリヨ氏が描いたもの。彼は24歳のときにユカタン半島沖合へ友人と漁に出たところ、急に大嵐になって空が暗くなった。すると船から500メートル離れた海中から突然光り輝く大きな円形の物体が凄まじい勢いで飛び出して上昇した。少し離れた位置から別な物体が飛び出た。驚いて見ている彼らの目前で2機のUFOは空中高く飛び去った。帰宅後、カスティリヨ氏はすぐにその光景を油絵に仕上げた。その後彼は一種のフィーリングを感じて行きたい場所へ行くとUFOが出現するようになったので、いずれも油絵に仕上げた。以来、UFO画家として名高い。

不思議な物が散乱

——あなたがブレイズル牧場で回収したものを描写していただけませんか？

「いろんなものがあつたよ。まず約二センチ角の短い棒のようなものがあつたね。そしてその上には、我々の誰もが判読不可能な象形文字のようなものが描かれていた。その棒は一見バルサ材のように見えたが、実は全く異なったものだった。同じようにとても軽いんだが木ではないんだ。とても硬い上に柔軟性も備えていた。

それから、茶色い色をした羊皮紙のようなものがたくさんあつた。それがまた実に丈夫なんだ。それで、それらの上にもやはり象形文字のようなものが書かれていたつ。それらの文字はピンクあるいは紫色のインクのようなもので描かれているように見えた。

それと、その羊皮紙のようなものにしてはバルサ材のようなものにしても、煙草のライターのようなものを当ててみただけが全く燃えなかったね。焦げ目さえも

つかなかったよ。

さらには、アルミホイールと良く似たものもたくさん転がっていたが、それもアルミホイールとは全く異なったものだった。そしてそれがまた実に不思議なものだった。本当に薄くて、他の破片同様、とてつもなく軽かったね。それで、そのうちのひとつ……それは六〇センチ×三〇センチほどの破片だったが……それを曲げてみたところ、曲がることは曲がった。そして、皺を寄せることでもできた。ところが、その皺が残らないんだ。手を離すと、もとの状態にすぐに戻ってしまうんだよ。さらに我々は、それをちぎることも切ることもできなかった。大型のハンマーで叩いても見たんだが、へこみさえもしなかった。

誰かが、いろんな破片をジグソーパズルのようにして組み立てようとしたんだが、それも無駄な努力だった。とにかく、もとの物体が相当大きなものだったに違いないということ以外は、何一つ分からなかった。

私は機械装置類に興味があつて、その種のもの破片が落ちていないかと思つて探し回つたんだが、見つからなかった。ただ、一緒に行つたキャビットが黒い色をした金属性に見える箱を一つ拾い上げたのを覚えてる。それは一辺が一五センチほどの立方体をしていたが、あけることはできなかった。それも、とても軽かつたね。何らかの

装置が入っているように見えなかつた。我々は、それも他の破片類と一緒にフォートワースに輸送している」

——残骸を回収してからどうしたんですか？

「とにかく、我々は可能な限りすべての残骸を拾い集めた。それは、キャリー・オールだけではとても積み切れない量だった。そこで我々は、私が乗っていたビューイックの後部座席とトランクにもそれをぎつしりと積み込んだものだ。そして我々がロズウェルに戻つたのは、その日（七月七日）の夕方だった。

我々がロズウェルに着くと、すでに我々が空飛ぶ円盤の残骸を発見したという話が記者連中の間に広まっていた。基地の広報官が勝手にそのニュースをAP通信社にもらしてしまつていたんだ。おかげでその晩我々は何人もの記者連中からの電話に悩まされるはめになつてしまった。一人の記者などは、私の家まで押しかけてきたものだ。もちろん私は何も確かなことは言えないと答えたのみだった。

そして、次の日（七月八日）の朝、基地広報官が記者連中に例の声明文のコピーを配付するや、まさに馬鹿騒ぎが始まることになった。それ以降しばらくの間、基地の電話はもう鳴りっぱなしの状態だったよ。その広報官は、後で上層部からきついお叱りを受けたと聞いている。確かなことではないが

ね。

いずれにせよ、その日（七月八日）の午後我々は、ブランチャード大佐の命令で回収した残骸をすべてB29に積み込んで、フォートワースに向かつた。それで、私はそれを最終的にライト基地まで輸送するよう命じられていたんだが、フォートワースで待つていたレイミー將軍によつて私はその任務から下ろされた。ただ、その残骸のすべてが、間もなく分析のためにライト基地に送られたことは間違いない。フォートワースのカーズウェル基地に着くと間もなく、我々は將軍のオフィスに残骸の一部を持つてくるよう命じられた。それを自分の目で見てみたいからということだった。我々は言われたとおりにした。そして將軍のオフィスの床に敷かれた茶色の紙の上に、持参していつた残骸の一部をばらまいた。

我々が持参していつたものは、文字どおりほんの一部だった。しかも、それらには例の象形文字のようなものは全く描かれていなかった。

その後、將軍は何人かの記者たちをその部屋に招き入れ、その残骸の写真撮影のみを許した。記者たちは、私が床にひざまずいて、それらのあまり重要でない残骸の一部を見せている様子を撮影した。だから、あの写真に映っているものは、我々が実際に牧場から回収した破片類なんだ。

ただ、その少し後で、將軍とその取り巻き連中は、その残骸をすべて引つ込めて、それを彼らが用意した気球の残骸と入れ換えてから、記者連中に再度写真撮影を許している。そしてそのときには、記者連中はそれを直接手に取つて確かめることも許されている。その頃にはすでに、本物の残骸を搭載した輸送機はライト基地に向けて飛び立っていた。私はその工作にはいさしかかわつていない。それを仕組んだのは將軍と彼の側近のうちの一人だと言つて間違いないだろう。

しかし、これまでに私は実に多くの気象観測用気球を見てきたが、あんな気球は一度として見たことがない。それらは彼ら（將軍たち）にとつても、おそらく同じだったはずだ」

——記者発表の経緯をもう少し詳しくお話し頂けませんか？

「まず、基地の広報官——確か、ハウトといつたと思うが——その男が、AP通信社に連絡し、その後で例の声明文を書いたわけだ。当時の噂では、彼は上層部の許可なしにあの発表をしてしまつたらしい。それで彼は、その件で上からひどい叱責を受けたようだ。（しかしハウト氏は、一九七九年のインタビューで、自分はただ基地司令官であつたブランチャード大佐の命令に従つただけだと明言している）

あの発表後、基地には、それこそ世界から電話がかかつてきた。そして、

レイミー將軍がその騒ぎを収めるべく、気象観測用気球の物語を創作した。記者たちは、ロズウェルで回収したのは気球の残骸であり、ライト基地への残骸輸送は中止になったと聞かされたわけだ。

事実は隠されたか？

しかし、私が残骸輸送の任務から外され、代わりに誰かがそれをライト基地に輸送したというのが真相だ。さらに私は記者たちに対して、將軍に言えと命じられたこと以外は何も話してはならないと命じられた。記者連中は私から真相を聞き出そうとしたんだが、私は何も言えなかったんだ。

さらにムーアは、同じ一九七九年に、マーセル少佐の息子（彼も残骸の一部を見ていた）、残骸の第一発見者で、すでに他界していたウィリアム・ブレイズルの息子（彼は、残骸の一部を、郡に没収されるまで一時期所有していた）と娘、ブランチヤード大佐未亡人（大佐は生前、彼女に、あれは気球なんかじゃないと明言していた）その他、事件関係者たちと親しい関係にあったさまざまな人々と接触して詳細なインタビューを試み、マーセル少佐の証言を完璧なまでに裏付けている。

結局、一九四七年七月にロズウェル近郊のフォスター牧場内でブレイズルが発見し、マーセル少佐が回収に当た

ったものが、地上からそれほど高くもない空中で爆発した、地球のものではない物体の残骸であったことは、疑いようのない事実のようである。

しかし、彼らが牧場で見たものは、空飛ぶ円盤の形を全くとどめていない破片群のみだった。フォートワース経由でライト・パターソン基地に送られた残骸の中には、墜落した物体がUFOであることをより明確に示す、より大きな破片群や、MJ-12文書や噂の中で触れられている小人宇宙人の遺体は含まれていなかったのだ。どういふことなのだろうか？

バーネットの驚くべき証言

その謎は、当時、ニューメキシコ州ソコロに住み、同州マグダリーナの西に広がるサン・アグスティン平原において、連邦政府の依頼で土壌保全のための調査活動に当たっていた土木技師、グレイディー・L・バーネットの証言によって解明された。

ただ、「ロズウェル事件」の著者たちは、それを一九七九年、バーネットの親友であったマルテーズ夫妻から聞き出している。バーネットは彼らよりも大分年上で、すでに他界していた。バーネット、及びマルテーズ夫妻の人間性に関する調査は、両著者によってもちろん念入りに行なわれている。

バーネットは、事件から三年後の一

九五〇年、決して他言しないようにと念を押してから、マルテーズ夫妻に次のように語ったという。すでにそれから三十年が経過していたが、夫妻はそのときのことを鮮明に記憶していた。

「一九四七年の六月三日の朝、仕事でマグダリーナ近くの平原に行ったところ、二キロほど先でかなり大きな金属製と思われる物体が、太陽の光を反射して光っているのが見えたんだ。前の日の晩に飛行機でも墜落したんじゃないかと思つて、私はすぐにそこに向かった。ところがそれは、飛行機なんかじゃなかった。それは、直径が八、九メートルほどの円盤型の物体だった。おそらく墜落の衝撃で、ざっくりと割れていた。材質は汚れたステンレスのような感じだったね。」

それを見ながら、いったいこれは何だろうと考えていると、私が来たのは別の方向から何人もの人々がやって来た。そして彼らも、その物体を眺め始めた。後で聞いたんだけど、連中はペンシルヴェニア大学の考古学調査隊のメンバーたちだった。彼らも最初は飛行機が墜落したものと思つて近づいて来たらしい。彼らは、それぞれが思い思いに立ちこちを歩き回りながら、散乱した残骸を眺めていた。

だが彼らは残骸の正体をつかむことができず、ただ右往左往しているだけだった。

小人宇宙人の死体

そのうち私は、彼らが何体かの生きものの死体の周りに群がっているのに気づいた。死体は円盤の中にもいくつかあった。外に転がっていた死体は、たぶん墜落の衝撃で放り出されたんだろう。彼らは人間に似てはいたが、人間ではなかった。まず全体がとても小さかった。それから、頭は真ん丸で、目は小さくて周囲が異常に窪んでいた。それから、体全体に比較して頭が異常に大きかったね。そして灰色のワンピースの服を着ていた。フラスナーやボタン、ベルトの類は一切見えなかった。私が見たところでは、彼らはみんな男のようだった。女性であることを示すもの（胸のふくらみ）がなかったからね。もつと詳しく観察しようとしたんだが、だめだった。まもなく軍隊がやって来て、我々をその場から閉め出したんだ。

我々は、すぐにその場を離れるよう命じられた。そして、そこで見たことを誰にも言わないよう申し渡された。沈黙を保つことが国を愛する者の義務だということだった。

バーリツとムーアの調査によると、そのサン・アグスティン平原の現場に駆けつけたのは、ホワイトサンズ・ミサイル実験場に隣接したアラマゴードの空軍基地（おそらくホローマン基

地)の軍人たちだったという。そして、回収された円盤の残骸と宇宙人たちの遺体は、鉄道でカリフォルニア州のミューロック空軍基地(現エドワード空軍基地)に移送された。

事件の全容

さて、これで事件の全容が浮かび上がった。まず一九四七年七月二日の午後九時五〇分頃、一機の円盤がロスウエル市上空を北東に向けて猛スピードで通過した(ウィルモット夫妻が目撃)。

次に、その円盤は、激しい雷の嵐の中(雨は振っていなかった)、フォスター牧場の上空で爆発を起こし、相当量の破片を地上にまき散らした。

しかしその円盤は、その後もどうか飛行を続け、いくつもの山を越えてはるか(二百キロほど)西方のサン・アグスティン平原に到り、そこで力尽きて墜落した。

フォスター牧場に落下した破片群は、次の日の七月三日にブレイズルによって発見され、その報告がマーセル少佐の耳に届いたのは七月六日のことだった。そして七月八日、ロズウェル基地報道官、ハウトにより、残骸回収の発表がなされたのである。

一方、円盤の本体とその乗組員たちの遺体は、たまたまその墜落現場の平原で作業をしていたパーネットと考古

学調査隊により、やはり次の日の七月三日に発見された。しかしその現場はすぐに軍の管理下に置かれ、目撃者たちは口を封じられた。そしてそのため七月八日のハウトの発表により、フォスター牧場の残骸回収のニュースのみがメディアに流れることになった。

そしてその後、サン・アグスティン平原に落下した円盤本体と小人宇宙人の死体に関する情報が徐々に漏れ伝わり、ロスウエル声明と合体し、すべてがフォスター牧場内、あるいはその付近で発生した事実として語られるようになった、というわけだ。

パーリツとムーアは、米軍が二つの現場で回収した円盤の残骸と小人宇宙人たちの死骸がその後どのように処理されたかについても徹底した調査を試みているが、紙面の都合上、ここでは紹介しきれない。

しかし、すでに紹介した事件の顛末のみからでも、我々はさまざまな推理を案じめる。一例をあげてみよう。

事件と異なるMJ-12

すでにお気づきだと思うが、パーリツとムーアが突き止めたロズウェル事件の顛末とMJ-12文書のそれとは、以下の点で明らかに食い違っている。

同文書は、円盤の残骸が発見されたのはフォスター牧場内の一カ所であり、七月七日の回収作業中に、爆発前に放

り出されたと思われる小型の人間に似た生命体の遺体四体がそこから三キロほど東で発見されたとしているが、パーネットの証言によれば、円盤の本体とその乗組員たちは、そこから西に直線距離で二〇〇キロほど離れた場所に墜落しているのである(これを裏付ける他の人々の証言も得られている)。

さらに同文書は、乗組員たちの遺体は死後一週間近く経過しており、捕食動物に食べられたり腐敗していたとも指摘しているが、軍がそれを実際に回収したのは、七月三日、つまり墜落した翌日の朝なのである。少なくとも、そんな短時間のうちに彼らの遺体が腐敗していたとは考えにくい。

この食い違いは、どうとらえたらいいのだろうか? パーリツとムーアが突き止めた事件の顛末は、とてもいい加減なものだと思えない。

MJ-12文書は偽造されたか?

そして、私が手にしたその印象がもし正しいとしたら、MJ-12文書が伝えるロズウェル事件の内容は、明らかに正確さに欠けたものだということになる。次期大統領アイゼンハワー宛の米国政府の最高機密文書が、はたしてそんないい加減な内容を含んでいるのだろうか? とてもそうは思えない。

では、MJ-12文書は偽造公文書なのだろうか? 用いられているタイプ

ライターの形式、文体その他のあらゆる特徴から、それが本物の公文書である可能性は極めて高いと言われている。情報公開法の威力で法的に公表を余儀なくされた米国政府のある秘密文書の中に、MJ-12というプロジェクト名が明確に記されていることから、MJ-12というプロジェクトが存在することも確かなようである。

しかし、一九五二年当時に米国の公文書作成に用いられていたタイプライターと公文書用紙を使用し得る人間であれば、あの種の文書のニセモノ作成はいくらでも可能である。

そして、もしあれがニセモノだとしたら、それはリークでもなんでもないことになる。いったい誰が、何のためにそんなものを作り、リークと見せかけて世に出す必要があったのだろうか?

MJ-12文書をはじめとして、これまでにリークされたと思われる数々のUFO関連極秘文書に登場する宇宙人が、どれも皆、人間に似ているが全く生命形態が違う「小人宇宙人」である、という事実が、何かを示唆してはいないだろうか?

UFO目撃と不思議体験の旅

(1) 不思議な黒いスジ

沢入達雄 東京都

今夏のデザートセンター、コスタリカ、メキシコの旅はどこも感動的で、私の期待の数倍楽しく素晴らしい旅行でした。

デザートセンターへ行く途中では長い銀色に輝く物体が何もない空に現われるのを見ました。一〇時一五分頃でしたが、飛行機、その他の物体でないことを確認し、ビデオカメラに収めなければと手をかけた瞬間に消えてしまい、わずかに四〜五秒でしたが、場所が場所だけに感動的でした。そのことを後ろにいた久保田房子さんに話すと、他の人たちもそのすぐ前に別な方向で目撃したようで、これと前後してあちこちの方向で数秒間の目撃が断続的に続いたようでした。

私はこの旅行を通じてある小さな私の生き方に関する決意が生まれたのですが、これは、デザートセンターでの物体の目撃の前から起り始めた私のインスピレーションのようなものから生まれました。この印象は旅とともに強くなってゆき、それが最も具体的なアイデアとなったのは、コスタリカか

らメキシコに向かう飛行機の中でした。

これは私には非常に啓示的なものにしたのですが、それでも私はこの想念が自分の勝手な思考なのか、それとも宇宙的なものなのかを疑う気持ち少しあり、もつとはっきり確信を持ちたくて、飛行機の中から「もし私の今の想念が正しくて、私の生き方にとって非常に重要なものならば、何かのシルシを与えてもらえたら嬉しいのですが」と想念を送ってみました。もしこ

◀ 空中に浮かんだ不思議な黒い棒状のスジ。

撮影/沢入達雄



れがスペース・ピープルからのものならば疑うのは非常に申し訳ないのですが、申し訳ないという思いもまじりながら送りました。

そして送り終わったすぐ直後に、飛行機の外を見ていた私の視界のまんに円形の虹が現われ、それが消えるとともに棒状の針の影のようなものが円形の虹が消えた真ん中のラインに、私たちの進む方向にまっすぐに現われたのです。

このサインは、私には「あなたの今の想念は正しい(円形の虹)。まっすぐに進みなさい(直線のライン)」という意味にしか思えなかつたので、これ以上疑うのはやめようと思いました。いつもなら、これは何だろうかと考えるのですが、私はこのラインが出ていた四〜五〇分の間、現象がどのよりも、この想念(デザートセンター以来のインスピレーション)を心の中に定着させようと内面に意識を向けていました。棒状の影のようなものは、私の思いが定着した頃、もう一度円形の虹がその先端に現われて、その後消えてしまいました。

(2) たびたびUFOを目撃

佐々木八郎 東京都

今回の旅行団は落ち着いていて、調和のある意識的な静かな人が多かったと思います。

八月二日、午後ロサンジェルス市内観光で一時四九分、サンセットブルバードからフェアファックスアベニューへ右折する直前、東の空にUFOを見ました。銀白色に輝いて上部はよく光っており、下の方はあまり光っていませんでした。空の低い位置に五〜六秒見えていました。右折するとき建物にさえぎられて見えなくなり、フェアファックスアベニューに入ったら、もうその姿は消えていました。すぐ久保田先生に知らせました。いつものことですが、UFOを見ると意識が非常に高揚します。そばにいた松岡さんにこのことを伝えたら、彼もこの物体を見ていました。今回の旅行の私の最初のUFO目撃です。

八月二日。今日はデザートセンターへ行く日です。羽吹さんとバスの後方で、今までどんなUFOを見たかなどと話をし始めたとなん、それは現われました。時刻は一〇時一〇分すぎです。キラツ、キラツとそれは周期的に光り、左から右へ動いていました。非常に明るく白銀色に見えました。羽吹さんが最初に気づき、その物体は山のふもとの方か、飛んできたと言っていました。これと同じ物かどうかはわかりませんが、同時に楕円形の輝く物体を見たという話を沢入さんや佐藤晶さんらから聞きました。

一〇時三〇分頃。バスの中から遠くに見える山の内こうの空中に、楕円形

の光る物を見たとき久保田房子さんが話してくれました。同じ物を沢入さんも見ていたそうです。その後一時二五分デザートセンターの砂漠に入って行きました。ここではアダムスキーとオーソン氏がコンタクトした地点、その他の場所を久保田先生が克明に説明して下さいました。

その後、ロサンジェルスのレストランに着く少し前の六時一五分に、バスの中で津野田さんと久保田房子さんが、「空中に何かピカッと光った」と言っていました。

八月一六日。朝のサンホセ空港で不思議な事が起こりました。一人の外人が不法行為で行列に割り込もうとしたので、私は断わったのです。そのとき別な外人が後ろから私に英語かスペイン語で話しかけてきたのですが、私の頭の中には日本語が聞こえてきたのです。「それで正解ですよ」と。その人は背は高くないが、少し色の黒い人で、コスタリカの現地人のように見受けられました。これと似たような事があと一回起こっています。

(3) UFOを二度目撃

松岡圭一 (秋田県)

先日のGAP旅行では大変お世話様になりました。噂どおりのハードな旅でしたが、皆さんとすごした中から得た物、上空から常を感じる波動等、



▶メキシコのケツアルコアトル(羽毛あるヘビの神)に似た形の雲。撮影/松岡圭一

本当に行つて良かったと有意義な一日間でした。私の初めての海外旅行がGAPの旅行であったことは幸運なことでありました。

私のUFO目撃報告ですが、残念ながら二件しかありません。一回目は一七日、ケレタロ村からテキスキアパンに向かうバスの中(左側)から見たもので、光体の上昇、もしくはこちらに接近し、雲に隠れて出てこなかったものです。速度は旅客機の倍くらい、光

体としては認められましたが、大きさや形はわかりませんでした。光り具合、速度、雲から出てこなかったことなどからUFOとと思われます。

二件目は本物かどうか確信がもてませんが、メキシコからサンフランシスコに向かう機中、フロリダ半島にさしかかって少し過ぎた頃、左下方に搭乗機と並行に飛ぶ赤銅色の米粒大のものを見ました。搭乗機が向きを変えると同時に光りだし(太陽光に反射する位置にきたのか、カメラを取ろうと下を向いてもう一度見ると、どこに行つたかわからなくなっていました)。

(4) 不思議な光景を透視

久保田房子 (神奈川県)

八月一三日。バスでデザートセンターへ行く途中、UFOへ想念を送っていました。午前一〇時三〇分頃、銀色の半円型のような物体を見ました。四〜五秒かと思いますが、停止していました。気がついて「あれは何か」とバスの中から指さして周囲の方たちに言うておりましたら、消えてしまいました。

一七日。メキシコのケレタロ州トラコテにバスで向かっているとき、午後一時頃、グレーの濃い四角な雲が窓のように三個並んでいるので、雲が四角いなんて不思議に思い、沢入さんに教えましたが、バスは走っていますので、山の影になつて見えなくなつてしま



▶コスタリカの謎の石球と共に。右より久保田会長、久保田房子(会長夫人ではない)、山崎和子。

ました。私は気がついてから二〇秒ぐらいいは見ていたと思います。

二一日。メキシコからサンフランシスコへ向かう飛行機の中で、先生と席が隣になりました。松岡さんが席を立ち、私が窓際に移って機外を見てから、目をつぶりましたら、私の目の中

に不思議な映像が映画のスクリーンのように右から左に流れるのです。色は薄いグレーです。それは宇宙の惑星なのか、私が高いところから飛んでいるのから見えている様子なのですが、見たこともないような不思議な機械のような、または町並みなのか、よく見ようとするのですが、スクリーンが早く動きすぎて、はつきり一点が見られず確認がとれないのですが、意識はありますので、この映像は何かと思ひ、一生懸命に見ましたが、この地球では見たこともないような映像でした。三〇秒から一分ぐらひは見ていたと思います。一瞬、雑念が入りましたら消えてしまいました。

(5) UFOを写真に撮る

羽吹秀臣 (長野県)

八月二三日、午前一〇時一〇分頃。佐々木さんが私の席の後ろにきて「今日は絶対にUFOが現われるよ」と言っていたとき、窓の外(バスの左側)を見るとセスナ機がこちらに向かってきました。そのとき、目の右の方でフラッシュライトのような光が見えたので、そちらに目を移しました。

しばらく(四〜五秒ぐらひ)じっと見ていますと、ふたたび〇・五〜一秒ぐらひの間に三回ほど光が見えて、そこにかすかな薄暗い黒(またはグレー)の楕円の影が見えました。セスナかと

思い、よくみても翼や尾翼らしきものはありません。佐々木さんに教えようとしたのですが、点滅と点滅の間隔が四〜五秒と長く、なかなか気づいてもらえません。前から飛んでいたセスナの上はその光がきて、「今、セスナの真上」と言ったときに、やつと気づいてもらえましたが、そのときは霞の中にとけこんでしまい、フラッシュライトしか見えない状態でした。

その後、二人で見えなくなるまでジツと見ておりましたが、ふと我にかえり、カメラを構え、シャッターボタンを押しました。しかしAFの設定にしてあったために、なかなかピントが合わず、撮影できませんでした。同じ頃、沢入さんが母船らしき物を目撃していたそうです。

八月二三日。

デザートセンターが近づき、そろそろお弁当を食べようとサンドイッチを取り出して口にほうばりながら、窓の外(バスの左側)に目をやりますと、山の上に見かけ上二ミリ(手を伸ばしたときの指と指との間隔)ぐらひの白い球形の物体が静止して浮いていました。山の上は青い空ではつきりと見ることができ、その向こう側には雲がありました。

その物体は山の峰より向こう側で、入道雲よりもこちら側でした。五秒ぐらひポーツと見ていましたが、写真を撮らなくてはと思い、一瞬、後ろ向き

にカメラを手にとつて窓の外を見ます と、その物体はすでにいませんでした。

◀八月二〇日の九時四五分頃、ロサンジェルスを過ぎた辺りに出現した二機のUFO(矢印)。低く見えるが実際は高空を飛んでいる。撮影/羽吹秀臣



3D Pictures of Desert Center Photos by Yutaka Kinoshita

デザートセンターの立体写真

撮影／木之下 裕

●写真を目から約二〇センチ離して、写真を見つめないで、はるか遠くを見るようにすると、左右の写真が互いに接近してヒタリと重なる。そのとき写真の中の風景が立体的に浮き上がって見える。

◀コンタクト地点(矢印)を望む



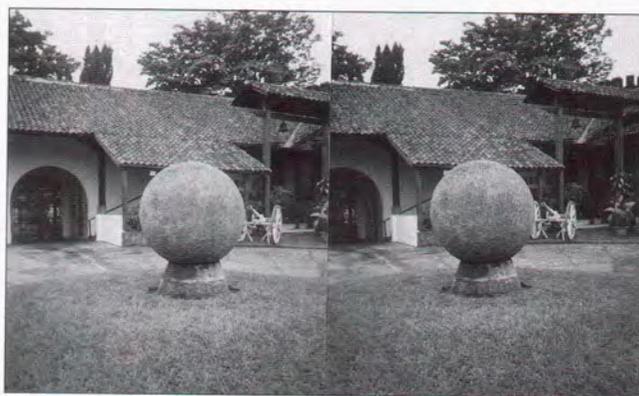
◀アダムスキーのコンタクト地点(矢印)



◀円盤が着陸した場所(矢印)



◀コスタリカの不思議な石球



★日本GAP海外研修旅行終了

さる八月二日から二日までの一日間、日本GAPは恒例の第一六回海外研修旅行を実施、アメリカ、コスタリカ、メキシコの三カ国を回って、一五名全員無事に帰国した。アメリカではデザートセンターのコンタクト地点を観察し、コスタリカの博物館で超古代の不思議な石球を見、メキシコではテオティワカンの大遺跡を見学。ケレタロ州トラコテ村の奇跡の水の現地を訪れて話を聞き、全員水をもらい、さらにバレ・デ・サンティアゴの巨大野菜を作ったオスカル・アレンド氏を訪問。詳細な話を聴取して辞去。その他の遺跡を見学して日程を消化した。今回の旅行をもって一六年間続いた日本GAPの海外研修旅行をしばらく中止する。景気回復後に再開するかもしれないが、その時期は未定。

★日本GAP総会

一〇月九日には恒例の日本GAP総会を港区芝公園の機械振興会館ホールで午後一時より開催。多数の来場者により盛大に終了した。今年はアメリカGAP主宰者ダニエル・ロス氏を招待し、氏による「アダムスキー・永遠の真実と栄光」と題する大講演とフランス人研究者ミッシェル・ジェルガー氏の講演が行なわれて多大の感銘を与えた。夜は同会館の六階ホールで華やかな夕食会を開催。翌日は都内観光に打ち興じた。以上の詳細記事と講演内容は

本誌次号に掲載の予定。

★久保田会長の広島講演

来たる十一月二三日(祭日)、広島市東区光町二一六―五「ホテル・チュエリッヒ」で、日本GAP久保田会長を迎えて盛大な講演会が開催されることになった。主催は広島市の会員・佐々木朋子さんを中心として最近発足した日本GAP広島カチナ会。これは地方支部に準ずる団体。広島における会長の講演会は最初の試みなので盛況が予想される。詳細予告は本誌四九頁に掲載されている。中国地方の会員の方々はめったにないこの機会をのがさずに出席されたい。なおカチナというのはアメリカのホビ・インディアン言葉で「精霊」を意味するという。アメリカン・インディアン中、最も平和的なホビ族の宇宙的思想にあやかっただもの。負けるな、勝ちな、にも通じる。

★黎明会発足

昨年一月「久保田先生と語ろう会」を開催した日本GAPの若手会員のグループが、都内を本拠に正式に「黎明会」として発足した。これは二一世紀の黎明を迎えて、おおいに日本GAPの隆盛に寄与しようという意気込みのもとに今後各種行事、会長への援助、その他で活躍するという。幹事は当面、加藤純一氏が担当する。

★久保田会長をアメリカより招待

来年夏にアメリカ、ワシントン市で世界UFO研究大会が開催される気運

が高まってきた。これについて主催者側より会長に打診があり、開催が決定すれば日本代表の一人として渡米の上、講演を行なうようにとの要請があった。決定すれば出場は確実とみられる。もつか状況を静観中。主催者側によれば高度な語学力を持つ人だけを招待するという。通訳抜きの大会にするらしい。

録を樹立している。これを記念して何らかの行事を開催することを考慮中であるが、行わず今後セミナーではなるべくスライドやビデオの映写等による視覚面を充実化し、出席者の理解を容易にすることを企画中。多数参加されたい。

★GAPグッズのテレフォンカード第七弾発売

日本GAPは一〇月よりテレフォンカードの第七弾として、一九五一年三月五日、アダムスキーが連続撮影した大母船の一枚で、母船から六機の輝くスカウトシップが発射された写真付きを出す。定価その他は巻末の広告を参照されたい。これらのグッズの売り上げはすべて運営資金に充当される。

★GAPシール

従来頒布していたシンボルマーク入りの黒のGAPシールは品切れになったため、以前に好評を博していた青と赤のシールを再度頒布することになった。この方が目立ってよいという声に応えたもの。これも巻末を参照されたい。

★東京月例セミナー充実化

東京における月例セミナーは一九六九年九月より開始して以来この八月で実に二五年におよび、毎月開催された回数は連続三〇〇回に達する。その間、会長が欠席したのは病気と海外旅行のための三回だけという驚異的な出席記

★会員の原稿を募集
日本GAP会員によるUFO目撃、コンタクト事件、宇宙哲学の実践結果超能力開発、その他の奇跡発生等に関する原稿を募集している。会員でなくても身内や知人でもOK。原稿用紙にきちんと書かなくても便箋等に走り書きで差し支えない。採用分には薄謝。

★日本GAP特別維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に特別維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、普通会員がさらにGAPに貢献しようとするための援助網であって絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が個人で毎月発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが贈られる。このエッセイにはユーコン誌に掲載されない秘話や行事の速報、会長独自の宇宙的能力開発法その他が満載されている。参加希望者は「特別維持会員案内書」とハガキに記して日本GAP宛に送れば案内書が送られる。普通会員でない人が特別維持会員のみになることはできないので要注意。エッセイ「意識の声」は頁数がふえて充実した。

▶この連続写真。左下のせん光が強烈になつていく。右側に光るのは衛星イオ。



木星に彗星衝突

約二〇個の核が連なって木星に向かっていた「シューメーカー・レビー第九彗星」(SL9)が木星に衝突し、NASAの宇宙望遠鏡や南アフリカ共和国の天文台が捕らえた。巨大な火の玉が発生し、高温ガスがキノコ雲となって高さ一〇〇〇キロメートルまで噴き上がっている。

SL9のA核が木星の南半球に衝突した跡を、地球を周回しているハッブル宇宙望遠鏡が撮影に成功した。写真は同望遠鏡の広視野惑星カメラで撮られた、衝突箇所が地球から見て木星の裏側だったため衝突の瞬間は観測できなかったが、木星が自転して、その痕跡が観測できた。

衝突した核の直径は一〜二キロメートル程度で、木星大気を約五〇キロメートル突き抜けて爆発し、原爆数万発以上に相当するTNT火薬二〇万メガトン分の衝突エネルギーを放出した。(7・18読)

立体TVを開発

総合医療メーカーのデルモは、特殊な

眼鏡なしでも立体画像が見られるカラーテレビ装置を名古屋大学と共同で開発した。立体内視鏡など医療面での実用化を目指す。一般の放送用テレビやゲーム機などにも応用できるといふ。

同社の開発した「ステレオ画像表示装置」はカラー液晶を使った世界で初めて的方式である。二台のカメラで撮った右目用と左目用の画像を、別々の角度からそれぞれ液晶ディスプレイに映す。テレビ装置の上には監視用カメラをつけてあり、視聴者の目の動きをチェックする。右目には右目用、左目には左目用の映像が見えるようにしてあり、その視差で立体画像になるといふ。テレビ側から見て左右一八度ずつの範囲なら、二、三人が同時に見られる利点がある。(7・6毎)

緑色の発光ダイオードを開発

ソニーは緑色に光る発光ダイオードを世界で初めて開発した。応用すれば通常のテレビより約一〇〇倍明るい画像を作れる。ダイオードの光は波長が五二二ナノメートルで、明るさは四カンデラあり、純粋な緑色で、大きさは約〇・五ミリ角ある。光の三原色は赤、緑、青で、赤や

青に光る発光ダイオードはあったが、純粋な緑はなかった。この開発により、三原色がそろうため、フルカラーの画面が作れるといふ。(7・13毎)

遺伝子変異で病原性消滅

腎臓候性出血熱の原因ウイルスは遺伝子の構造のわずかな違いで、その病原性が大きく変わることを、大阪大学微生物研究所の伊勢川助手と山西教授が突き止めた。このウイルスのワクチン開発など、予防、治療への応用が期待されている。腎臓候性出血熱は高熱や蛋白尿を伴う病気で、ネズミが媒介するハンタウイルスが原因である。ハンタウイルスは増殖しにくい。ため、解析が進んでいなかった。伊勢川助手らは独自の方法を使い、五年がかりでウイルスの全ての遺伝子の構造を解明し、遺伝子変異の場所とウイルスの動きの関係を調べた。

その結果、遺伝子が一箇所変異して、ウイルス表面の蛋白質のアミノ酸が一つ変わっただけで、病原性がなくなってしまうものが見つかった。このウイルス自体が、自分の増殖にブレーキをかける免疫を誘導してしまうといふ。

日本には患者が一〇〇人以上あり、中国では年間約五〇〇〇人がこの病気で死亡しているが、この発見によりワクチンの開発や治療法が促進されるといふ。(7・27読)

世界初のエイズワクチン

人と猿のエイズウイルスを結合させた組み換えウイルスが、エイズ感染を防ぐワクチンとして有効であることを、京都大ウイルス研究所の速水教授らのグループが突き止めた。人間にも効果があるとみられており、世界初のエイズ生ワクチン開発につながる可能性が出てきた。

同グループは人のエイズ治療の動物実験に使うため、遺伝子を操作して、表面部分を人間のエイズウイルス(HIV-1)、内部を猿のエイズウイルス(SIV)にした組み換えウイルス(NM3)を製造した。本来HIV-1に感染しないアカゲザル、カニクイザルなどに感染させることに成功したが、感染した猿が発病しなかったことから、ワクチンとして使うことを着想した。

NM3は、製造過程で毒性や感染力を調節できることから、毒性の弱いものをワクチンとして健康なアカゲザル、カニクイザル計五頭に注射した。その後、感染力の強いタイプを注射したところ、ワクチンを投与しなかった猿二頭は感染したが、投与した五頭は感染しなかった。ワクチンを打った猿の血液を調べたところ、HIV-1の感染を防ぐ抗体ができていた。HIV-1だけを攻撃するキラーT細胞と呼ばれる白血球の働きも盛んになって、人のエイズに免疫を持った状態になった。

NM3は人の血液中でも感染、増殖す

ることから、HIV-1に対する抗体やキラーT細胞を活性化させるという。

このため、毒性を弱めてNM3自体による発病の可能性がないことを確認できれば、ワクチン化をはじめ、患者や感染者に注射してHIV-1ウイルスに対する抵抗力をつけて治療することも可能になる。(7・30説)

放射能は子孫に遺伝しない

広島、長崎に投下された原爆の放射線が被爆二世に遺伝的影響を及ぼさないことが、日米共同の研究機関である「放射線影響研究所」の遺伝学部の調査でわかった。血液蛋白質や染色体の分析でも同じ結果が出ており、「子孫への遺伝的影響はない」との結論になった。

同グループは一八年前から、それまでの研究成果を遺伝子レベルで確認する作業に入った。父母と子供三人を一組にして原爆の被爆家族と、被爆していない家族各五〇〇組を抽出して血液を採取した。試行調査は、DNAの塩基配列に欠損(突然変異)があるかどうかを調べる作業で、各五〇〇家族を対象に、その有無を追跡した。

その結果、全サンプルの遺伝をつかさどる部位に、突然変異は見つからなかった。一方、遺伝に影響しない部位には被爆者、非被爆者の双方に同率の突然変異が見つかり、遺伝的影響はないことが裏付けられた。(8・9説)

非ワトソン・クリック型塩基対を発見

理化学研究所の柴田研究員のグループは、大阪大学、米エール大学のグループと共同で、生物の染色体の相同的組み換え時に、これまで知られているワトソン・クリック型とは異なる塩基対ができ

て反応が進むことを世界で初めて確認した。

「相同的組み換え」とは、子が両親から半分ずつの遺伝子を受け継ぎ、遺伝子の新たな組み合わせを作ることである。雌雄の染色体が同じ部分で交差して、つなぎ直されるので、組み替えのためには、相手の同じ部分を探す反応が起きる。

遺伝子本体のDNAは、アデニン(A)、グアニン(G)、チミン(T)という四つの塩基を持っている。塩基の結合は、AはTと、GはCとが対になり、これをワトソン・クリック型塩基対と呼んでいる。これまでは他の組み合わせでは結合しないとされていた。

同グループは、まず同じ塩基間(AA、TT、GG、CC)で対が作られ、染色体が互いに同じ部分であることを確認してから、次にワトソン・クリック型反応でしっかりと組み合わさって、相同的組み換えが行なわれることを突き止めた。(8・25毎)

世界最小のビデオカメラ

日立製作所は、撮影した映像を半導体メモリに記録することで、手のひらサイズにまで小さくしたビデオカメラを開発した。カメラ一個ほどの半導体にデジタル画像信号を圧縮して記憶させる。テープカセット機構を搭載しないので世界最小のサイズである。

静止画の分野ではフィルムに代わり半導体メモリを採用した電子スチルカメラが実用化されている。一方、動画を扱うビデオカメラでは静止画とは比較にならない膨大なデータ量が必要とされる。日立は、実物の画像信号を一〇〇分の一度に圧縮する既存の画像圧縮技術と、

新聞一万ページ分を記憶できる四〇〇メガバイトのメモリの採用により、約三〇分の記録が可能なることを確認した。さらに、今後の集積化により、大きさは手のひら大、重さは三〇〇グラム以内でできるといふ。(8・28説)

HII2号機打ち上げ成功

純国産ロケットHII2号機が鹿児島県宇宙開発事業団種子島宇宙センターから打上げられ、重さ2トンの技術試験衛星VI型を楕円軌道に投入した。日本がこれまでに静止軌道に打上げた衛星は最大で五五〇キロであり、これで日本も欧米先進国に並んで本格的な大型衛星利用時代に入った。

同衛星は「きく6号」と命名された。きく6号は太陽電池パネルを広げると三〇メートルになる大型の人工衛星である。レーザー光を使った世界初の光通信実験「きく6号」を乗せたHII2号機

などを行う予定である。(8・29毎)

新しいオリゴ糖を合成

農水省食品総合研究所が虫歯予防効果の極めて高いオリゴ糖の合成に成功した。同研究所は納豆菌の仲間の細菌から抽出した酵素を使って、多糖類の一種のデキストランを分解して作り出した。このオリゴ糖(ブドウ糖や果糖が数個つながった構造の糖類)は、七・九個のブドウ糖が環状に結合した化合物であり、「サイクロデキストラン」と名付けられた。

虫歯の原因になるミュータンス菌は、砂糖をデキストランに変え、その分解産物と一緒に歯に付着して虫歯をつくる。サイクロデキストランは、ミュータンス菌の増殖を防ぐ働きがあった。虫歯予防に効果のある既知のオリゴ糖に比べて数倍の効き目があり、毒性はない。(8・31説)



私も アダムスキー型円盤を 見た!

I Saw the Adamski-Type Saucer!
by Kunio Taguchi



▶田口邦雄氏

本誌二二二号に掲載された「アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる」と題する記事の中で、目撃者の秋山慎之介君（一九九二年当時九歳、小四、品川区在住）が、年末にバスの中からフロントガラス越しにアダムスキー型円盤が前方から超低空で飛来してバスをかすめたときにキモをつぶし、一緒にいた運転手さんも気づいて驚いたと述べているが（詳細は本誌二二二号の記事を参照、そのときのバスの運転手さんはなんと日本GAPの会員であった人で、後日、秋山君の記事が本誌に掲載されたのを読んで大いに驚き、秋山君の家を訪れて「あのときの運転手は自分だったのだ」と告げたことから有力な証人が出現した事になった。以下は運転手さんである田口邦雄氏の手記である。

平成二年一月末頃ですが、私は職場の控室にある本棚の中から「異星訪問奇談」を手にとり、パラパラとページをめくりましたところ、今までに聞いたことも見たこともない内容のことが書いてあり、大変驚きました。

（編注）『異星訪問奇談』は日本人青年M氏の宇宙的な体験を編者がまとめたもの。現在は絶版。これと同じ内容が中央アート出版社刊「UFO・遭遇と真実」に出ている。

家に持ち帰り、夢中で読みました。読み終わってから、この事は間違いな

く真実にちがいないという確信と、さわやかな心地よいスカイツとした気持ち、これからも真実を知りたいと思う気持ちで一杯でした。

確かに私も目撃した

さて、UFOコンタクトティー二二二号に「一九九二年二月二七日の夕方五時二〇分頃、都内品川区東品川一丁目付近のバス停近くの大通りを走っていたバスの中から、乗客の一人、秋山慎之介君は、アダムスキー型円盤といわれるUFOが超低空で前方からバスの方へ飛来するのを目撃してキモをつぶした。運転手さんも気づいており、他にも見た人が何人かいる」と書いてありますが、その記事にある運転手とあるのが私です。あのときは本当に驚きました。UFOを目撃していた時間は、運転中でしたので、一秒〜二秒ぐらいいではなかったかと思えます。短い時間でしたので、詳しく観察することは出来ませんでした。

突然UFOが!

この日は品93系統（大井競馬場、品川駅経由、目黒駅）に乗務していました。秋山君は品川区八潮団地から品91系統に乗って、都立高専前にて私の運転する品93系統の品川駅経由・目黒駅行きに乗り換えて乗車したものと思います。

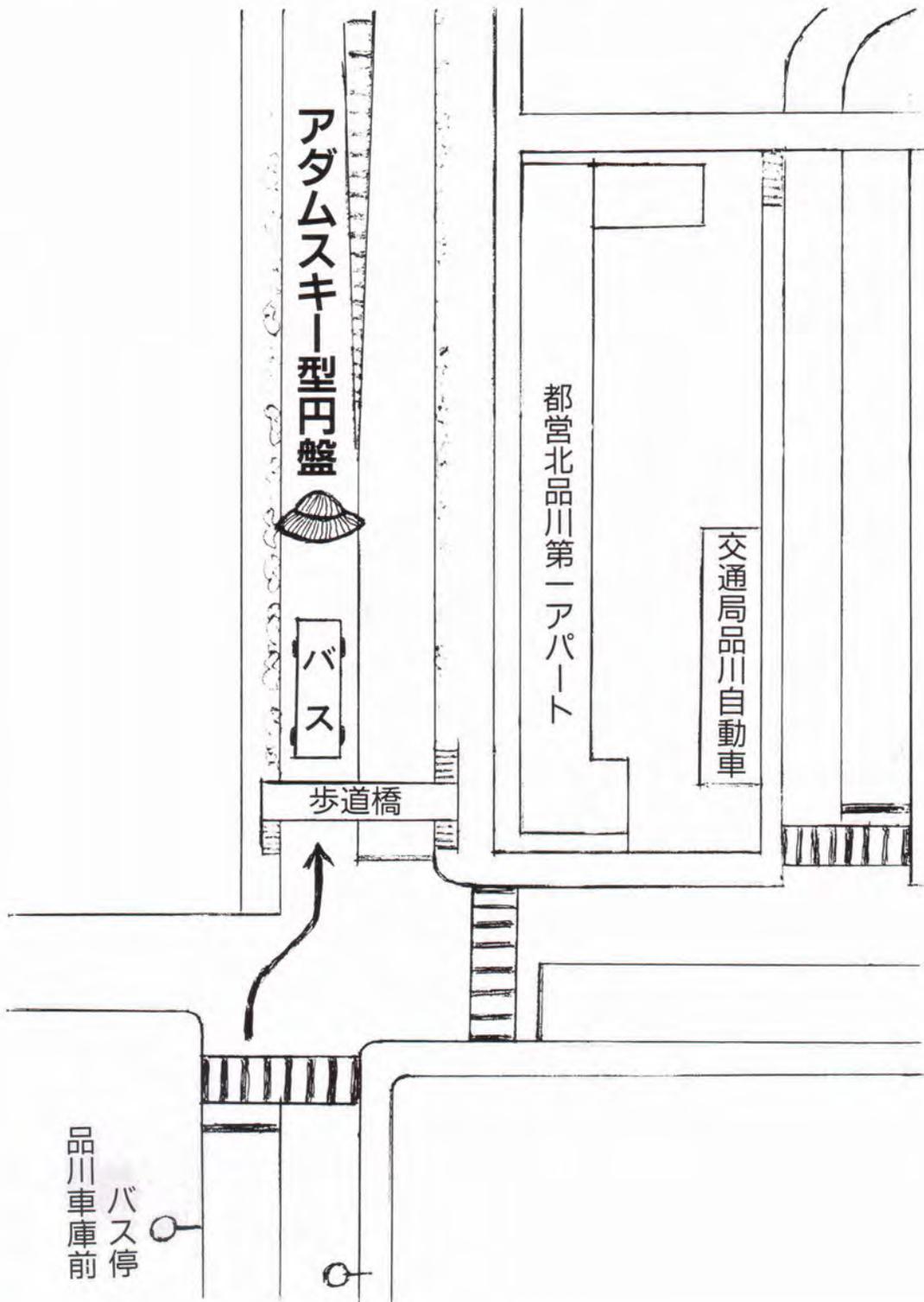
品川自動車（営）近くのバス停、品

川車庫前（品川駅方向）で乗客の乗降をすませてバスを発車しました。バス停の先の交差点は図に示しましたように、交差点の先の道路の中心が六メートルぐらい右にずれているので、発車するとすぐにハンドルを右に切り、さらに左に切って、バスを直進に立て直すことになりました。

直進に立て直った頃に歩道橋をくぐり抜け、バスの前方に目を向けると、目の前にUFOが停止しているのです。半透明のようで、UFOの中に人がいる気配を感じたような気がします。丸窓がいくつかあったように思いますが、配置まで記憶できませんでした。

UFOの高度は一〇メートルぐらい。バスの速度は時速三〇キロメートルを越えていたと思います。交差点より先はゆるい登り坂なので、アクセルを踏み込んでいました。「エッ、まさか、本当なのか!」と、そんなことが一瞬間の中を走りましたが、他にもUFOを見た人がいるかもしれないと思い、二つのルームミラーで乗客の顔を見ましたが、奥の乗客は気づかなかったようです。そして目を前方に向けたときにはもうUFOの姿はありませんでした。秋山君は乗車口に近い席に乗っていたのでUFOが現われて消え去るまで詳細に観察したのです。秋山君と共通の体験が出来た事を大変嬉しく思います。お互いにこれからの人生を頑張りましょう。

現地の見取図 (田口氏による)



身延山に出現した不思議なUFO

若尾要子

以下の話は私の知人である女性から聞いたものでして、今から一〇年前の出来事を三年前に知らされたのですが、話の内容をできるだけ正確にお伝えしようとしてここに記しました。ご本人のお名前は理由あって伏せることに致しまして、仮にXさんと呼ばせて頂きます。

「昭和五五年十一月十七日、午前五時四五分頃、身延山の御草庵跡にお参りした私が、ふと空を見上げたところ、御草庵跡の左側上空に、全体が青い玉のような感じの光体が見えてきて、その中に左図のような物体が白色の光を放ちながらポーツと浮かんでいるのが見えた。



その物体には窓が三つあり、頭の大きなお坊さんみたいな人間が三人、それぞれの窓の所にいるのが見えた。しばらく停止して、身延山の奥の院の方へ飛んでいった」

この目撃談をして下さったXさんは山梨県身延町の身延山に住んでおられまして、そこでお土産屋さんを営んでおられます。日連聖人を心から敬愛し、聖人の最後の住まいとなった御草庵跡に、ご主人と二人でお参りするところを早朝の日課にして、常日頃、日連聖人に会いたいと思っておられたそうです。不思議なのは、二人でその場にながらご主人は全く物体を見なかつたそうで、奥さんはご主人からバカにされ、一笑に付されたことを残念がっていました。

ご本人のXさんはUFOに興味はなく、雰囲気的にも実直な方で、到底、想像で話をするタイプの人ではありません。それどころか、その物体に連れて行かれるのではないかと不安になつて、「もう見たくないから出ないでくれ」と日連さんをお願いしたと言つて笑っていました。

ただ、ご本人は独身の頃、親戚の人

とLPレコードをかけて歌を聴いていたら、突然音が消えて、会話調のノイズが入ってきたということで、それは英語でもなく、全然聞いたことのない話し方だったそうです。これは一分間続いたということでした。見たところ平凡な奥さんという感じですが、やはり特殊な方だと感じました。

申し遅れましたが、私は日本GAPに入会したのが7年前で、久保田先生とは神奈川県秦野市でのUFO観測会でお会い致しました。UFOを目撃したのはそのときが初めてでした。

その後、昨年（平成五年）三月七日夜の七時頃、身延町の自宅のベランダで身延山方面を見ていましたら、ずいぶん大きな星がありまして、この時期になんという星だろうといぶかつておりますと、それは山の陰に落ちて、稜線に沿って火花の導火線に火をつけた感じで光が走って行くのを見ました。その夜は晴天で星が輝き、月がほぼ満月でした。

私は四五歳の主婦でして、アダムスキー哲学に出会って本当に良かったと、この人生を幸せに思っています。

編注

日連聖人（一二二二〜八二二）はわが国仏教界の大先覚者。現千葉県の大湊漁師の子として生を享け一六歳で出家して天台と真言を学び、各種の宗派を遍歴したが、三二歳で法華經こそ最

高であると確信し、南無妙法蓮華經を真理の言葉として復讐することを奨励し布教活動を展開した。

しかし激烈な言動と権力者批判により七一年幕府に逮捕され、佐渡に三年間流罪となつた。後に許されてから九年間、現山梨県の身延山にこもつて指導したが、八二年、山を降りて常陸へ湯治におもむく途中、武蔵国の池上宗仲の邸宅で六名の最高幹部（六老僧）を選抜し、後事を託して六一歳をもって没した。以後幹部同士の独立により日蓮宗は身延山と現富士宮市の大石寺に大別された。

現在身延山に残る御草庵跡は、日連聖人がここに草庵を結んで九年間起居した場所ので、一〇間四面の玉垣で囲まれている。また近くの石造白亜の八角塔に聖人の遺骨が収められている。

Xさんが物体を見たのにご主人が目撃しなかつたという例はよくあることで、UFOは複数の人のうち、何かの理由で光線の操作によって見える人と見えない人に分けることが可能であると秋山眞人氏が言っている。



▶御草庵跡

私だけが 見たUFO

Only I Saw a UFO
by Mitsuhiro Kudo

工藤光博

先日あるUFO観測会に参加してきました。主催は地元のUFO研究会なのですが、現地に到着して圧倒されてしまいました。投光機のライトが何本も夜空を交錯し、あちこちに配置されたスピーカーからシンセサイザーの幻想的な音楽（出演した吉祥姫というミュージシャンがこの日のためにつくったα波を誘導する曲）が流れ、交信場所には、赤い点滅灯で二重の円が形成されていてからです。まるでTVのUFO呼び寄せ番組と見違う程でした。更に秋田のABSというラジオ局が実況中継をすることから完全にイベント化していました。新聞や市の広報での呼びかけが功を奏しておよそ200人が集まりました。半分近くは野次馬でしたが、それでも多くの人が円を取り囲み持参した懐中電灯をオンオフしてUFOがやって来るのを待ったのです。テレパシーを交信手段としている日本GAPの方法とは全く異なっていることから、はたして成果があるの

か多大な関心を持って見守りました。

さて結果はどうだったのでしょうか？七月三日の夜は見事に晴れ渡り満天の星空を堪能することができました。日頃じっくり空を見上げる習慣のない人達にとって、その機会を提供しただけで成功といえるでしょう。番組が始まる午後一〇時には意外にも目撃したという声があちこちであがり、ちょっとしたパニックとなりました。しかし、どうも大部分は光に集まる蛾や飛行機、惑星や流星をUFOと誤認したようです。こういうことに慣れていないので無理もないでしょう。ただ一人だけジグザグに動く光体を見た興奮してインタビュに答えていた女性がいました。

確認はとれませんでした。確かにUFOは現われたのです。ちょうど中継が終わって帰りかけようとした瞬間、後ろが気になり振り向いたらスーと動く白い光体が目に入りました。残念なことに周囲の人は目撃できなかつたようです。蛍光灯のようなボーとした光で、地面と平行に三十メートル位の高さを音もなく通りぬけました。まさしくあれはUFOでした。

というのは私の家から以前にも同じものを見ていたからです。その時は三カ月に渡る呼びかけに応じて初めて隣家の屋根の上に現われ、ゆっくりと移動したのです。三〇秒の出現の間、観察されているというフィーリングを感じ

ました。今回は一瞬だったので感じはありませんが、彼らがやってきたことを確認するには充分だったと思います。ちなみに流星状のUFOもありますが、飛行機のビーコンライトとは全く異なり、フォースフィールドの光らしくボーとした明るい光です。

私は流星群の観測もやり写真にも収めていますが、明らかに両者にはいくつかの相違があります。最も特徴的なものは流星の場合、輻射点（大気圏に突入する地点）は計算できるものの、どの方向へ飛ぶのかわからないのです。しかし、UFOは窓から見える限られた空間にもかかわらず視線を向けた中央に出現するのです。これは彼らスペースイプルが明らかにこちらの想念を読み取り、見せて下さっているとしたか考えられませんか。それも心の状態にあわせて色を変え、白や赤や青の光となるのです。

ついこの間（八月一三日午前一時頃）も一年中で最も活動の盛んなペルセウス座流星群の写真を撮りながらUFOの呼びかけを続けていたところ、輻射点に向かってVターンした光体がありました。更に星がない場所が急に光る事がありました。空全体がフラッシュする現象も何度も観測されましたが、一部分がどの星よりも光ることから彼らの操作によるものに相違ないと思います。思わず感謝の念を送ったら、何度か光を向けて下さいました。この夜

観測された流星は五〇を超えますが、皆様も一度お試しになったらいかがでしょうか？ 流星+UFOウォッチングは最も感動的でトレンディーなホビーです。特に恋人同志ならベスト、私もいつかそう呼べる人と一緒に感動的に思い出を作りたいものです。

◀写真は筆者が今年六月七日に十和田湖でテレパシーにより白昼UFOを呼び出した写真。左端にUFOの船体の一部が写っている。



UFOとオーラと想念



山崎和子

この記事は本年七月三日に日本GAP東京月例セミナーで行なわれた講演の内容。真摯な探求の態度に聴講者の感動を呼びおこした。

大きなUFOが出現

初めに私が日本GAPを知ったきっかけからお話し致します。今から七年前、私は北海道で看護婦をしていました(編注：本人は千歳市の出身。札幌医師会看護学校卒)。さらに上の学校を希望して東京の大塚の正看の学校を受験し、年もとっていましたが、運よく上京して二〇歳代の方々と同席して学校に通っていました。

その病院には寮がありましたから寮に入りました。二カ月ぐらいいしてから、ある買物の帰りに病院の屋上のすぐ上に、まるでくつくくように大きな楕円形の窓のない物体がポツカリと浮かんでいるのです。

私の出身の街には自衛隊の基地がありますので飛行機がよく飛びます。自衛隊機も飛びます。夜のスクランブルも多いんです。自衛隊の人たちは公務員ですから夜は飛ばないんですが、深夜に飛ぶというのは、必ず何かがレーダーにひっかかって飛ぶということなんです。そういう環境の中で育っていますので、飛行機の形というのは大体に見分けがつくんです。

は、まず日の丸を探しましたね。日本の国旗またはメーカーのマークを探しました。しかしそういうものは物体にいつさい付いていないんです。その楕円形のメタリックな物体には――。

それで以前からUFOにも関心がありましたので、「これがUFOなのか？」と一瞬思いましたが、あまり考えないで、しばらく見ていました。音も聞こえないんです。最近のUFOには音が聞こえるのもあるとうかがっています。聞こえませんが、そのときには音はいつさい聞こえません。気球のような物でもありませんでした。

その建物、つまり病院の地下ではマウスの実験で細胞が試験管に入って、二四時間ゆさぶられている所なんです。ですから、私も今のところ何も考えないほうがいいなと思ひまして、すぐに寮に帰りました。

苦しいときにUFOが現われる

そのうち、友人に「UFOについて関心があるのよ」と言いましたら、その人がなんと日本GAPを知っていると云うのです。そしてUFOを研究するのなら、この団体がいいからと言って、その人は本をすぐに貸してくれました。そして新アダムスキー全集の全巻を読破しまして、一カ月ぐらいで、すぐにこのGAPの月例セミナーに参加させて頂きました。

その後も大塚では光体、ジグザグ飛行する物体とか、その他の光体をけっこう目撃しました。晴れた日も大塚の池袋方面に向かった通りを歩いて行きますと、雲一つない真つ青に晴れた空に、一カ所だけポツカリと丸い雲が浮かんでいるんです。

これは何か自然なものではないという感じが直感でわかりますので、グーツとにらみ続けながら道を歩いていくと、そのうちにポツカリと浮かんでくる丸い雲がやがて消えてゆくんです。

このセミナーに参加して終了後に夕食会がありますよね。それでビールをつぎながら先輩たちに話を聞こうとして私の目撃した物を話しますと、「そういうこともあるんだよ」と聞きまして、やはりあれはUFOが作り出した雲だったんだということを学ばせて頂きました。

UFOが現われるときには、いつも私がスランプにおちいったときが多いんです。大塚時代には人間関係とか学校制度とか、なじめないものがありました。ですからUFOを見ると勇気づけられましたね。

ふだん何もせずにただ瞑想をしてUFOを呼んだり、観測に行つてフツと見えたりするというのは素晴らしいなあと思います。私の場合は困つて苦しんでいるときでないとUFOが現われにくれませんでした。



▲メキシコ、テオティワカンの太陽のピラミッドを背景に。
後列右から3人目が筆者・山崎和子さん。(1994年8月)

地球の迷子

ある日、女子寮の屋上でなんとなく星が見たくなりまして夜景を見ていたら、ポーツと光っている物が見えただんです。ああ、これは星だな、と見えていますと、やがてそれはポーツと小さくなるんです。ほかの星は同じ所でキラキラキラと光っているんです。しかしそれだけがポーツと消えてゆくもんで、そのときはGAPに入っていましたから、「あ、これはUFOだ！」とすぐわかったんで、すぐに「行かないで！」という気持ちで念じましたら、また光体がポーツと元にもどってきて下さいましたので、「もう少し待っていて」と伝えました。私は昔、地球に遊びに来ていて迷子になったような記憶があるんです。それで「迷子の私はここでーす！」という想念をいっばい送ったんです。

そうしたら、しばらくのあいだ最初の光り方で光って下さいましたので、「ああ、やっぱり気づいているんだな」とわかって、でもあの方たちはどこかに行く途中ではなかったのかな、なにかの仕事の途中ではなかったのかしらと気づかひまして「もうだいじょうぶですから。もういいですよ。有難うございました」と言うと同時に、光体はちよつとだけ時間をおいて、またスーツと消えてゆきました。

今でも、あれは本当かな、と思うんですけども、ほかの星は同じように光っていません。あるいは雲の陰に隠れたのではないかと思うんですが、ほかの星は雲に隠れてはいないんです。だからやはりUFOとしたいので、お話ししました。

二カ所に出たUFO

それから月蝕の日なんか屋上へ行って、天体ショーを見ようというわけでビールなどを持って行きましたが、野鳥の会の女の人が先にいまして、月蝕と一緒に見ようねと言いましたら、その人が「左の方の空にすごく光る星みたいな物がある」と言うんです。

その方はちょうど双眼鏡を持っていらつしやいましたので、それを借りてその星を見ました。

そうしたら双眼鏡の視野の中でクルクルと光が赤、青、黄色といろいろ変わりながら、場所が少し動いているような感じなのです。手ぶれかなと思つて場所を固定して、その方に見てもらいましたら、「あれは星じゃないね」と言うのです。やはりUFOかなと思ひました。

すると今度は月の右下にもさつきまで光っていなかったものが現われて、また同じような光り方をしていっています。これはおかしいと思つて、またも双眼鏡で見ましたら、やはり同じよう

な状態で見えます。結局、二カ所に現われたんです。

やがて屋上の床が強い光でパツパツと照らされました。八階建てですから、床が光るといことは上から照らす必要があります。その女性の方は怖がってしましまして、もう帰ると言うものですから、私は送って行きました。

奇妙な偶然

GAPのこともう一つあります。私は看護婦の学校を卒業していますけれども美術関係の学校にも行っていました。若かりし頃のこと、それは札幌にあったんですが、その頃はそのデザイン学校が出来たばかりで私は三期でした。私はディスプレイ料、立体科を卒業したんですけども、彫刻とか絵画、油絵とか、あとはグラフィック等、八〇名ぐらいの学校です。

それで一期上の先輩の作品展示会の絵を見ているときに、すごく印象の深い絵があったんです。私が一八歳のときです。「この絵は素晴らしい絵だなあ」と思って立ち止まってみとれていました。その後その絵のことを忘れることはなかったんです。

その後、日本GAPを紹介されましてわかったんですが、その絵はなんとGAPのシンボルマークだったんです。ですから誰か先輩がGAPを知っていて、アダムスキーをご存じて、シンボ

ルマークを絵に描いて展示会に出していたということが、ここに来てはじめてわかりました。

今年のことですが、私と同じ学校の後輩三人がまたGAPに入ってきましたので驚いています。そこは小さい学校です。大学ならともかく、北海道の田舎のこれほど小さな学校で、先輩がシンボルマークの絵を描いていて、私がそこを出て、しかも先輩が三人もGAPに入ってきて計五人も同じGAPにいるんですから、小さい学校ながらもそこを出てよかったですと嬉しく思っています。そのシンボルマークの絵を描いた方はカツマタさんという方であることがやっと今年わかりました。

オーラの話

次に「気」の話を見せて頂きます。ここでもオーラ透視はしていますけれども、私はオーラの色として感情のオーラの色はときどき見えます。たとえば人が怒ると、頭の上から黒いものがフワッと出ていたり、ケムリのような感じですよ。

ものすごく怒っている人を見ると、背中から赤い炎がフワッと出ています。さわって慰めてあげようと思っても、べつにその赤い炎は熱くはありません。でもメラメラと燃えています。

患者さんで心臓の悪い方がいまして、いくらかUFOの話をしてもらって

れなかったんです。私がこうですすよと言つても、絶対そうじゃないですよ、というような感じで、全然信じないんです。その方の心臓のあたりを見ると、黒いベタツとしたようなものが張りついていたように見えるんです。

こういうものを見ると、人から出るものを目にする、自分のオーラはどうなんだろうと思ひまして、なるべく私は自分の体からはそんなものを出さないようにしようと考えて、明るいオーラを出すようにしようと思ひかうようになりました。

また、こんなこともありました。ある人が道を歩いていたんですが、突然立ち止まったんです。それでその人を見ていると、足もとから孔雀の羽のようなオーラが、まつわりついているのが見えたんです。

ですから、体の方が先なのか、気の方が先なのかという問題ですが、気が先に動いているということがわかって、よい勉強になりました。

花がオーラで慰めた

今度はお花のオーラの話を致しました。私は学生だった頃、豊島区の中央図書館によく通いました。この図書館には久保田先生の昔の絶版になった本もありました。職場の病院からそこへ歩いていく途中の通り道にとてもきれいな野草で、真っ白い花が咲いて

たんです。JRの線路ばたの人がやつと通れる静かな道です。

その花の香りがすごくいいのです。通るたびに「とてもいい香り。有難う」と心から感謝の想念を送っていました。私の苦しかった時代ですから、本当に嬉しかったんです。

ある日の夕方、帰るときに、その花たちがいつせいに光りだしたんです。それは空間に大きく伸びているオーラなのでして、お花や葉っぱや、その他のものから光り輝いて出ているんですよ。よく見ると花の一個一個に赤い丸いものがポツポツとついているのが見えました。それもオーラだったと思ひます。

これは私の辛く苦しい時代でしたから、お花が私を励ましてくれたんだなと受けとめて、「有難う、有難う」と通りかかるたびに何度もお礼の言葉を投げかけました。

GAPでもよくお花の問題が出て、想念の力で花を動かすとか、久保田先生も薔薇の花に呼びかけて動いたとかいろいろ言われていますが、これは確かに本当だと思います。

こういうことがあったにもかかわらず、私は体を壊しました。大塚では夜も安眠できない所だったんです。勤労学生ですから、睡眠時間は毎日四〜五時間というところです。日中は立ちづめです。この環境の劣悪さは働いた人ではないとわかりません。

危険信号

ある日、頭の中で神経がブツンと切れる大きな音が聞こえました。体の中の音が大きく聞こえました。こんなことはあり得ないんですけども、何か体に不調があるんだなというインスピレーションが感じられて、危険信号だと考えました。あと一年で学校を卒業というときですが、この場所を引き払うほうがよい、ここにはいられない、体が大切だという印象を強く感じて、学校を卒業して正看になるよりも、体に気をつけるべきだと思い、学校を中退しました。そこを引き払うということとは中退を意味しているんです。手続きをしてからは一カ月間いられますから、その間はぐっすりと眠って過ごしました。

しかし、次の仕事と住む所を探さなくてはいけませんから、まずアパートを見つけて、次に看護婦紹介所へ行つて条件のよさそうな職場を見つけたんです。そこを仕切っていたのはなんと九四歳のおばあさんで、何もかも一人でこなしているすごいウルトラばあさんでしたが、もと助産婦さんだった方です。その他、このアパート探しに関しては何も不思議な事がないとあって、びっくりしました。

その後、いろいろと出張の家政婦のような仕事にもついて沢山の家庭に出

入りして、ずいぶん世の中のあらゆる面を知ることができて、人との出会いというものがあるにいい勉強になるかを知ることができました。

空き巣狙いを追い払う

その後、ある夜、アパートの自室で大宇宙瞑想を行っていたんです。すると空き巣狙いらしい人が次々と各ドアをいじっている音が聞こえてきて、やがて私の部屋まで来たんです。玄関のドアのカギはしめていたんですが、窓のカギをしめるのを忘れていたものから、その男が窓をあけて中を見込んでいます。

でも私は大宇宙瞑想を行っていたので、全然怖くはなくて、顔が会ったときに、わざとドスの聞いた声で、「誰ですか」と低い声で言いました。この相手はすぐに逃げてしまいました。この大宇宙瞑想は、とても良い効果があります。(編注)大宇宙瞑想は東京月例セミナーで編者が指導している宇宙の意識と一体化のフィーリングを起こす方法。現在は大宇宙思念法、略して宇宙思念と呼んでいる)

その後、二子玉川園の東洋医学と西洋医学を一緒にしたような病院に職を得て、そこで働いていますし、そのとても快適な寮に住んでいます。これも大宇宙瞑想のお蔭だと思います。ヘンなおまじないよりも大宇宙瞑想が

絶対に効果があると確信しています。

自分の想念再点検

今日の題の「あなたに伝えたいこと」いうのは、皆さん方の想念の再点検をして頂きたいということなのです。この世界は自分中心ではありませんから、相手への理解を充分にした結果か、自分を守りすぎてガードを固くしていか、ということなのです。特にこれは精神の発達を遅らせると思いますが、他人に迷惑をかけなければいいや、というものでもないですね。これも精神の発達を遅らせると思いますが、いつも久保田先生が「良い想念を多くし、悪い想念をなくすように」とおっしゃっています。私も各家庭を回りまして、その家庭の善悪の判断の差というものに驚きました。どこに善悪の価値基準をおいてよいか、わからないんです。

これを考えてみますと、自分がどこに位置しているのかを把握することが重要ではないかと気づいたんです。善と悪があります。私の場合は感情のオーラが見えるもので、自分の感情がオーラの色からいって、どこに位置するかが問題です。光には黒が入りませんが、感情のオーラには黒が入ります。自分がどこに位置するのか、この判断がむづかしいんです。それと自分の思い込みの深さです。そういうことを思いながら、自分の想念をもう一度

確認してほしいと思います。

各家庭を回っていますと、善い家庭ばかりでもなくて、悪人もいました。その悪人からもオーラが出ています。しかし悪人も空気と水と光を与えられて生かされています。しかし本人は自分の想念を悪いとは全然思っていない。

しかし皆さん方は想念を観察する方法を知っていますから、それによって自分の出しているオーラをきれいにすることができるとです。自分のオーラをきれいにすると他人のオーラも見えやすくなるのではないかと思います。

地球と仲良く

とにかく、この世のマインドコントロール的なものに影響を受けないようにすることが大切だと思うんです。訪問看護で思ったんですが、仕事というのは奉仕だと思いましたが、これはスペース・ピープルがおっしゃっておられることです。

最後にお伝えしたいことは、人間の体は最初は波動であって、それが原子、分子、細胞、器官等になるのですから、地球と仲良くしないと体が減びてしまいます。人間というのは空気、光、温度等で生きています。肉体は常温という環境の条件の範囲が狭いです。ですから心の正しい使い方です。自然を守ってゆかないと危ないと思います。

近頃GAP会員の家族の方々のなか
に、ガンとかその他の難病に苦しんで
おられる例が少なからずあることを知
って気の毒に思っています。もちろん
熱意のある会員ならば、宇宙哲学の応
用によって自分の病氣ぐらひは治せる
はずですが、こと家族となると身内と
はいえ自分とは別人ですから、想念
の力によって治すというのは、場合に
よっては至難になるかもしれません。
そこでメキシコの奇跡の水を飲ませ
てくれとか、その他の方法を依頼して

How to Cure Serious Diseases Miraculously
by Hachiro Kubota

奇跡的に難病を治す方法

久保田八郎

はおいても医師の診察を受けて適切な
処置を施してもらう必要があります。

昔のアフリカのある種の種族やアメ
リカン・インディアンは魔術的な方法
によって奇跡的に難病を治していたそ
うですが、現代の文明人は、このよう
な魔術に頼ってもまず効果はないでし
ょう。それはバカバカしいという否定
的な想念が先に立つからで、そのため
に術者の想念波動と同調しないからで
あると思われま

すが、誰もがあたまから肯定

こられるわけですし、私としても一人
でも多数の方の難病が治るように出来
る限りの努力をしているつもりですが、
手遅れの場合、または何かのカルマに
よると思われる場合は、治らぬことも
あります。そこで、いつたいどうすれ
ば良い結果が得られるかについて、こ
こで少しまとめてみましょう。

まず第一に病氣になったならば、何

まず病院で治療を受けるこ
と

はないと言われていますが、これにつ
いてアダムスキーが非常に良い実例を
あげています。

それは新アダムスキー全集第二巻の
「超能力開発法」です。この原書は昔
アダムスキーから私に贈られたもので、
原書名は「TELEPATHY THE COS-
MIC OR UNIVERSAL LANGUAGE
となつています。つまり超能力の一種
であるテレパシー能力の開発法を述べ
た書物ですが、主として人体細胞の働
きについて解説したものです。いま考
えますと、一九五〇年代にこれほどの
物凄い知識情報を伝えた本が出ていた
というのは驚異的だとして、アダムスキ
ーがいかにすさまじい知識を持ってい
たかがわかります。

なんとすれば、アダムスキーの説い
た細胞の機能に関する科学的な実態を
確認するような本が最近出たからです。
それは「あなたの細胞の神秘な力」と
題する本で、著者はアメリカの科学者
ロバート・B・ストーン博士、訳者は
東京外国語大学教授・奈良毅氏で、祥
伝社発行です(千一〇一東京都千代田
区神田神保町三六一五、九段尚学ビ
ル。一九〇〇円)。

この書の内容についてここで詳述す
る余裕はありませんので、詳細につい
ては直接お読み下さい。あの昔、アダ
ムスキーの説いた説がいかに進歩的
で時代を先取りしていたかを如実に知っ
て読者は快哉を叫ぶでしょう。

それはそうです。アダムスキーの細
胞に関する知識は、実はスペース・ピ
ーブル(進歩した惑星から来た友好的
な異星人)から伝えられたものではな
ら、どだい地球の盲目的な学問とはケ
タはずれであつたのです。

ヒステリー人間は病氣に
なる

話を戻しましょう。前述の「超能力
開発法」の八五頁(但しこれは中央ア
ート出版社刊の新アダムスキー全集第
二巻)に「心配したために重病になつ
た婦人の例」と題する小見出しがあつ
てそこに次のような記述があります。

要約しますと、アダムスキーの知人(婦
人)で家事万端をそつなくこなして、
家の中は常にその婦人によって超整理
整頓されている状態で、子供たちにも
絶えずうるさい小言を言い、徹底的に
家庭を支配しているものですから、ダ
ンナは雨の夜などは帰宅しても裏口へ
回って靴を脱ぎ、靴下のままで入つて
くるような有様だつたといふのです。

西洋人の家はいつも靴をはいたまま
で中へ入りますから、これはダンナに
とつては辛いことです。なぜなら、も
し濡れた靴のまままで上がり込めば床が
汚れるために、奥さんのヒステリーが
爆発して怒鳴りつけられるからです。

日本でも大体に掃除好き、きれいな
タイプが多いのですが、この夫人も例

アダムスキーの理論は証明
された

実際、人間の肉体ほどに暗示や他か
らの想念によって支配されやすいもの

にもれぬタイプだったわけですから、ついに重症の肺結核になったので

そのために夫人は気苦労と緊張感から、人間の想念はまず本人の全身の細胞に確実に影響を与えますから、あまりにもギスギスした刺のあるような想念を持ち続ける人は、何かの病気にかかりやすいのです。常に沈痛な表情の人は、大抵の場合、胃の悪い人が多いですね。

ところが、夫人が診察を受けた医師は素晴らしいドクターでした。完璧に病気を治すための次のような哲学的な話をして忠告したのです。

「今日、お宅のピアノの上に少しゴミがあったとしても、これから四〇年後にそんなことは誰も知らないだろうし、気にもしないでしょ。ですから、ゆつたりして、これから四〇年のことも考えなさい。そうすれば、あなたが絶えず家族の人を非難していたことが、どんなにつまらないものであるかというところを少しは納得できるでしょう」

(筆者訳)

そこで一大変化が夫人に起こったのです。この名医の言葉に素直に従った夫人は、入院中に雇った若い家政婦が非常に明るい女性で、すべてを巧みに切り盛りしてくれたので、夫人はすっかり安心して気分をゆつたりさせられたために、肺結核は見事に治って、今度は以前とは打って変わった優しい温和な女性となって、明朗な家庭を建設した

というのです。

そこでわかるのは、健康体を保つには、まず明るい楽天的な心を持つということとです。つまらぬ事でククヨシない。怒り、恨み、憎悪、その他の分裂感情を起こさない。そして自分の想念を明るいプラスの想念に切りかえること。そのためには万物一体感を持ち続けて、万人と万物に調和するようなフイーリングを保つこと。これが重要です。「超能力開発法」では次のように述べてあります。

「銘記すべきは、私たちが自分の想念を破壊的感情に支配させる限り、肉体の自然の働きをさまたげることになり、好ましい性質の波動以外の流れ入る波動をせきとめる堅固な防壁を築くことになるという事実です」(筆者訳)

素晴らしいイメージ法

人間の想念が肉体に甚大な影響を与えるということは周知の事実ですから、健康体を保つには、なんとといってもまず自分の想念を建設的なプラスなものにすることが最重要です。そして、病気になるのは、本来健康で完全に美しく創造されたはずの肉体に歪みが発生するわけですから、それを修正する方法として、自分の心の中でイメージを描く必要があります。

つまり病気の人は、完全に治って健康体になって、嬉しく飛び回っている

ようなイメージをしつかりと鮮明に描き続けるのです。このイメージは想念波動の一種ですから、それは肉体細胞に必ず影響を与えるはずでして、根気よく続けるならば、やがてそのイメージどおりに肉体が変形してくるでしょう。つまり歪みが修正されて、健康な肉体に変形してくるわけです。この方法を応用して子供のガンを見事に治した名医がやはりアメリカにいましたね。

それはガン細胞をやっつける強力な軍団が、坊やの体の中で進撃している光景をイメージとして描かせたのです。その結果、ガンが少しずつ消えて、完治したということです。この実話は昔、アメリカのある有名な週刊誌に出していたので、今でもよく覚えています。

このような指導をする医師を日本でするのは難しいかもしれませんが、これは素人でも応用できるものです。ただし病院で診察して医薬の治療を受けて治るものならば、それが最もつとつと早い科学的な方法ですから、まず病院へ行って治療を受けるべきです。

アダムスキーによりますと、非常に進歩した惑星には特殊な万病治療機があつて、それを用いて一日に数分間、患部に放射線を放射すれば、どんな難病でも簡単に治るといふことです。これなどもつとつとつところは科学的な機械であつて、精神的な物ではありません。

スペース・ビープルはこの機械をニューヨークのある大病院に寄贈したと

いうことですか、それぎりで、まったく表面に出てきません。それはそうでしょう。こんな機械が大量生産されて一台が二〇ドルかそこで市場に出回れば、世界の医療界は完全に破壊してしまします。そのために経済上のパニックが起こるでしょう。だから病院では隠してしまつたのです

しかし、来世紀になれば地球でもこのような治療機械が開発されて、多大な恩恵を被るようになるでしょう。

絶対！効果のある 反復思念法

でも来世紀までは待てない。いまが進行中なんだ。なんとかして治したい！と悲痛な叫び声を発する方がいるかもしれません。それはまことに気の毒なことです。私はこの年齢(七〇歳)になって、やつと他人の苦しみを理解できるようになりましたから、難病で呻吟しておられる方をみれば、ああ、なんとかして助けてあげたいなあ、と心底から同情の念を禁じ得ないのですけれども、医師ではありませんで、医学的な治療を施すわけには行きません。

しかし、昔からアダムスキーの宇宙哲学を研究実践してきた私には、それなりの素晴らしい治療法を心得ています。それは反復思念する方法です。

つまり先にも申しましたように、人間の想念は細胞に甚大な影響を与えま

すから——このことは先程紹介しました「あなたの細胞の神秘な力」に科学的な研究結果がたっぷりと書いてあります——、その想念の力を応用するのです。具体的にはどうするかと言いますと、私の場合は絶えず唱える言葉がきめてあつて、それを暇さえあれば反復して心中でリズムカルに唱えます。次のとおりです。

私は健康 無限に健康 絶対健康
私は完全 無限に完全 絶対完全

この言葉を特によく唱えるのは、夜床についてから、仰向けになって大宇宙思念法を行なうときに、長時間、唱えます。そして唱えながら眠り込んでしまうこともありすが、これならば最高です。

このように自分の健康を維持するため、または何かの病気を急速に癒そうとする場合は、この「治し言葉」を間断なく唱えて、その想念を全身の細胞に吹きかけて浸透させるのです。

これを反復思念法と呼んでいます。人によって思念力の差があるにしても、確実に効きますね。たとえば、私自身は軽度の慢性持病が数種類あるのですが、それにもかかわらず、このGAP活動で多年驚進してきたばかりか、現在でも怒濤のパワーでもって日夜奮闘しています。本役員達に言わせれば、私は年齢の半分程度、すなわち三五歳

程度の体力と気力を持つ驚異的な人間だということになっています。

それなら、なぜ慢性持病が治らないのかと、いぶかる方があるかもしれませんが、それはまだ私の信念が不足しているからだとみています。まだ一〇〇パーセントの信念パワーを出し切っていないのでしよう。これから出します。

若々しい楽しい気分を保つこと

とにかく私は「永遠の二四歳」であると自負していますから、精神的に年をとることはありません。なぜ二四歳を標榜するかといいますと、昔この年齢のときにある職業についていたことがあつて、この一年間が最も楽しかつたからです。人間は過去の楽しい記憶を保つべきで、悪い事は忘れるほうがよいのです。

それはともかく、七〇歳になりますと、都内のバスや都営電車の無料または割引乗車券が区から交付されます。これは有難いことなのですが、実際に使用してみると具合が悪いのです。わしも七〇ジジイになつたんかのう」と老人気分が起こつてしようがないものですから、小銭があるときはなるべく使用しないで、バス賃を払って乗ることになっています。

また、私の服装をオシャレだとかハイカラだとか言う人もいますが（これ



▲筆者24歳の頃。

は女性に多い)、服装も若い気分を保つための苦肉の策なのでして、たんなるモダンボーイ気取りではありません。

こうして、まず気分を若く持つこと、これが若さを保つ最大の秘訣です。これに加えて、反復思念を間断なく行なえば最上です。

たとえば、私などは道を歩いているときも無考えには歩きます。片足を前方に出すときに「有難う」と心中で言い、次の片足を出すときに「ごさいます」とリズムカルに唱えます。歩くときの歩数は無限ですから、これを唱える回数も無限です。

あるいは、ときには数百枚のGAP関係のチラシ等の一定箇所にゴム印を押す仕事がありますが、普通ならば退屈きわまりない仕事ですけれども、私は全く退屈しません。というのは、ゴム印を一回ずつ押すたびに「有難うご

さいます」と心中で唱えて押すからです。これは実に楽しい仕事でして、こんな素晴らしい仕事がある世の中のどこにあるだろうかと思うほどです。

大宇宙思念法

「有難うございます」と言つて誰に感謝するのか。それは大宇宙の創造主です。創造主と言えば、いかにも宗教がかかつて聞こえますが、私の貧弱な頭脳でもつて、どのように考えても、この宇宙は偶然の現象ではないです。何かの根源的な叡知とパワーによって形成されているとしか思えません。天体物理学的にも本当のところは謎であろうと思います。宇宙の仕組みが完全に解明されたと称する学者がいたら、これ以上に傲慢な態度はないでしょう。それはともかくとして、私は昔から

大宇宙瞑想と称する思念法を行なっています。しかし「瞑想」といえば宗教的に響きますから、現在は「大宇宙思念法」と呼んでいます。略称は「宇宙思念」です。

この方法は東京月例セミナーで実習していますから、ご存じの方も多いいと思います。要領は簡単です。

まず立ち上がって（座ってもよい）、直立し、体を柔らかくしたまま、両手を前て組んで下腹に当てます。顔は少し上を向くようにします。両目をつむって、心を静めます。

口をつむって、鼻から少しづつ息を吸いながら、それを下腹に落とします。そうしてある程度、息を下腹に落として一杯になったとき、息を止めて、そのとき全身に大宇宙の生命パワーと叡知が全身の細胞に充滿したというフィードリングを起こします。

このときに自分が実現させようと思っている願望を唱えて、一緒にイメージを描きます。健康になろうと思えば「自分は健康だ。病気は治った！」と唱えて、実際に治つて健康になったイメージをはっきりと心中で描きます。そして口から息を少しづつ吐いてゆきます。これをくり返すのです。この反復思念とイメージ法は、必ずしも大宇宙思念法とともに行なう必要はないのですが、思念法とともに行なえばベストです。

以上の宇宙思念を根気よく真面目に

続けるならば、難病は治りますし、願望も実現します。実際にそのような例がGAP内で続々と発生しているのです。しかし当者達は効果があるのを当然だと思つていきますから、声高に公表しません。

マハ・グル・メッタ思念法

どうしても大宇宙思念法がうまくゆかない、気が散つてしょうがないという難病の人は、仰向けになつたままで、思念する方法がありますから、ご紹介しましょう。

私は世界の多数のUFOと精神世界の探求団体や個人研究家と交流していますが、その一つにインドネシアにある「マハ・グル・メッタ」いう団体があります。今春この団体に英文版ユーコン誌の第九号を送りましたところ、丁寧な返事にハガキ型のカードが添えてありました。その中に次のような素晴らしい文章が英文で印刷してあつたのです。

「自分または他人の病気を治そうとする場合は、目をつむり、唇を動かさないうで、次の言葉を心の中で日夜くり返しなさい。『私は、自分の魂の中にある神の愛を、愛します。そして○○さん（病人の名前をとなえる）の魂の中にある神の愛を、愛します』」

右の言葉を唱えれば治癒は必ず発生

します！ あなたはその結果に驚嘆するでしょう！ 一〇〇パーセントの成功例が報告されています。ただし緊急の手術を必要とする場合は、それを受けて下さい」

右の言葉の中の「神」という言葉が宗教的だといつて気になる人は、これを「創造主」と言いかえればよいでしょう。創造主でも気になる人は「宇宙の意識」と言つてもかまいません。みな同じ意味です。ただし「宇宙意識」というふうに、あいだに「の」の字を入れない場合は、これは人間の持つ意識を意味することになって、意味が完全に違つてきますから、要注意です。

私はこのインドネシアの「治し言葉」を、ある人の持病を治すためにひそかに応用してみました。が、確実に効いたのには驚きましたね。その人の私に対する態度まで変わってきたのです。皆さん方も試してみして下さい。

高貴なるカルマをつくるために

こうした精神世界の探求を宗教的だといつて批判する人がありますが、それは問題ではありません。問題なのは、自分自身がいかにして進歩するか、そして苦しんでいる他人をいかにして助けてあげるかにあります。もし、GAPを罵る人があれば、右の癒しの思念法を実行すると、相手は覚醒して反省す

るかも知れません。また、自分を憎悪する人があれば、その人のために右のメッタ思念法による心の癒しの思念法を行なうとよいでしょう。そうすれば相手はあなたを愛するようになるか、または黙つて去つてゆくでしょう。それによつてあなたは高貴な燦然たるカルマをつくることになりす。

以上の方法は絶対的に有効ですから試してみして下さい。何らかの効果があつた場合は日本GAP本部宛にご報告下さるようお願い致します。

私のこの頃の認識は、万物はすべて大宇宙の創造主の現われであり、むしろ創造主そのものであるということにあります。目につく限りの何を見ても誰を見ても、創造主そのものがそこに存在しているというフィードリングです。遙かな進歩を遂げた偉大な惑星群の人達と地球人との根本的な相違は、この「宇宙の創造主」をどの程度に認識するかにかかっているようです。アダムスキーの「第二惑星からの地球訪問者」には、スペース・ピープルは夜間の睡眠中でも創造主を意識し続けていると述べてあります。

これからみますと、地球人の生命観、宇宙観は不遜ながらもまだ幼児の段階ではないかという気がします。創造主という概念に従つた生き方をするかしないかで決定的な差が生ずると思われのです。この生き方は私にも至難ですが、なんとか努力してみましよう。

異星人とUFOの真相 (2)

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳△アダムスキー講演集 連載8▽

ユリアナ女王との会見の真相、世界をあやつる黒幕、有名な人の勇気ある発言、異星人の絶大な援助等の秘話が展開。

(前号より) 誤解しないで下さい。私は、あの種の会議に出席して話をしている人々のすべてが好きです。ただ、ちよつと考えてみてほしいのです。もし彼らが私と同じような立場に立って団結したならば——私は確かに多くの批判を受けています——私の周囲は決して薔薇の花園ではありません。でも、もし彼らが私と共同歩調を取ったなら、いったいどれほどに、この事ができるでしょう!

ユリアナ女王との会見の真相

私一人だけで成し得たことを考えてみて下さい。一国の女王に会い、二時間も会話を交わすことさえできたのです。それは、アイゼンハワー大統領と二時間に渡った会話を交わすことよりもはるかに価値あることでした。とい

うのは、あの女王はこの世界のいかなる大統領よりも尊敬されているからです。それは、あらゆる意味で実に貴重な会談でした。(訳注) オランダのユリアナ女王との会見を意味する)

空飛ぶ円盤はこの世界で何をしてい

るのでしょうか? 彼らは我々に語りかけているのです! スペース・ピープル(異星人)はそれをとてうまく行なうてきました。私のお陰ではありませ

ん。私は単に彼らのメッセージにすぎませんでした。私は今日地球にいて、明日はもういなくなる身です。ただしそれも彼らに言わせると生き続けるためだということになります。い

ずれにせよ、彼らはおおむね我々に語るための好機をとらえ続けてきました。ところで、皆さんの多くが、タイム誌に掲載された私に関する記事を読まれたことと思いますが、あのときの経

緯をすべてお話ししましょう。どうしてあんな滑稽な記事が書かれることになったかがよくわかるはずですよ。

まず第一に、私はこつそりとハーグに入りまして。アムステルダム郊外のテレビに出演した後、私はハーグ郊外の美しいホテルに完璧に身を隠していました。記者たちは、当地で私の広報を担当していた人物との接触を図りましたが、私の居場所を突き止めることはできませんでした。

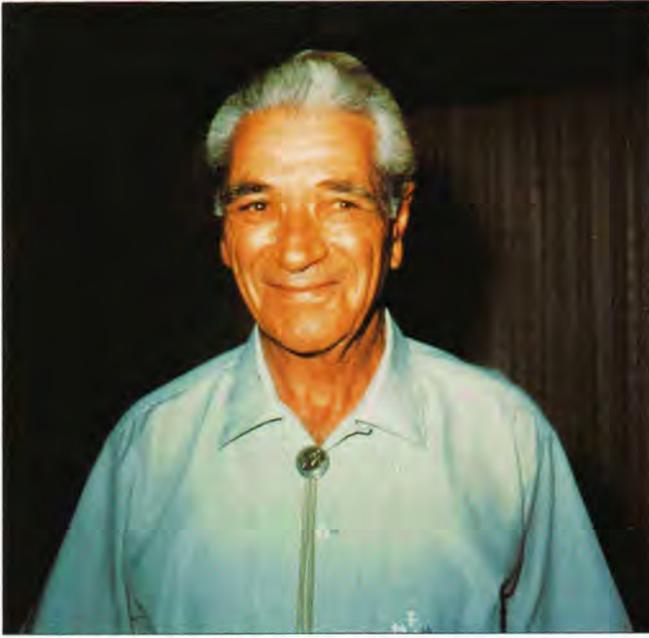
やがて、宮殿の車が迎えにきました。そしてその車は私を乗せて、普段とは全く異なったルートを通って宮殿に向かいました。記者たちは私がいた場所も知らなければ、私がどこを通って宮殿に行くことになるのかも知らなかったのです。宮殿の門のところまで私を迎えたのは、ほんの少数の護衛たちのみでした。五月一日のことです。月曜

日でした。

そして私は、午前十一時に宮殿に着き、午後一時にそこを出ました。女王との話が進んでしまったために、講演は二〇分ほど遅れて開始せざるを得ませんでした。講演会場では超満員の聴衆が待っていてくれました。

私は、そのようにしてユリアナ女王の宮殿に行き、戻ってきたわけですが、私を乗せた車が宮殿の門を出ると、そこには少なく見積もつても一万人の人々が集まっています、丁寧に礼をし、手を振ったり、その他あらゆる手段を用いて私への敬意を示していました。体の置き場所がない、とはあんな状態を言うのではありません。

やがて私は宮殿の車から降り、講演をし、その後でハーグの町を歩きました。するとまた誰もが私に丁寧に挨拶をするのです。路上でも、ドラッグストアーに入つても、とにかくどこに行つてもです。私はいったいどうしたことになるのかと考えました。考えてもわからないので聞いてみました。すると、女王に謁見したことが報じられた人間に対して、その名譽に対して、彼らは常にそういう敬意を払うのだそうです。それは私にとってちつとも嫌なことではありませんでしたが、講演後の記者会見はなんとも困ったものでした。演壇に上がった際、まず私は聴衆に向かつてこう言いました。オランダ人の聴衆に向かつてです。



▲ジョージ・アダムスキー。ダニエル・ロス氏提供

「皆さんの愛すべき女王陛下のような国家指導者もつとたくさんいたならば、この世界は素晴らしく平和な世界となることでしょう」

私が女王に関して話したのはそれだけです。それを話した後で、私は自分の講演に入りました。

しかし、問題は私の講演の後です。記者たちは、女王が私との会見中にどんな話をしたのかを執拗に聞きたがりました。でも、それに対する私の答えは一つのみでした。それが唯一正しい答えでもありません。それはつまり、「女王が自らお話しになるのを待つべ

きです。それが彼女への儀礼というものです。彼女がお話しになったのなら、私も話しましょう」という答えでした。

そしてこれまで、彼女はまだ何もおしゃべりして語っていません。よって、私も本の中で書いたほんのわずかなこと以外は、彼女との会話の内容は一切口外してはいないというわけです。

しかし彼女は、私との会話の内容をペラペラと喋ることの代わりに、素晴らしい行動に出ています！旅行からもどって家に着くとまもなく、女王からもっと多くの(UFO)写真や文献を提供してほしいという連絡が入り

ました。私はすぐにそれらを送るとともにデスモンドスリーその他の、彼女に本物の写真を提供してくれ得る人々を何人も推薦しました。

決してすべての写真が本物ではないのです。偽物の写真がどれほど出回っているかを知ったなら、皆さんはきっと驚くでしょう。私は何も自分を売り込んでいるのではありません。私はいかにしたら、明日にもここを去ることになるかもしれないのです。しかし、事実は残ります。そして時間がその真偽を証明してくれます。

最終的に彼らは、あらゆる資料をまとめて三五ミリフィルムプログラムを作成しました。それは、ちょうどビジネス用プログラムのような形態にまとめられたもので、私のもとにも届けられました。さらに、そのテキストも作られました。そしてそれが、この前の秋からオランダ中のあらゆる学校で教材として用いられているのです！

私との会見の内容を女王はそのようにして語ったのです！そして今や、英国、オーストラリア、ニュージーランドをはじめとするいくつかの国々が、それによって子供たちがどんな影響を受けるか、あるいはどんな利益を手に入れることになるかを研究中です。そして、もしその有益性が確認されたならば——現在それが確認されつつありますが——今度は、それらの国々の学校でも、それが同じように教えられるこ

とになっています。

ここでも、ここばかりでなくこの国全体でも、同じようなことができるはずですよ！でも、我々は今何をしているのでしょうか？誰もがただ、もつと円盤を目撃したいと願っているのみです。そんなものは、いくら目撃したところでどれも皆同じです。さらには、異星人の誰かがやって来て家の扉を叩いてくれないだろうか、そんなことのみを願っているのです。自分たちがすでに手にしている知識を研究し、その知識に飢えている人々にそれを提供しようとする代わりに、そうやって、ただ自分のエゴのみを満足させようとしているのです！

我々がしなくてはならないことは他にあります！女王は、余計なことは何も話しませんでした。私も話ませんでした。そしてその結果、今や我々のすべてが喜びを分け合っています。子供たちが真実を教えられつつあるのです！

世界をあやつる者は誰か

さて、皆さんはこれまでに、国際銀行家たちに関する話をたくさん聞いてきたはずですよ。その件について少しお話ししましょう。

まず、国際銀行家たちがこの世界を支配しているなどということは、けつしてありません。それは明らかに誤つ

た情報です！ 百パーセント誤りです！ いわゆる国際銀行家たちは彼らよりも強力な別のパワーの支配下にあるのです。彼らは言わば、その勢力の犠牲者たちなのです。そしてその勢力によって私はチュエリッヒでひどい目に合わせられました。当地で私は、その連中に面と向かい合ったのです。

皆さんはこんな自問をしたことがありますか？ 私は何度もあります。イエスは両替商たちを寺院から追い払った後でひどい困難に次々と直面し、最終的にはもはや戦うことが不可能となりました。しかし我々は、その両替商たちが以後どうしたのかについては、誰からも、またいかなる文献からも教えられていません。彼らはいったいその後どうしたのでしょうか？

実は、彼らはその後も延々と活動を続けて今日に至っているのです。そして今、自分たちの国のみならず、ロシアを含めたこの世界全体を、金融システムを通じて支配しています。私はその連中の本拠地に足を踏み入れたのです！

彼らの表立った出先機関の一つは、スイス銀行として知られています。例えば、皆さんが今日、米政府から六百万ドルを奪い取ったとしても、すぐにそれをスイス銀行の口座に振り込んでしまえば、皆さんは絶対に捕まることはありません。それで皆さんは自由の身になれるのです。誰も皆さんを問

い詰めることさえできません。それで皆さんは六百万ドルを自分のもののできるのです。本当です。もつとも、それも彼らのほんの側面にすぎません。

実は、先の旅行中に、私は彼らに関して多くを学びました。それは大きな冒険でした。しかし私はあえてそれを行ないました。そのため私は一度ほとんど殺されかかりました。

皆さんの中で、スイスがヨーロッパの国々に大量の電力を売っているという事実を知っている人が何人くらいいるでしょうか？ そうなのです。しかもその量は尋常ではありません。世界一の工業国であるこのアメリカが全土で消費している電力量をも上回っているのです！ 彼らの投資は主としてそこに向けられているのです。

工場の歯車を動かすそのエネルギーがなければ、すべてがストップしてしまいます。この世界はその歯車の上になり立っていると云ってもいいでしょう。

しかし我々は今、その歯車を動かすために、スペース・ピープルが利用しているような自由エネルギーを用いるべきだと考えているわけです。もしそんなことになったら、彼らはどうなるでしょう！ 彼ら、すなわち両替商たちは、それによってまさに自分たちの背骨がへし折られるほどのダメージを受けることになりました。そうではありませんか。

そんなことになったら大変です。よって彼らは必死でそれを阻止しようとしているのです！

その一環として、彼らは数多くの混乱した情報をばらまいています。そしてその種の情報を、さまざま講演者たちが、各地で大衆に語っています。彼らはときおり国際銀行家たちを批判

していますが、結局は、両替商たちの思うがままの働きをしていることがとても多いのです。知らず知らずのうちにそうしてしまっているのか、あるいは意識してそうしているのかは私にはわかりません。しかし結果としては、両替商たちの手先とも言うべき働きをしているのです。たとえ話の中で真実が語られようとも、そこに混乱した情報が入り込むごとに、そこから真実を取り出すことはますます困難な作業になっていきます。

もしかしたら私は大金持ちになっていたかもしれません。もし私が彼らの買取に応じていればの話です。彼らは私を買取しようとしたのです。その件については、ここにあるこの本の中でも触れています。ただしそのすべてには触れていません。そうしたいのは山々だったのですが、私は再びヨーロッパに行きたいと考えています。ですから、やめにしました。その際やはり生きて帰って来たいですからね。

そんなわけで、私はその件を、この本の中ではやや修飾して、あるいは手

加減して書いています。ただ、私が当地を発つ直前に買取されかけたことだけは、はっきりと言わせてもらいます。目撃者が何人もいます。その買取の現場には何人もの人々がいました。

金星は人間の住める素晴らしい惑星

ここで、皆さんに紹介したいものが一つあります。この本「**訳注II**」さらば空飛ぶ円盤ですが、これからその一部を読んでみたいと思います。この本には、皆さんが自分自身を導くための価値ある情報が詰まっています。この本の少なくとも一部、いや、すべてをそのために役立てていただければ幸いです。(訳注IIこの本は新アダムスキー全集第6巻として「UFOの謎」(中央アート出版社)の題で出ている)

私は、誰かを非難するためにここにいるのではありません。私は今、皆さんを前にして、何が事実なのか、そして、真の成功を手にするために我々はどうすべきかということを語っているだけです。真の成功を手にするために、ひいては我々自身を絶滅の危機から救うために、我々は何をすべきなのかをです。そして私はそれをこの本にしっかりと書きました。これは私に対するあらゆる批判への答えでもありません。すでに多くのことを話しましたが、まだ話していない箇所をいくつか拾って読んでみましょう。



▲1951年3月9日午前5時、アダムスキーがバロマー山から6インチ反射望遠鏡で撮影した金星の大母船。地球の潜水艦に似ているが、この母船も主として海洋潜行用として設計されたもので、水中から飛び出てそのまま空中を飛行することもできる。

「一九五九年一月に米国の科学者たちが発見した、金星大気中に水蒸気が含まれているという事実は、専門家たちに、金星には何らかの形の生命体が存在するかもしれないという結論を導き出させることになった。その二週間後にワシントン市のNASA（米航空

宇宙局）本部で行なわれた記者会見に出席した科学者たちは、一様に、その発見によって金星に生命が存在する可能性がより高いものとなったことを認めている」

断わっておきますが、ここで私はこの本を全部読むつもりはありません。

この本は昨日発売になったばかりなのです。ですから今私はジキル博士のようになろうかと思えます。ここに私の本があります！ これを読めばすべてがわかります！ もちろん冗談です。次に行きましょう。

「一九六〇年二月、米国ロケット協会の創設者であるペンドロレイ博士が驚くべき声明を發した。

「金星は居住のための素晴らしい場所であることが判明するかもしれません。我々はその表面を見ませんが、ただ正確には分かりませんが、それは地球とほぼ同じ大きさで、太陽に近いのです。それ全体がフロリダのようかも知れません」

私が、金星から来た人々に会ったこと、さらには、彼らの生活やその惑星の大気の状態が地球のそれらよりもずっと素晴らしいということを語ったとき、彼らは私を非難し、この問題のすべてを一笑に付しました。しかし今やそれらが事実として確認されつつあるのです。私が一九五二年に語ったことが、長い年月の後に今や正しいこととして証明されつつあるのです。進んだ観測機器の開発がそれを可能としてきました。

一九六〇年一月には、スクリップス海洋学研究所のラヴェル博士が、惑星大気に関する興味深い事実を公表しています。皆さんもおそらく、木星大気内には一酸化炭素ガス以外には何

もないために、人々はそこでは生きられないという話を聞いたことがあるでしょう。これはそれと関連した事実です。

「カリフォルニア州ラホーヤのスクリップス研究所は、地球人たちは石炭や石油、天然ガス等を燃やし続けることで、自分たちの大気中の二酸化炭素の量を加速度的に増やし続けている、と指摘した。同研究所はさらに、一〇〇年後には地球大気中の二酸化炭素量は二〇パーセントほど増加するだろうとも述べている。それはつまり、五〇〇年以内に地球大気中の二酸化炭素の量が二倍になるということである。いずれ科学者たちは、おそらく惑星大気中の二酸化炭素量と惑星の文明年令間に存在する確かな相関関係を発見することになるだろう」

次は月に関する情報です。

「一九六〇年に西フランスで開催された宇宙会議の席で、カリフォルニア大学の某博士は、月はこれまで考えられてきたような死の世界ではないかもしれないと語った。彼の指摘によると、月の周囲には水その他の生命を支えるさまざまな要素が月面下に存在することを示唆する放射線が広がっていると信じ得る（すでに証明された事実である）理由が今なお存在し続けているという。メリーランド大のレイモンド・ドゥーターク博士は、一九五九年一月に、月面における何らかの生命

の存在を否定することは誰にもできない、と語っている」

以上のことも私が『宇宙船の内部』（訳注）新アダムスキー全集第一巻に取めてある）で述べたとおりのことです。私はその本の中でさらに、皆さんも覚えておられるでしょうが、爆弾を破裂させることで我々が地球上空に作り出したある放射線帯についても語っています。

当時の私は、後にその放射線帯に名前を貸すことになったヴァン・アレンなる人物など知る由もありませんでした。彼がそれを発見した最初の科学者だったわけです。

しかし、その放射線帯は、決して昔からあそこにあつたわけではありません。我々が原子爆弾を破裂させて作ったのです。そして今、我々はそれを散らすための方法を研究中です。なぜならば、我々が宇宙空間に出ていくためには、どうしてもそこを通過しなくてはならず、そのとき我々に危険が及ぶ可能性があるためです。

これまでに私は、このサンフランシスコでは六年前に、そしてもちろん、その他のあらゆる会場で、以上のようなことを、実にたくさん語ってきました。さらに私は、一九五五年には、それらを『宇宙船の内部』という本の中でも紹介しました。そして今や、それらの多くが、事実として認められつつあるのです！

私は今、自慢話をしていっているのでありません！ 私があの本を書いたことが証明されたからと言って、私の価値はこれっぽっちも上がらないのです。スペース・ピープルがさまざまなことを教えてくれなかったならば、あの本は誕生し得ませんでした！ 彼らが宇宙船に乗せてくれなかったならば、私は何も見る事ができませんでした！ いずれにせよ、すでにいくつものことが証明されています。我々が何かを宇宙空間に向けて打ち上げ、それに積まれた装置が何かを探知して送り返してくるたびに、私がこれまでに話した何かが確認されているのです！

事実のみが土台となる

ところで皆さんは、誰が本物のコンタクトイーで、誰が偽物であるかを、最終的にどうやって見わけるのでしょうか？ 私がそう言ったからというのでは困ります。私も、皆さんと同じように、いくらでも嘘をつくことができるのです！ 悪意のない嘘を含めれば、この世界で全く嘘をつかない人間など一人もいないでしょう。我々は、この世界でそのように育てられてきたのです。でも保証します。誰かが事実を語ったとしたら、それは遅かれ早かれ必ず事実として知られることになりす。その意味で、私はこれまで、まだある程度としか言えませんが、事実を語って

きたことが証明されたわけです。というのも、事実がそれ自身で事実であることを明らかにしたためです。そしてそれが、唯一、皆さんが人間を間違いない評価することのできる方法です。それ以外にはいかなる方法もありません！

確かに我々は心の中で物事を空想できます。我々の心は実に巧妙にできています。でも空想の産物は、それ自身の正しさを証明する時がやってくるでしょう。極めて疑問です。そして空想は、それが現実のものとならなにかぎり用いようがありません。それが事実であるならば、皆さんは今すぐにもその恩恵を受けられます。ここに生きている間にです。結局、我々が土台として上に立つべきものは事実しかありません。何が起ころうと、それしかないのです。

多くの人々が金星に行きたがっています。でも考えてみてください。この地球で互いにうまくやっていけないというのに、地球よりもやや進んだ文明を持つ金星で、どうしてうまくやっていますか！ 同等の人間同士で仲良くできない人間が、自分よりも進歩した人間たちと、どうして仲良くできるでしょう！ 地球人はまず地球で努力をして必要な進歩を果たすことが先決です。地球で妥当な進歩を果たしてはじめて、次のレベルへの進級が可能となるのです。いくら多くを語り、

いくら希望的思考を巡らしても、皆さんのお腹はけつして一杯にはなりません。

神がリングゴの木に良質のリングゴを実らせてくれました。神はさらに大きな思いやりを発揮してその木を揺らし、リングゴを地面に落とすことまでしてくれました。皆さんは木によじ登ってもぎ取るまでもなく、下にいて上体をかめるだけでリングゴを手にし、食べられます。しかし、そのリングゴは、皆さんがそれを食べて消化しないかぎり、皆さんに対していかなる良いこともしないでしょう。しますか？ けつしてしません。神があなたのためにどんなに多くのことをしてくれました。皆さんがそのリングゴを食べて自分の一部としないかぎり、神がしてくれたことは何の役にも立たないのです。

我々はしっかりとした基盤の上に立たねばなりません。そして私は、今ここにおられる皆さんの誰もがこの問題をとても真剣に考えていることを知っています。私は、このプログラムの成功を心から願っています！ 私はこの美しい世界が救われることを願っています！ 皆さんの子供さんたちにこの世界を皆さん同様に楽しんでほしいのです。いや、もし皆さんがこの世界を少しでも良いものとしてここを去ったならば、彼らはこの世界を皆さん以上に楽しめることになるでしょう。しかし、そのために皆さんが何かを

しないかぎり、つまり神がスペース・ピープルや科学者その他の人々を通じて我々に与えてくれた知識を理解し、日々その実践を続けないかぎり、皆さんの後に残された子供たちは、たとえ生きていられたとしても、大きな困難を強いられることになるでしょう。

もし皆さんが何もしなければ、やがて、誰かが、どこかの狂った誰かが誤ったボタンを押すことになりす。そしてその結果、すべてが吹き飛んでしまうことになるのです。それでも地球は残るかもしれませんが。しかしそのとき、皆さんはもうここにはいないでしょう。

あるバカげた現象

現在、この点に関連したあるバカげた現象が発生しています。サンフランシスコに来て以来、毎日のように聞き続けてきたことです。何と不信心なことでしょう！ あらゆる知識を与えられていながら何も信じようとはしないのです！ スペース・ピープルが提供してくれた知識を疑い続けている一部の人が、今、自分たちを（核兵器の）放射能から守るべく、**もぐら穴**を掘っているのです！ 彼らは**もぐら**になろうとしているのです！ そういった人々が後を絶たないのです！ **もぐら**のように地下に潜ったとして、我々はいったいそこにどのくらい留ま

っていられるでしょうか？ 一度戦争が始まったら無数の爆弾が投下されることになるのです！ 何日にも渡ってです！ そしてその後、大気がきれいな状態に戻るまでには、二五〜三五年もかかるかと科学者たちは見積もっています。その間、彼らはあの**もぐら穴**の中にい続けられるなどと考えているのでしょうか！ そんなことは到底無理なことですよ！ 彼らの中で生活できるのは三〇日が精々です！ 彼らは空気を吸いに、汚染された空気を吸いに出てこなくてはならなくなります。そして**もぐら**たちは、その空気を吸ったが最後、息絶えることになるでしょう。そんな不信心者にはけっしてならないで下さい。

私はあんな穴を絶対に掘りません。そして、たとえ最悪の事態が訪れたとしても、私は目の前で起こっていることを最後まで見続けます。その様子を、そして自分たちを進歩した文明だと呼んだこの文明が実はいかに愚かな文明であったかを、しっかりと脳裏に焼き付けたいと思います。なぜならば私はその知識を自分とともに次の世に持っていきけるからです。ですから私は穴の中に隠れたりには絶対にしません。穴の中にいて何を見ることができずしてどう？ 何も見ることはできません！ 見ることのできるの**は穴ばかりです！** それはまさに他の惑星の人々が与えてくれた知識への不信心さを露呈する行

為にほかなりません。

そのようにして穴の中に隠れようとしている人々の中には、この問題に興味を示している人々もたくさんいます。彼らはすでに十分な知識を与えられています。それなのに彼らはなぜその知識を生かそうとしないのでしょうか！ 誰かに爆弾が降ってくるかもしれないと言われると、自分たちをそれから守るための、自分たちが隠れるための**もぐら穴**を何の躊躇もなく掘り始めるのです！ しかも大金を投じてです。中にはそんなものに全財産を投じた人々もいます。

そんなことはしないことです。そんなことをしても何にもなりません。神が防げないものを皆さんが防ごうとしたところで、どうにもならないのです！

それと、そのような事態が発生しても、必ずしも地球全体が汚染されてしまうとは限りません。全く汚染されないですむ場所が残るかもしれないのです。単に汚染が及ばないのみではなく、そこでは以後も普通の生活が続けられるかもしれません。と言うのも、たとえ今度大戦争が発生したとしても、それが最悪の惨劇をもたらすには到らないと思われからです。

ただし、おそらく世界中の相当多くの人々が、主として無知ゆえに命を落とすでしょう。なぜならば我々はかなりの時間的余裕を持ってその事態の発

生を予告されることになるはずだからです。問題は、我々がそれをどれだけ真剣に受け止めて、危険な地域から離れられるか、という点になります。その点が問題です。

しかし、私は保証します。たとえそんな事態が発生しても、決して最悪の惨劇には到らないはずですよ。この地球上にはいくつもの安全な地域が必ず残ります。**もぐら穴**など必要ないという理由の一つがここにもあります。ここでは、地表に住みながら、今と同じようにきれいな夜空を眺めることができるのです。

例えば、皆さんは、もし良く勉強しているならば、このことを知っているはずですよ。と言うよりも、我々は、こういったことを知っていかるべきなのです。なぜならば、我々はここ地球に住んでいるからです。イエスは、「私はここにいるが、この者ではない」といいました。しかし彼は、ここにいる間はここに適応して生きました。我々も同じようにしなくてはなりません。我々の誰もがです。我々は実際、そのためにここにいるのです！ ここで学ぶべきことを学ぶためにいるのです！ それから逃げるためにはけっしてないのです！

例えばソ連が再び核実験を行なったとしたら——科学者たちが常に注意深く観察していることですが——まもなく、大量の放射性物質が日本とこのア

アメリカに舞い落ちることになります。いったいどうしてでしょう？ なぜそれはスイスやその他の場所には行かないのでしょうか？ その理由は日本からの気流にあります。日本からこのサンフランシスコに向かって吹いている日本貿易風（訳註＝偏西風を意味すると思われる）が、それを運んでくるのです。

この国の科学者たちが大気中の放射性物質濃度の変化に大きな注意を払っているのは、それゆえのことです。その風は、この上空を含む特定の地域の上空を常に吹き続けています。これまでのところは幸いなことに、いかなる異常も探知されてはいませんが、その貿易風（訳註＝偏西風）が運んでくる放射性物質に対する警戒は、常に怠りなく続けられています。

そこで、皆さんがその汚染から逃れたいと願うなら、まず、その風がどんなコースを吹いているかを正確に突き止める必要があります。そして、ソ連での核実験、あるいは放射性物質濃度上昇のニュースを聞いたなら、すみやかにその風が吹かない地域に移動するのです。

このような仕組みで——これはほんの一例にすぎませんが——いざ事が起こったとき、この地球上には、安全な場所とそうではない場所が出現することになります。その場所を突き止めるためには真剣な研究が必要です。まや

かしを言ったり行なったりするだけでは決して安全は手にできません。いざ事が起きて、安全がほしいならば、我々は、安全な場所に移動しなくてはならないのです。

しかし、恐れることは何もありません。この件に関して恐怖をいさぐ必要は全くありません。それへの正しい対処を可能とってくれる全能の神と自身自身の能力を強く信頼することです。それが第一です。いかなるときにもそれが最も重要なことです。

ナイト氏の勇氣ある発言

話は変わりますが、最近こんなことがありました。私は政治には関わりませんが、これから紹介する人物の再選に加担したりする気は毛頭ありません。ただ、その高い地位にあつた政治家がこれから紹介するようなことを言つたのを知り、私は少なからず驚かされました。

二週間前にロサンジェルスのチャンネル13を見ていたときのことです。皆さんの前知事、ナイト氏が、女優その他の連中とともに出演していました。視聴者から寄せられた質問に答えていたのです。ある時点で、「あなたは空飛ぶ円盤を信じていますか？」という質問を受けました。

即座に彼は「この質問の主はつまり、私がUFOの存在を信じているか否か

というのを聞きたいのかな？」と云つて周囲の人々を見やり、質問の意味を確認しました。

私はとても興味深くその場面を見ていました。なぜならば彼が再び知事選に立候補するかどうかが多くの人々の関心を誘つていたからです。その晩彼は、その点に関する質問も受けていました。今のところは何とも言えない、ただ、もし人々が望むのなら、そうせざるを得なくなるだろう、というのが彼の答でした。

彼はそんな立場にあつたのです。にも関わらずUFOに関する質問への彼の答は次のとおりでした。

「もちろん信じていますとも。当たり前前のことじゃないですか。この宇宙には無数の惑星があるんですよ。我々のこの小さな惑星にだけ人が住んでいるなどということは、あり得ないことです」

彼はそう答えたのです。公衆の面前で、しかも電波を通じてです。

さらに彼はこうも続けました。

「ライト兄弟が最初の飛行機を飛ばしたときや、蒸気エンジンが初めて出現出来たとき、誰もがそんなものはうまく出来たことないと言つて笑いました。でも、我々は今、それらがうまくいっているのをはつきりとこの目で見ています。私は人類の進歩にストップをかけたりする気は全くありません。過去は過去です。私は常に前に進みたいと考

えています」

彼はそう言つたのです。それは実に勇氣ある、極めて価値ある発言でした。彼が、かつて知事をつとめていた人物だからです。彼はその問題について、他のほとんどの人々よりも良く知つていたはずですが、すべての高官が、特にこの一二年一五年間に我々の空で起こつてきたことに関して、大衆よりもはるかに多くのことを知つています。彼らは、いわば内部の人間たちなのです。その内部の人間である彼がその質問に答えた後、周囲の誰もが彼をとて複雑な表情で眺めていました。彼らは明らかに驚いていました。そして同時に、彼もまたその反応にとて驚いていたようです。

しかし高官たちは、何度も言うようですが、心靈的性質を持つた情報には見向きもしません。彼らは決してそのような情報を支持しません。当然のことです。そんなことをすれば、真実のみを知らされてしかるべき大衆を迷わせることになってしまうからです。

すべての高官がそうです。そして、彼らのすべてが、同じ質問にもし匿名で答えるよう要請されたとしたら、間違いなくナイト前知事と同じ答えをするでしょう。彼らにとつて、それはもう当たり前のことなのです！

アイゼンハワー大統領も肯定

さらに、アイゼンハワー大統領もまたこんなことを言っています。六カ月前の退任直前の記者会見の席においてです。ある記者の「空飛ぶ円盤は存在するのでしょうか」という質問に対して、彼は次のように答えているのです。「某將軍によると、存在しないということです」

彼はそのように、つまり「某將軍によると」という前口上を付けて答えているのです。

そしてそれから一〇日後のことです。記者たちは今度は、質問の形を変えて「大統領閣下、これまでに空飛ぶ円盤が着陸したことはあるのでしょうか？」とたずねました。すると彼はこう答えたのです。

「一度も着陸したことがなかったとしたら、それは何かの間違いだ」

それはつまり、空飛ぶ円盤は実在し、それは明らかに地球に着陸している、という意味にほかなりません。それを彼は、「一度も着陸したことがなかったとしたら、それは何かの間違いだ」という言葉で表現したわけです。

彼らは皆、明らかに知っています！そしてまるでサーカスの余興のような大会を行なうグループを見て、彼ら高官はそのグループを単なる精神病者の一団としか考えません。(訳註)この

グループというのはUFO団体のお祭り騒ぎ)

そのような人々が一般から信頼されることは、けつしてないのです。彼らは単に余興に興じているにすぎないからです。その中では何も真面目なことは話し合われません。ただ集まって騒いでいるだけなのです。

集団で大きなピクニックを開催して、あれこれと好き勝手なお喋りをするとはけつして悪いことではありません。それだけなら、何ら問題はありません。しかし一度そのピクニックに空飛ぶ円盤の名が付けられると、大きな問題が浮上することになります。円盤に関して好き勝手なことを話したりされては、たまったものではありません。

どこかに集まって楽しい時間を過ごすのはとても良いことです。それだけなら私も大賛成です。でも、それに「円盤大会」などというタイトルを付けることだけは、ぜひやめてほしいものです。

ただ、近い将来——かなり近い将来です——ちゃんと足の付いた真に宇宙的な心を持った人々が参加して行なわれる、これまでに最大の大会がこの地球上で行なわれる予定になっています。おそらく場所はワシントン市ということになるでしょう。その惑星間会議はすでに実現に向けて具体的な動きに入っています。

スペース・ピープルは、皆さんや私

のような人間たちです。我々よりもやや多くを知ってはいますが、しつかりと地面に立つことができます。そしてもちろん、歩いて会議場に入り、そこで話をします。

今年の秋に、私はその件に関して新しい議会で話すことになるかもしれませんが、また、再び国連でも話すことになるかもしれません。その際には、科学者たち、さらには真実の体験を持つパイロットたちも招かれるでしょう。そして彼らも同じように、今実際に起こっていることを、事実のみを語るでしょう！一方、例の夢想家たちは誰一人として招かれることがないはずですよ。

スペース・ピープルの絶大な援助

ところで、私はある研究所に八日間ほど滞在し、そこでさまざまな大きさの宇宙船のモデルが、まるで小さな風船のように空中を動き回っているのを目撃しました。そうなのです。我々は、それほど遅れているわけではないのです。精神面、哲学面では、おそらく金星と比べたら一〇〇年は遅れているでしょう。でも科学に関して言うと、そうですね、あと五年もすれば追いつけるかもしれないのです。なぜなのでしょう？ そうです。彼ら(スペース・ピープル)が援助してくれているからです。

彼らは、そこいらを走り回りながら「僕ならここにいますよ！ さあ、よく見るんだ！ ちゃんと写真に収めたかい！」などとけつして言いません。そんなことを言うかわりに、彼らは皆さんが眠っているときにも、あるいは彼らのことを話している間にも、どこかの政府の、どこかの研究所の中で、日夜働き続けているのです。彼らは地球の科学者たちに、我々が少しでも早く宇宙に出て行くことのできるように、我々が自分たちの頭を核爆弾で吹き飛ばしてしまう前にそこに出て行くことのできるように、これはこう機能して、あれはああ機能するんだ、といったことを一つひとつ教えてくれているのです。

ただし、勘違いしないで下さい。彼らが地球に来ているのは、皆さんや私を救い出して、どこかに連れて行ってくれるためなどでは決してありません！ いったい全体、何で彼らが我々を救い出さねばならないんです！ いったい救われるに値する人間がどこにいるんです！ 我々はどう見たところで天使などではありません！

彼らは我々を三秒間も観察すれば、我々の肩に翼が付いていないことなどすぐに見破ってしまいます。なぜならば、我々は我々同士でさえうまくやっついていけないのです。仲間同士でさえです！ そんな我々が他の惑星に行くと、そこに住む人々とどうしてうまく

やれるでしょう!

第一、彼らが腐りそうなりんごを拾い上げたりするでしょうか? そんなものを自分たちの惑星に持っていつて何になります? 何にもなりません! すでに腐りつつあるのなら、ここで腐らせても同じことです(笑い)。さらに、そんなものを持っていけば新鮮なりんごまで腐らせてしまうことにもなりかねません。そうでしょうか?

違います。スペース・ピープルはそんなことのために地球に来ているのではありません。彼らが地球に来ている理由は、他にありません。

一年ほど前、我々はこの世界の科学者たちにより、我々の太陽が磁極を転換させつつあることを知らされました。これが太陽だとして、ここが北極で、ここが南極だとしましょう。そしてこれは、この両極をつなぐ軸を中心にして長期に渡って回転し続けてきました。ところが、この両極の位置が突然変わってしまったとしたらどうでしょう? この太陽系のあらゆる惑星にさまざまな影響が及ぶことは必至です。

そこで、例えば、今私が立っているこの床に何かが起こったとします。私はその上にいるわけです。そして何が起こったのが全くなりません。でも、ここから離れて、どこか別の場所から眺めたならば、ここで何が起きているのかを、より容易に理解できるのではないのでしょうか。

スペース・ピープルは、今回、それと同じ理由で宇宙空間に出てきたのです。離れた宇宙空間から、彼ら自身の惑星を眺め、そこで何が起きているのかを観察するためにです。

太陽の磁極転換によって、この太陽系内のすべての惑星が影響を受けつつあります。そして、各惑星はそれ自身の独特の変化周期を持っており、それゆえに太陽の磁極転換によって受ける影響にも独特のものがあります。地球もまた例外ではありません。そこで彼らは、地球の様子も観察しています。各惑星同士は互いに影響し合っており、その観察が我々のためのみならず、彼ら自身のためにもなるためです。

彼らは自分たちの宇宙船を持っているので、そうやって宇宙空間に出て行き、自分たちの惑星を振り返って、それがどのような変化を遂げつつあるのかをより容易に知ることができるのです。

皆さんはおそらく、自分が車を運転中に、タイヤが何らかの理由で横揺れを始めても、そのことに気づかないのではないのでしょうか? 何かに乗り上げたか、とんでもない悪路に進入してしまっただけか、と感ずるだけかもしれません。でもその車が走っているところを道路にいて見ているならば、タイヤがフラフラしているのを目で知ることができましょう。それと同じことなのです。

彼らは、第一義的には、純粹な科学的観測を目的として宇宙空間に出てきているのです。そして同時に、我々の困難からの脱出を援助するという努力も行なってくれているわけです。

ですから我々は彼らに大いに感謝しなくてはなりません。彼らはそんな忙しい中、我々の面倒を実に良く見てくれているのです。彼らは、我々が混乱から抜け出し、自分たちの命を救い、この世界をこれまでよりも住みよい世界とすることのできるように我々を援助し続けてきました。彼らは、我々に対してそれほどまで関心を払い続けてくれたのです。

それは言わば特別な経路を通じた神からの恵みです。というのに、その経路を我々はこれまでひどく侮辱し続けてきました。

私はときどき考えます。私のように頭の白くなつた連中が、私のように片足を棺桶に突っ込んで、あとの片足でおまけの時間を借りているだけの連中が、なおも大声でわめきつつ大衆を混乱させようとしています。より多くの名誉、より多くの賞賛、より多くのお金を求めているのです。

彼らは、そうやっていわば神に対する挑戦を続けているのです。私はそう考えています。誰かが、何らかの勢力が、その背後にいます! 彼らはこの地球上で目を閉じる瞬間まで、そうやって挑戦し続けるのです。そして彼ら

は自分たちが目を閉じる瞬間がいつ訪れるのかをおそらく知らないでしょう。私は臆病者ではありません! 私は、人も、神も、あるいは悪魔も恐れてはいません。もし恐れていれば、私がここで今日皆さんとお話しすることもなかつたことでしょう。

私はまた自分の未来の運命を今のそれよりも悪いものにするほどの愚か者でもありません。私は自分が誹りたものを、いずれ必ず刈り取らねばなりません。ここで刈り取ることになるか、他の場所で行うことになるかはわかりませんが、とにかく、それを自分で刈り取らねばならないのです。

太陽や星々は万物に輝く

これまで私は良い人生を送ってきました。けつして多くの物を持つことはありませんでしたが、良い人生を送るのに必要なものだけは手にしてきました。実際、それ以上のものを手にしたところで何にもなりません。我々はそのれを自分で背負わねばならないのです。そんなものを背負っていたのでは重く走ることできません。充分な量のみを所有することです。はるかに身軽ですし、事実それで充分なのです。

我々が一度に着れるのは一着のスーツのみです。それさえあれば私は不平などけつして言いません。そして、それ以下のものしか所持できないとした



▲ジョージ・アダムスキー。ダニエル・ロス氏提供

ら、それは私自身の愚かさゆえのことです。その場合は私が愚かなのであって、創造主には何の非もありません。しかし人々は、より大きな名譽を、より多くのお金を求めて、毎日、常に挑戦を続けています。名譽は、ここでは皆さんを一時間、あるいは二年ほど、そしてときには一生に渡って良い気分になせ続けるかも知れません。しかし、

皆さんはその名譽を次の世に持つていくこともできなければ、それを切符にして金星に着陸することもできないのです！

一方、同胞の運命をほんの少しでも良いものに変えることにつながる皆さんの良い行ないは、永遠に皆さんとともに残ることになります。なぜならば、皆さんの行ないこそが、皆さんの真の

一部であるからです！

さて皆さん、今日はいろいろ非難めいたことを言いましたが、私は今、それが誰をも傷つけることにならなかつたことを願っています。どうか自由にピクニックに行ってください。そして、考え得るあらゆる方法で楽しんで下さい。どんな組織を作ろうと何ら問題はありませぬ。

ただし、そのピクニックには、自称 UFO 専門家たちだけはどうか連れて行かないでください。スペース・ピールの評判を、どうかこれ以上落とさないでください。これ以上彼らの評判を落としたりしたら、それはもはや、神への冒瀆にも等しい行為となつてしまいます。

とは言え、彼らは決して聖者ではありません。彼らは我々に崇拜されることなど全く願っていません。彼らは自分たちを崇拜する宗教などをけつしてほしがってはいません。彼らは、そんなことのためにここに来ているのではないのです。

宗教といえ、我々は今、あまりにも多くの宗教を持ちすぎています。そしてそのために、こんなにも混乱してしまっているのです。何ということでしょう！ 古代エジプトは四五〇種類もの神を崇拜したために崩壊しました。当時の人口を考えれば、それは大変な数です。

そして今、このアメリカも同じよう

な状況になりつつあります。現在この国に存在する宗教団体は、主なものだけでもその数は九〇〇を越えているのです。しかもその数はますます増加する傾向にあります。これでは我々が創造主の正体を全く知らないでいるのも当然のことです！

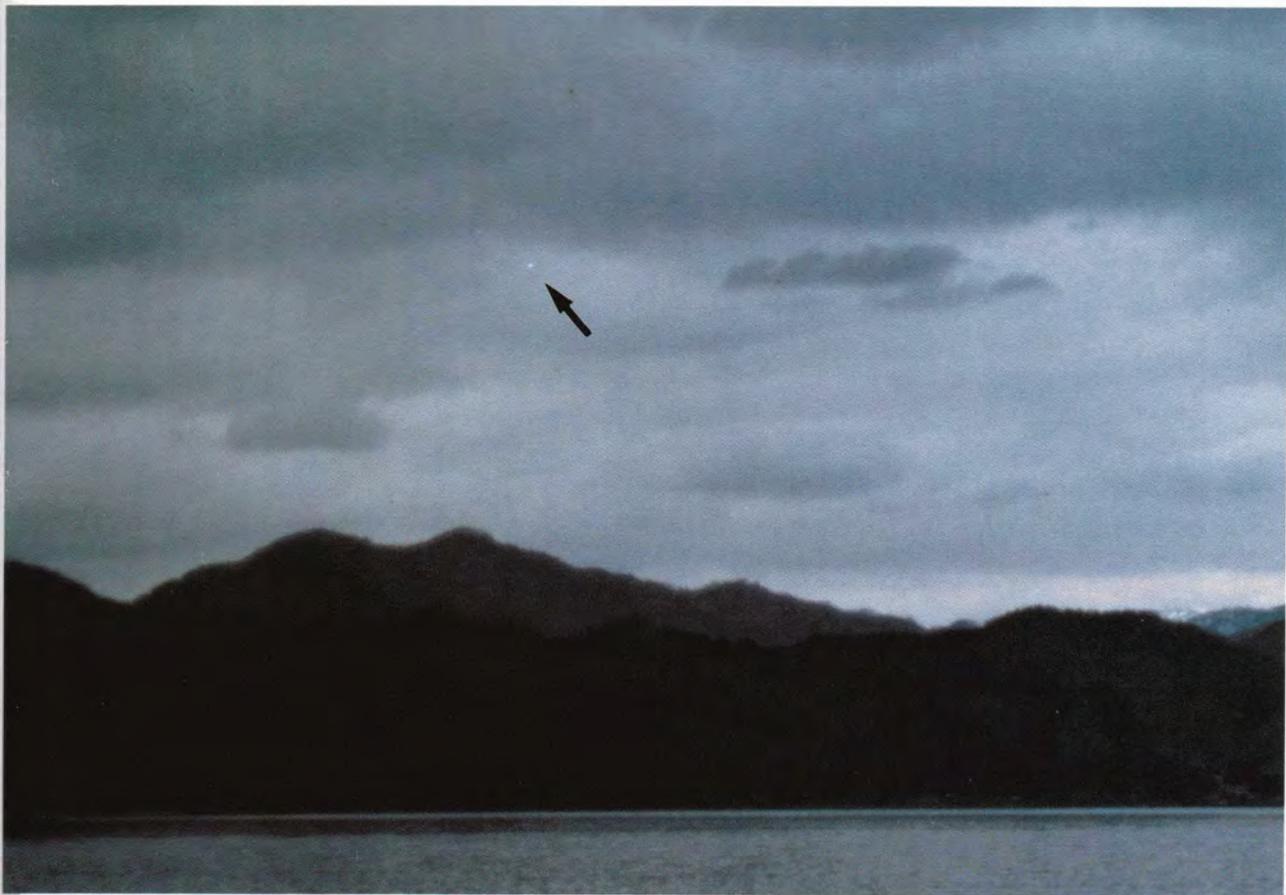
いいですか、皆さん。太陽や星々、そしてあの美しい青空は、決して一部の人のみに授けられているのではないのです。太陽や星々の光は聖者の上にも罪人の上にも同じように輝きます。それらは、いかなる人間をも差別しません。

もし皆さんが、皆さんの創造主の正体を知りたいのなら、創造主はみずから作り出した創造物と何ら変わるものではない、ということを知ることです！

創造主は、皆さんにも他のいかなる個人にも決して特別な好意を寄せたりはしません！ でも皆さんは自分の行ないによって自分自身にいくらでも特別な好意を寄せることができます。

我々は自分の眠るベッドを自分で作らねばなりません。創造主は、それを作るための材料を我々に与えてくれるだけです。そして創造主は我々が必要とするいかなる材料をも与えてくれません。

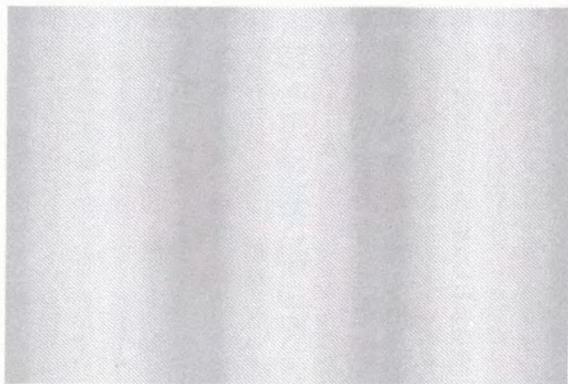
ありがとうございます。皆様は創造主の偉大な恵みがあらんことを祈ります。(この項、完。以下次号)



●田沢湖上空の光体

今年4月30日に秋田県田沢湖町の「田沢湖ハイツ」で秋田支部大会が開催された翌日、観光で同湖畔を訪れた際、上空を飛ぶオレンジ色の光体を発見した同行者の山木益巳氏(横浜市)が撮影した(矢印)。秋山真人氏は本物のUFOと鑑定している。

オリンパス OM4/24mmF2.8/KR



UFO contacteeバックナンバー主要記事

★下記の他に101号と105号以降最近号まであります。代金後払い可。ハガキでご注文の場合は号数・住所・氏名・電話番号を明記して下さい。バックナンバーに限り送料は当方でサービスします。ご注文は日本GAPへ気軽にどうぞ。

No.126 平成6年10月25日発行 ¥900

驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下——久保田八郎
 UFOを頻繁に見る私のカルマ②——溜池みゆき
 GAP活動と共にUFO出現頻発——林 寛子
 東北自動車道に母船が出現——林 慎子
 私も母船を見た！——津田篤孝
 ムー大陸から見た原日本人——澤入達男
 昔のUFO目撃の思い出——橋本恵一
 異星人とUFOの真相①——G・アダムスキー

No.125 平成6年4月25日発行 ¥900

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ——久保田八郎
 私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た——大野義和
 UFOを頻繁に見る私のカルマ——溜池みゆき
 不思議な予知透視——米川宣雄
 突然出現した不思議な人間——千葉敏江
 生命と物質と超能力——伊藤睦史
 異星人はなぜ地球へ来るのか——G・アダムスキー

No.124 平成6年1月25日発行 ¥900

信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法——久保田八郎
 今世紀末、大変動発生なし！——秋山真人
 私を助けてくれる異星人達——上原則子
 アダムスキー型円盤、長時間出現——石井佳子
 浅草上空に出現したUFO——堀江健一
 UFO・宇宙・人間——G・アダムスキー

No.123 平成5年10月25日発行 ¥900

凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視——編集部
 私を助けてくれる異星人①——上原則子
 山梨県に出現した巨大UFO——編集部
 エセキエルはUFOを見た？——久保田八郎
 私はアダムスキー型円盤を見た——海瀬宏子
 UFOと異星人の実態——G・アダムスキー
 謎の古代マヤ遺跡とUFO——久保田八郎

No.122 平成5年7月25日発行 ¥900

金星文字を解読してUFOの推進原理を解明！——バシル・バン・デン・バーグ
 星々への切符——遠藤昭則
 オメ教授が発見した金星？文字——久保田八郎
 不思議な体験連続の人生——千葉福造
 オラで異星人を見分ける——紙屋光孝
 私だけが見るUFO——須山有美子/宮本浩子
 万物は人間の想念に感応する——塩谷信男
 四感・生命の息・転生——G・アダムスキー

No.121 平成5年1月25日発行 ¥900

パロマー山にUFO出現——久保田八郎
 宇宙ボタルはUFO——久保田八郎
 アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！——
 江戸川堤防の怪光体——鈴木 武
 不思議な筒状の雲——沼倉孝彦
 人間・イメージ・波動——佐々木八郎
 驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動——G・アダムスキー

No.120 平成5年1月25日発行 ¥900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法——久保田八郎
 二人の異星人からの忠告——辻 俊昭
 テレパシーで植物を動かす方法——遠藤昭則
 人間は生来テレパシー能力を持つ——堀江健一
 夜空の不思議な“映像”——田辺優子
 重力と宇宙の自然のパワー——G・アダムスキー
 モアイとUFOの島へ——伊東芳和

No.119 平成4年10月25日発行 ¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現——久保田八郎
 私の超能力開発体験と異星人女性との出会い——佐々木八郎
 瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快——口ノ町一男
 ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る——穴原美智子
 神室山上空のUFO——沼倉 孝彦
 UFO・異星人・地球人——G・アダムスキー

No.118 平成4年7月25日発行 ¥900

イエスの実像と転生の法則——久保田八郎
 計り知れぬ影響力をもつアダムスキー——中村省三
 宇宙の意識とともに願望を実現させる方法——高梨十光
 私のUFO目撃と不思議な体験——川野晶子
 音楽は生命エネルギーを運ぶ——鷺見 弘
 UFO・異星人・地球人①——G・アダムスキー
 天地万物との一体化で長寿——塩屋信男

No.117 平成4年4月25日発行 ¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現！——
 地球救済活動を続ける異星人②——秋山真人
 飛行機を助けた謎のUFO——
 奇跡を起こす反復思念とイメージ法——久保田八郎
 善だけを探し求めてテレパシーが発現——小川隆志
 ひとりでも物品が動く現象——大嶋順子
 思いどおりに出現するUFO——中島直仁
 ジョージ・アダムスキーと異星人②——アリス・ボマロイ

No.116 平成4年1月25日発行 ¥900

地球救済活動を続ける異星人——秋山真人
 南フランスの不思議なコンタクト事件——中村省三
 奇跡的に願望を実現させる方法——テッド・オーウェン
 病氣治療の宇宙哲学的応用——高梨十光
 ミラクル・ワードとミラクル・イメージ——久保田八郎
 江東区上空のUFO——森田久恵
 南九州支部からの声——曾我部勇人
 プラズマに助けられた？——藤沢清則
 ジョージ・アダムスキーと異星人——アリス・ボマロイ

No.115 平成3年10月25日発行 ¥900

アダムスキーとUFO問題の真相——ハンス・ピーター・セン
 金星表面に超長大な水路を発見！——
 28年ぶり宇宙からの帰還！——
 突然消滅した10人の少年少女！——
 暗闇から現れた不思議な人々——
 円筒型の奇妙な物体を見る——服部哲雄
 謎の飛行物体、米子に出現——
 UFOの色彩についての一考察——斎藤俊徳
 UFOと古代マヤの謎——久保田八郎

Letters

ユーコン広場



自信をもって生きよう

愛知県 村上博一

GAP会員の皆様初めてお便り致します。

例年を遙かに越える猛暑の中、水不足も深刻さを増し、例年なら来て欲しくない台風まで雨乞いしてしまいう毎日です。現在は名古屋近郊へ来て仕事をしていますが、北海道育ちの私にとってはこの暑さは堪え難いものです。金星の温度はかなり高いということ、日本の夏と同じように金星も蒸し暑いのでしょうか。一度行ってたしかめてみたいものです。

話は元に戻りますが、私は今回正式に会員にさせて頂いた者です。Uコン誌は五年前から読み、久保田会長が昔ユニバーズ出版社を運営なさっていた頃の「UFOと宇宙」も多数読みました。

やはり日々の生活の中で宇宙哲学を修行しようとする、どうしても思想的には反体制者、頭のおかしい人、狂人のレッテルを貼られます。しかし今の世間の常識自体が狂っているのですから、我々が正しいのです。自信を持って共に生きましょう。

宇宙の叡智を知覚する

沖縄県 石野創太

平素は貴重な宇宙的な御教示を頂きまして誠にありがとうございます。また先般は激励の御書簡を賜わり厚く御礼申し上げます。今後とも御指

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

導御鞭撻の程をどうぞ宜しく御願ひ申し上げます。

自然物を通して宇宙の叡智を知覚する練習の際には、私は現在心中で次のような言葉を順に唱えております。

- ①自然物の背後に宇宙の叡智が存在する。
- ②眼という窓を通して意識が見るとき、宇宙の叡智が顕現する。
- ③自然物を通して宇宙の叡智が顕現する。

このように唱え、宇宙の叡智が今にも現われそうな感覚が湧き起こってきます。ただし、宇宙の叡智を実際に印象によって感知するところまでにはいきません。

翻訳事務所の方も御薩様で順調に推移しております。先日初めてポルトガル語の翻訳で収入がありました。糸満市のひめゆり平和祈念資料館からの注文中、中南米からの参観者の感想文です。内スペイン語が五通で三通がポルトガル語です。

現在、沖縄語(ウチナーグチ)の勉強をしております。というのは、一つには沖縄語の方が年配の御客様との意思の疎通が容易になるといふことがあります。もう一つは先祖の使っていた言葉を習得することによって、秋山博士のおっしゃっている先祖からのエネルギーを理解して、

有効に利用できるようなものではないかという考えもあります。テレビの芝居とラジオのニュースで勉強しています。またラジオの琉球古典音楽の番組も聴いています。次回に先生が来沖される時には琉球の言語と文化にもっと詳しくなり、御案内の際もお役に立てるように内なるものと存じます。

真の「豊かさ」とは

東京 石川明代

いつも「意識の声」をありがとうございます。これを通して先生と親しくつながっているような気持ちでおります。そして先生のこれまでの人生が、清浄で、一環して奉仕の人生であられたことを感銘深く受け取っております。

今年古稀を御迎えになられておめでとうございます。益々御元気で御活躍下さいますように心より念じ上げております。

私もこのところ「愛」についていろいろと考えさせられております。私はこれまで自分に最も欠けているものは「愛」であると思っております。何でもかんでも知的に考えようとする傾向が強く、なかなか心が満たされるということがありませんでした。いつも天を仰いで祈ることは「愛が内側から溢れ出るようになりたい」ということでした。「愛」という字が観念的でありまして「隣人愛」とか、「夫婦愛」とか、「恋愛」とか、自分の経験を考えてみて、それらが「愛」というものかどうかピンとこないのです。

らしい教材を送って下さいました。今年の春三月頃、アパートの公園にホームレスの猫が居着いて私と仲良しになりました。雨の日も風の日も私の出勤と帰宅の時間に待っているのです。不慣れな四脚の動物から毎朝餌とミルクを持って行き、三〇分〜一時間一緒に過ごすようになり、大きくなりました。いつ出産してもおかしくない程になりました。私はどこで御産をするのか心配で、つい自分の家で産ませる決意をして連れて帰りました。その四日後に五匹の赤ん坊が産まれました。不運にも一匹は死にましたが、四匹は丈夫に育っております。母猫の赤ん坊達に対する態度は感動的です。この暑さで一匹の赤ん坊がぐったりしているの、母猫はその子の首をくわえて暗い涼しい場所へ連れて行き、一生懸命に暖めてやっています。

猫と一緒に暮らして二カ月間、私の生活は随分変化しました。自分一人になる時間はぜんぜんなくなり、五匹の世話で夜となく忙しくなりました。御薩で仕事の困難なこと、心配、不安などの思いにふける暇がなくなりました。

猫の親子の愛らしさ、いとおしさに心を奪われてしまったのです。夫婦で仕事をしておりますので、この不況の厳しい環境で、それまで夫も私も悩み易く、不機嫌で、一触即発でけんかになりそうでしたが、猫達の存在によって夫に笑顔と心の余裕が出てきて、夫婦で幸せな気分です。猫は天使だ」といつも思います。経営の困難さが変わったわけではないのに、心の状態が変わったのです。猫の生命という重い存在感、自分と同等の生命存在であるという実感、これが仕事よりも遙かに深い内奥の変化を起こしてくれているのです。

私は今、心が満ち足りており、とても幸せで充実していると感じています。これこそが、「豊かさ」なのだと思えます。もしかしたら、愛、溢れる愛を体験してのかもしれない。

一匹の赤ん坊は背中にも汗の模様を背負って生まれてきました。不思議です。名前をマンジローとつけてやりました。黒地に白の卍があり、その上に黒いポイントが一つあります。きょうは猫のことばかり書きました。天からの御使いと思っております。

先生におかれましては暑さの中、くれぐれも御自愛下さいませ。

素晴らしきこと二六号

三重県 松口幸之助

拝啓 昨日(四月二日)は、Uコン二六号を御送り頂きました。誠にありがとうございます。

今号も充実した内容で編集で良かったと思います。

表紙ですが、今号も安定した配色で落ち着いた感じがして、宜しいかと思えます。UFO contact のロゴタイプのパックの赤色を変えられたようで、この方が新鮮な感じが致します。

また「UFO出現特集」というロゴタイプの文字の横の線もあって、効果的なデザインで新しい発想だと思います。久保田先生のご努力に心から敬意を表します。

久保田八郎先生広島講演会1994

全国のGAP会員の皆様、お元気でいらっしゃいますか。このたび広島の会員有志で「日本GAP広島カチナ会」を結成しました。そして第1回記念行事として東京本部より久保田先生をご招待して大講演会の開催を企画しました。ご承知のように、先生はUFOと宇宙哲学の研究指導者として国際的に有名な方です。ご多忙にもかかわらず私たちの願いをこころよく承諾して下さいました。広島でのご講演は初めてのことで、絶好の機会ですから、中国地方の方々は万障お繰り合わせの上、多数ご出席下されば幸いに存じます。 広島カチナ会代表 佐々木朋子

カチナというのは、アメリカン・インディアンの最も平和な種族といわれるホピ族の言葉で、精霊の意味です。このホピ族の宇宙的な思想にあやかって団体名にしました。よろしくお願いたします。

有志 升田 裕子 三浦 公子
三村 真弓 佐々木朋子

- 日時 11月23日(祭日) 13:30-16:30
- 会場 「ホテル チューリッヒ」3F「大旅籠(おおはたご)」
広島市東区光町2丁目6番5号(駐車場あり)
TEL. (082)262-5111
広島駅の新幹線口から徒歩5分(下の地図を参照)。

- 会費 ¥3000(全員記念写真代は別途¥1000)

プログラム

13:00	受付開始	司会 升田裕子
13:30	講演	久保田八郎先生
	「大宇宙力によって絶対に幸せになる方法」	
15:00	全員記念撮影・休憩	
15:30	質疑応答	
16:30	閉会	

- 夕食会 17:30~19:30
- 会場 同ホテル 4F「ことほぎ」
- 会費 ¥6000
- 宿泊 同ホテルを斡旋します。ただし部屋数が少なく、特にシングルはほとんどありません。早目にお申し込み下さい。
シングル ¥9,167(税・サ込み。朝食付き)
ツイン ¥12,566(")
- 申込 講演会、夕食会、宿泊の別を明記の上、講演会と夕食会の申込は11月20日まで、宿泊の申込は11月5日まで必着で下記へハガキでお申し込み下さい。
〒739-17 広島市安佐北区倉掛2丁目11-8
佐々木朋子 TEL (082)842-4774(夜8時以後)
- 観光 翌日は平日のため観光は行ないません。
- ご注意 大会の講演中、テーブルコーダーによる録音、カメラ、ビデオカメラによる撮影等は自由ですが、講演内容の著作権は日本GAPに帰属しますので、他の団体や個人の印刷物に掲載することはできません。



George Adamski

新アダムスキー全集

ジョージ・アダムスキー＝著／久保田八郎＝訳

全面改訂・改訳／全10巻／各四六判



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類なき金字塔！

1 第2惑星からの地球訪問者 ●352頁●定価＝1,980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者自ら円盤や母船に乗り込み、他の惑星の超絶の大文明の実態を明らかにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

2 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) ●192頁●定価＝1,300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

3 21世紀／生命の科学 ●208頁●定価＝1,300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び雲界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

4 UFO問答100 ●216頁●定価＝1,300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混沌した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

5 金星・土星探訪記 ●380頁●定価＝2,400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が旺巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

6 UFOの謎 ●262頁●定価＝1,980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

7 21世紀の宇宙哲学 ●148頁●定価＝1,030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

8 UFO・人間・宇宙 ●370頁●定価＝2,400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が旺巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

9 UFOの真相 ●320頁●定価＝1,980円

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実態と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。アダムスキー氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバジル・バン・デン・バーグラの証言が白眉。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

10 超人ジョージ・アダムスキー ●232頁●定価＝1,300円

尾大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結編。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ一冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

別巻 宇宙からの完全な証拠 ●480頁●定価＝2,800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎＝訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真实性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



中央アート出版社

〒104 東京都中央区京橋3-7-13

TEL=03-3561-7017 / 郵便振替=00180-5-66324

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き送料がサービスとなります。
*定価は、全て税込みです。

UFO・遭遇と真実 —日本編—

★久保田八郎著 ￥1500 送料￥250 四六判・246頁 美麗カバー付

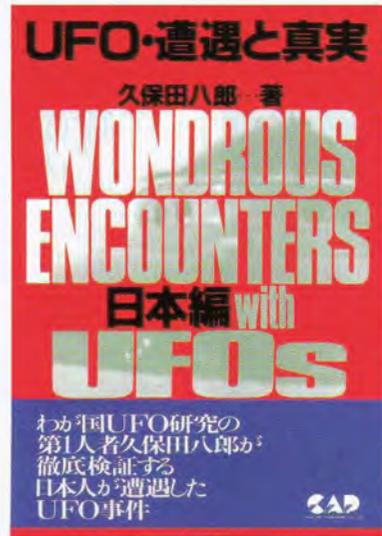
日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろして読みやすく編纂した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を大気圏外の世界へ誘う稀有の保存資料です。

■書店で品切れの際は下記へ郵便振替か現金書留でご注文下さい。
中央アート出版社 〒104 東京都中央区京橋3-7-13
振替・東京8-66324

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。

〈内容〉

- ①関東大震災中に横浜で人々を救出した円盤
- ②東京タワーから少年が円盤と塔乗員を目撃
- ③高松市に超低空で降下した円盤と手を振る少年
- ④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景
- ⑤UFOに乗せられてエジプトまで飛んだ少年
- ⑥熱烈な願いに応えて出現したUFOを撮影
- ⑦尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船
- ⑧円盤や母船に乗って別な惑星に行ってきた秋山眞人氏



英文版「UFO contactee」No.9

発行 日本GAP

B5版/12頁/コート紙使用/￥500 送料￥190/5冊まで￥270/6冊以上￥390 (No. 1-3は品切れ)

日本GAP発行英文版コーン誌は理想主義的なUFO専門誌として、世界各国のUFO研究団体や個人研究者から絶賛を浴びています。多くのUFO研究誌がオバク宇宙人、誘拐事件、その他恐怖心を煽るような記事に終始しているなか、日本GAPは日本語版・英語版とも地球の未来に大いなる希望を持ち、人間の無限の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を掲載しています。英文版第9号には日本語版117号に掲載された「巨大宇宙船、テザートセンター上空に出現！」を英訳。カラー写真入り。他にも新アダムスキー全集第4巻掲載の質疑応答の原文、日本GAPの活動状況を伝えた記事等が流麗な英文で掲載されています。もとの日本語記事と対照して読めば英語学習にも最適です。

編集後記

SSSS

★本号はUFO出現のメッカといわれるメキシコの旅行記を掲載しました。実際には旅行中にもっと目撃事件が発生しているのですが、紙数の都合で省略してあります。とにかく素晴らしい国です。

★史上有名なロスウェル事件とMJ12文書を取り上げてみました。これらについても各方面から取りざたされていますが、一応の知識を持つために要領よくまとめてあります。

★去る10月9日には日本GAP総会の席上で、ダニエル・ロス氏がアダムスキー問題に関して大講演をおこないました。この全文は次号に掲載の予定です。ご期待下さい。

★本号には遠藤昭則氏の超能力開発法に関する記事を掲載の予定でしたが、原稿が長いために次号に回します。申し訳ありません。

★去る九月九日、GAP会員の堀江健一氏と五名の会員が栃木県へUFO観測に行った際、突如、巨大な母船が出現したので一同で目撃したと報告してきました。大事件ですから次号に詳細を掲載の予定です。これもご期待下さい。その他多数の原稿が寄せられています。ご期待下さい。

★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。どしどしご応募下さい。掲載分には薄謝を呈します。

★本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 冬季号
UFO contactee 127号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒103東京都江戸川区本一色1-12-1-211
TEL 03-3655-1099
FAX 03-3655-1095
振替 00140-2-35912
一九九四年一〇月二五日発行
定価九七〇円(本体九〇〇円)・送料240円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京 本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会 場 費 ¥1000 セ ミ ナ ー 受 講 料 ¥1500 計 ¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 ※平成6年1月よりテキストを新ア 全集2巻「超能力開発法」に変更。 3:10→5:00 超能力開発練習/近況 報告/質疑応答。
大阪 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 平成4年1~10月=尼崎市立産業郷土会館 兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講 義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議 室。☎052-331-2141代。 JR 東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台 支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊橋橋経由動物公園方面バスで 約7~10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同 上
山形 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛 電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市 役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、事前に高野宛問 い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
沖縄 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	具市川市栄野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同 上
秋田 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6511。JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩 3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同 上
茨城 支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集會室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛事前に問い合 わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR 西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR 鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から 北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
九州 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※10月より会場と連絡先を右に変更。	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-7226	¥500	同 上
高松 支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同 上
伊豆 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同 上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130

金星のシンボルマーク



中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと観知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード〈超能力開発用〉

テレビシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥900 送料¥130 (2~5個)¥190



テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第7弾。1951年3月15日、午前10時30分、アダムスキーがパロマー山で6インチ反射望遠鏡を使用して連続4枚撮影した金星の母船の4枚目です。母船から6機のスカウトシップ(円盤)が発射されているのが見えます。

¥1,500 送料10枚まで¥80



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で活押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替か現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合は、ハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP 振替 00140-2-35912
☎03-3651-0958

申込先

日本GAP能力開発カセットテープ

★日本GAP東京本部月例セミナー

毎月開催される日本GAP東京本部月例セミナーから、久保田会長の「超能力開発法」解説講義と質疑応答その他を録音したテープ。これを聴けば絶大な信心と勇気がわきあがり、あらゆる障害を超えて成功に到達できます。

- テープ① ¥1500
(内容) 久保田会長による新アダムスキー全集第2巻「超能力開発法」の講義。近況報告。
- テープ② ¥1200
(内容) 会員による講義、超能力開発練習、質疑応答。
- 1993年度日本GAP総会2巻セット ¥2700

(内容) 久保田会長講演「信念と希望と絶対に譲めない」を引出す方法と成功の秘訣」質疑応答。総会テープのバックナンバーあり、往復ハガキでお問い合わせください。送料=テープ1本 ¥190、2-3本 ¥270、4-6本 ¥390



申込先 品名、〇年〇月分、個数、氏名、住所、電話番号をご明記の上、郵便振替でご注文下さい。(テープの代金後払い不可)
〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替 00100-2-162644

日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- 東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000
(内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。
- 日本GAP総会 全2巻 ¥3000
(内容) 毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)
- 日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000
(内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。
- 1992年度デザートセンター調査行 全1巻 ¥3000

(内容) 1952年11月20日、アダムスキーが金星人と通信した地点その他を調査した記録。送料は1本 ¥390、2本以上3本まで ¥700、4本以上1本までは距離に応じて変わります。



申込先 ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払い不可)
〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103
伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9526

UFO contactee

127号

九九四年一〇月二五日発行 発行所

日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511 電話番号00140-2-33912

定価九二七円(本体九〇円) 送料二四〇円